

JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）
活動事例集作成ワーキンググループ（第1回）

議事次第

日時：令和5年2月22日（水）
15:15～16:45
場所：総務省 902 会議室

議事

- 1 「JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集」（仮称）の作成について

（配付資料）

- 資料 1 「JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集作成ワーキンググループ」開催要綱
- 資料 2 事務局説明資料
- 資料 3 「JET 活用マニュアル」
（平成19年2月、一般財団法人自治体国際化協会）

「JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集作成ワーキンググループ」 開催要綱

1 開催趣旨

設立されてから 36 周年となる JET プログラムは、これまで 7 万 5 千人以上の外国青年を日本へ招聘してきており、各職種のうち、国際交流員（CIR）については、直近では 2018 年に事例集を作成し、その取組状況を把握するとともに、優良事例を全国の地方自治体に周知している。

一方で、参加者の大半を占める外国語指導助手（JET-ALT）については、2007 年を最後に事例集を作成しておらず、この間の社会経済情勢等の変化を踏まえ、現場でどのような活動を通じて、外国語教育の充実と地域の国際交流の進展を図り、日本と諸外国との相互理解の増進や日本の地域の国際化の推進に JET-ALT が貢献しているかについて、現状を十分に把握できていない。

については、JET-ALT の現在の取組を把握するとともに、その更なる活用を促進するため、「JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集」（仮称）を作成することを目的に、本ワーキンググループを開催する。

2 名 称

本ワーキンググループは、「JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集作成ワーキンググループ」（以下「ワーキンググループ」という。）と称する。

3 構成及び運営

- (1) ワーキンググループの構成員は、別添「構成員名簿」のとおりとする。
- (2) ワーキンググループは、必要があると認めるときは、関係団体等に意見聴取及び説明を求めることができる。
- (3) ワーキンググループは、構成員の自由闊達な議論を促進する必要がある、かつ JET プログラム外国語指導助手（JET-ALT）の個人情報を取り扱い得ることから、非公開とするが、終了後に配付資料を公表するとともに、速やかに議事概要を作成し、これを公表することとする。ただし、配布資料については、公開することによりワーキンググループの円滑な実施に影響が生じるおそれがある場合には、一部を非公開とすることができる。

4 開催期間

令和 5 年 2 月から令和 5 年 7 月頃までとする。

5 庶 務

庶務は、総務省自治行政局国際室において行う。

構成員名簿

浅原 寛子	文部科学省初等中等教育局教育課程課外国語教育推進室長
シェイニー・クロフォード	つくばインターナショナルスクール校長
小林 努	(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部長
土田久美子	駒澤大学文学部社会学科准教授
畑山 栄介	総務省自治行政局国際室長
馬目 政輝	鎌ヶ谷市教育委員会指導主事
渡邊 慎二	外務省大臣官房人物交流室長

(五十音順：敬称略)



事務局説明資料

令和5年2月22日
総務省
自治行政局国際室

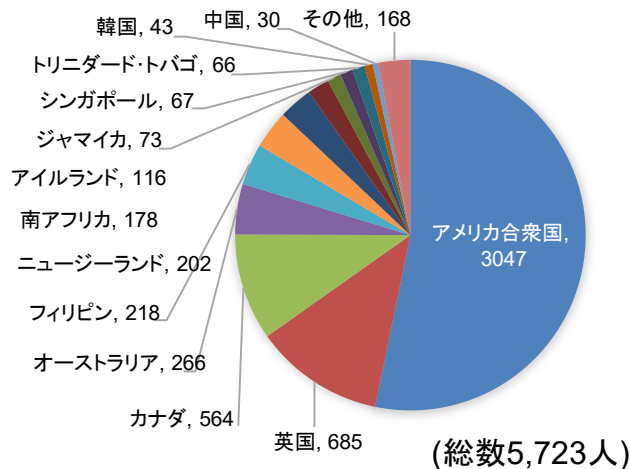
J E Tプログラムの概要

語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）

- JETプログラム(The Japan Exchange and Teaching Programme)は、総務省、外務省、文部科学省及び(一財)自治体国際化協会の協力の下、昭和62年度にスタートし、今年度で36周年。世界最大規模の人的交流プログラム(累計77か国から約7万5千人)として、全国各地の地域における国際化に寄与するとともに、参加者は帰国後も日本理解の促進に貢献。
- 地方自治体等の要望に基づき、日本政府の在外公館において外国青年を募集・選考 → 地方自治体等で任用(最長5年)

(1) 令和4年度の状況

◆ 招致国別の内訳



◆ 職種別内訳

- ALT(外国語指導助手) : 5,277人
⇒ 教育委員会や学校で、外国語教員等の助手として職務に従事
- CIR(国際交流員) : 437人
⇒ 地方公共団体の国際交流担当部局等で国際交流活動に従事
- SEA(スポーツ国際交流員) : 9人
⇒ スポーツを通じた国際交流活動に従事

※人数は、「令和4年度語学指導等を行う外国青年招致事業」の参加者数(R4.7.1時点)

(2) 地方財政措置

◆ 都道府県

- ・地方自治体におけるJET参加者の任用に要する経費(報酬・旅費など)について、普通交付税措置(標準団体(人口170万人)の場合、約2億5千万円)
- ・私立学校におけるJET参加者の雇用に係る都道府県の助成経費について、特別交付税措置(算定: 地方単独事業で一人上限602万円(自治体任用並び) × 0.5)

◆ 市町村

- ・地方自治体におけるJET参加者の任用に要する経費(報酬・旅費など)について、普通交付税措置等(標準団体(人口10万人)の場合、120万円 + JET参加者数 × 482万円)

JETプログラムにおけるALT、CIR及びSEAについて

※ 各事例は自治体国際化協会JETプログラムパンフレットより

ALT: Assistant Language Teacher (外国語指導助手) [令和4年度: 945自治体等が任用、31か国、5,277人]

- 主に学校（小学校・中学校・高等学校）、または教育委員会に配属され、日本人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わり、教育教材の準備や英語研究会のような課外活動等に従事。JET参加者の90%以上がALT。



授業の補助を行うALT(北海道)



生徒と語らうALT(北海道)



絵本を読み聞かせるALT(福島県浪江市)



園児と一緒に踊って歌うALT(岐阜県瑞浪市)

CIR: Coordinator for International Relations (国際交流員)

[令和4年度: 249自治体等が任用、35か国、437人]

- 主に地方公共団体の国際交流担当部局等に配属され、国際交流関係事務、地域住民の異文化理解のための交流活動に加え、多文化共生や外国人住民への支援、海外販路開拓等の業務に従事（高い日本語能力が求められる）。



FMIに出演し、モンゴル文化等を紹介するCIR
(静岡県伊豆の国市)



料理教室にて講師を務めるCIR
(滋賀県彦根市)



FISA国際ポート連盟臨時総会で通訳するCIR
(兵庫県豊岡市)

SEA: Sports Exchange Advisor (スポーツ国際交流員)

[令和4年度: 7自治体等が任用、7か国、9人]

- 主に地方公共団体のスポーツ振興部局等に配属され、特定種目のスポーツ専門家として、スポーツ指導に加え、スポーツ関連事業の立案補助等の業務に従事。



サッカー少年団を指導するドイツからのSEA(北海道東川町)



試合前にボートの指導をするアメリカからのSEA(長崎県)

J E Tプログラム参加者の地域活性化への活用について

「JET地域国際化塾」の開催

- 地域で生活するJET青年が地域の国際化の取組に、より一層貢献し、力強い「日本のサポーター」として活躍してもらえるよう、自治体・地域づくり関係者との交流の場である「JET地域国際化塾」を開催し、地域づくりの優良事例やノウハウ等を学び、自治体・地域づくり関係者の想いを理解・共有できるようにする。
- また、自治体・地域づくり関係者においても、JET青年からの新たな視点を通じたグローバルな視点を持った地域活性化の取組が促進できるようにする。

○参加人数 70～80名程度

（開催県等のJET青年、JETプログラム経験者、自治体・地域づくり関係者、各団体の国際・地域振興部局の職員、学者、NPO法人 等）

○実施内容

- ・地域おこし協力隊等の地域で活動を行う方による事例発表
- ・地域づくり関係者が活動する地域での現地視察及びグループワーク 等

JET青年、JETプログラム経験者

地域への愛着心・日本理解の深化について、全国のJETネットワークで成果を共有

地域の優良事例や
ノウハウ等の共有

自治体・地域づくり関係者

外国人の視点を踏まえた多様な地域振興の実現



地域の国指定重要文化財の維持や地域文化の継承の重要性について、地域づくり関係者との車座等を行う
J E T 青年参加者(R4.10月福井県)
左：千古の家 右上：漆器工房

※平成27年度から令和4年度までに7回実施 H27 石川県、H29 茨城県、H30 青森県、R1 宮崎県、R2鳥取県、R3 兵庫県、R4 福井県、R5 山梨県（予定）

JETプログラム経験者の活用

- 約7.5万人のJETプログラム経験者が世界各地で、親日派・知日派として活躍。
- JETプログラム経験者の会（JETAA）を中心に、日本文化の普及活動等に取り組んでいる。
- 各国との友好関係を草の根レベルで支えており、日本の各地域の魅力等を発信する際の貴重な人的資産となっている。

※JETAA (Alumni Association): 19か国53支部。会員数は約22,000人



イベント来場者にJETプログラムを紹介
(JETAA NY支部)

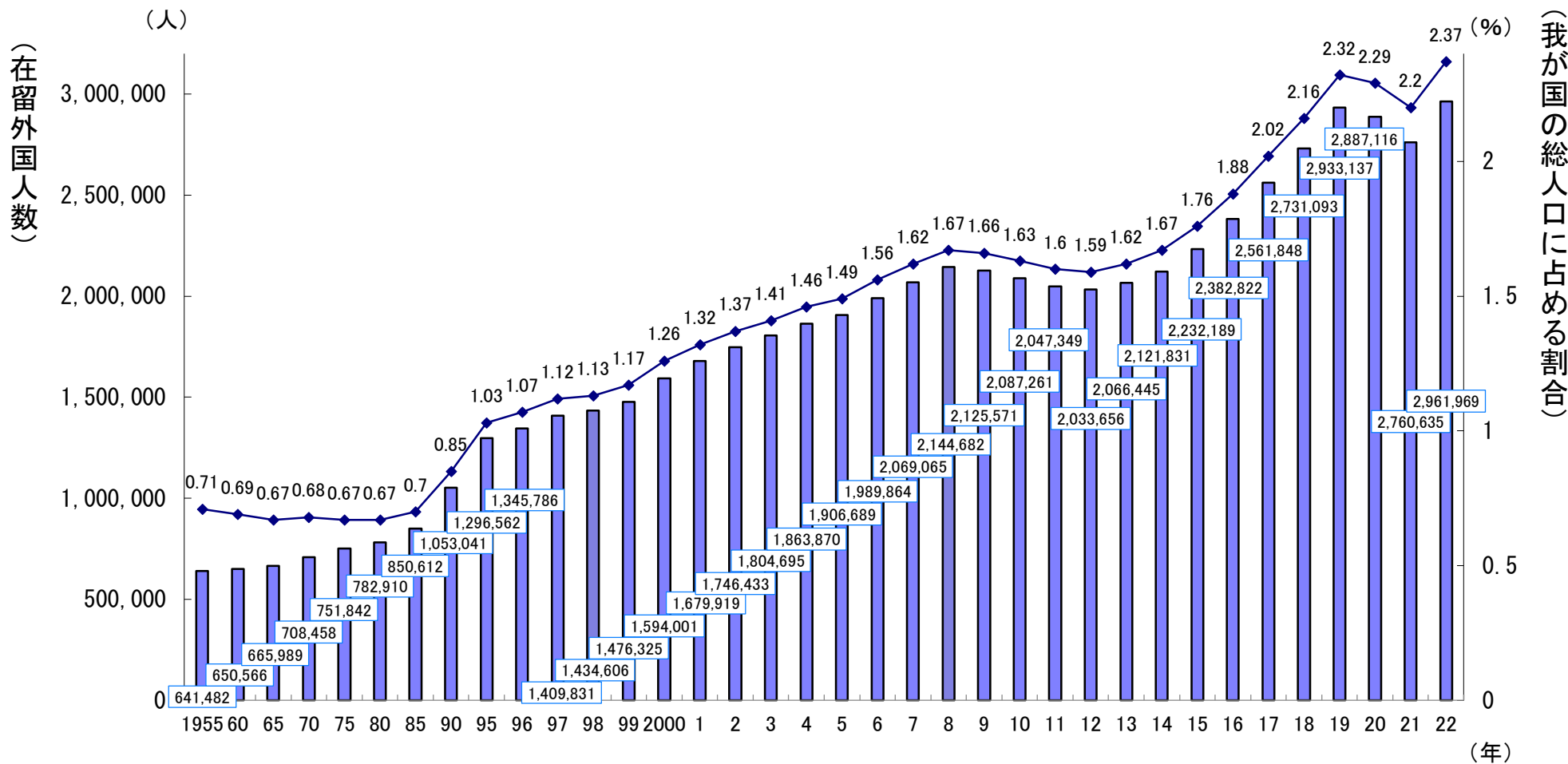


茶道パフォーマンスを開催
(JETAA North-West支部)

J E Tプログラムを取り巻く 社会経済情勢等の変化

在留外国人数の推移

○ 在留外国人数は1990年ごろから大幅に増加し、リーマン・ショック(2008年)後減少に転じたものの、2013年から再び増加傾向となった。2020年に新型コロナウイルス感染拡大の影響により再び減少に転じたが、2022年には再び増加し、6月時点においては296万人となり過去最高を更新した。



(注1)「在留外国人数」は、各年12月末現在(22年のみ6月末現在)(法務省在留外国人統計)。「我が国の総人口に占める割合」は、総務省統計局「国勢調査」及び「人口推計」による各年10月1日現在。

(注2)昭和60年までは外国人登録者数、平成2年から平成23年までは、外国人登録者数のうち「中長期在留者」に該当し得る在留資格をもって在留する者及び「特別永住者」の数。

地域における多文化共生施策の促進

○総務省では、地方公共団体における多文化共生の推進に係る指針・計画の策定に資するため、「地域における多文化共生推進プラン」を策定しているほか、全国の多文化共生に係る取組の好事例を集めた「多文化共生事例集」を作成し、地域における多文化共生施策を促進。

地域における多文化共生推進プラン（令和2年度）

○外国人住民の増加・多国籍化、在留資格「特定技能」の創設、多様性・包摂性のある社会実現の動き、デジタル化の進展、気象災害の激甚化等の社会経済情勢の変化を踏まえて、令和2年9月に改訂

【具体的な施策】

(1) コミュニケーション支援

- ①行政・生活情報の多言語化、相談体制の整備
- ②日本語教育の推進
- ③生活オリエンテーションの実施

具体的な事例

(2) 生活支援

- ①教育機会の確保
- ②適正な労働環境の確保
- ③災害時の支援体制の整備
- ④医療・保険サービスの提供
- ⑤子ども・子育て及び福祉サービスの提供
- ⑥住宅確保のための支援
- ⑦感染症流行時における対応

具体的な事例

(3) 意識啓発と社会参画支援

- ①多文化共生の意識啓発・醸成
- ②外国人住民の社会参画支援

具体的な事例

(4) 地域活性化の推進やグローバル化への対応

- ①外国人住民との連携・協働による地域活性化の推進グローバル化への対応
- ②留学生の地域における就職支援

具体的な事例

【多文化共生施策の推進体制の整備】

- (1) 地方公共団体の体制整備
- (2) 地域における各主体との連携・協働

具体的な事例

多文化共生事例集（令和3年度版）

○改訂したプランを踏まえ、また、新型コロナウイルス感染症の拡大による外国人住民への影響等に対応している新たな取組事例を入れて、令和3年8月に公表

【主な掲載事例】 () は事例の数

(1) コミュニケーション支援(17)

- ①一元的相談窓口の開設・運営 等(9)
- ②日本語教室での日本人住民と外国人住民の交流の場の創出 等(6)
- ③生活設計支援冊子の作成 等(2)

(2) 生活支援(53)

- ①就学前教室 等(12)
- ②技能実習生の受入環境の整備 等(9)
- ③災害時防災リーダーの養成 等(11)
- ④医療現場への「やさしい日本語」の導入と普及 等(5)
- ⑤外国人保護者とのコミュニケーション支援ツールの作成 等(7)
- ⑥多言語対応が可能な不動産業者の紹介 等(3)
- ⑦動画を活用した情報発信 等(6)

(3) 意識啓発と社会参画支援(12)

- ①外国人住民向けのガイドブックの作成と日本人向けのワークショップの開催 等(7)
- ②多文化共生キーパーソンを活用した地域づくり 等(5)

(4) 地域活性化の推進やグローバル化への対応(9)

- ①観光分野における外国人住民の取組 等(4)
- ②大学とハローワークとの留学生就職支援協定の締結 等(5)

(5) 多文化共生施策の推進体制の整備(6)

- (1) 多文化共生に係る連携体制の整備 等(3)
- (2) 広い主体と連携した指針・計画の策定 等(3)



▲外国人相談窓口の様子



▲外国人防災リーダー養成研修の様子



▲アートプロジェクト(ワークショップ)の様子



▲外国人住民が運営する会社による職業体験の様子



▲県と町が共催する「地域日本語教室」の様子

→ 引き続き、地域の実情を踏まえて多文化共生施策を推進するよう地方公共団体に依頼

外国人住民との連携・協働による地域活性化等に係る事例

事例	概要
外国人材を活用した インバウンド誘致 (岐阜県美濃加茂市)	<ul style="list-style-type: none"> • 地域内の観光資源の再発見等をテーマにしたワークショップを開催。 • ワークショップには外国人住民が参加し、<u>外国人ならではの視点を生かして、電動アシスト自転車での観光ルートを作成するなど、外国人旅行者により長く滞在してもらうための対応策を検討。</u>
観光分野における 外国人住民の取組 (大分県)	<ul style="list-style-type: none"> • 外国人住民が大分県杵築市に旅行会社を設立し、<u>海外の学生向けに農業体験や農家への宿泊など地元農家と連携したツアー旅行を企画。</u> • 人口減少・高齢化による<u>耕作放棄地、森林、民家等の再生</u>を手がけ、農村風景を保護しながら、その風景を観光資源として活用。
ふくい外国人コミュニティリーダー (福井県/(公財)福井県国際交 流協会)	<ul style="list-style-type: none"> • 県内在住の外国人に、<u>地域での外国人住民と行政機関との橋渡し役となる「ふくい外国人コミュニティリーダー」を委嘱し、行政などが発信する生活・災害情報を母国語で発信するとともに外国人住民の課題やニーズを行政に共有するなど、双方への情報発信役として活動。</u>

- CEFR※
- B2**
(英検準1級等)
 - B1**
(英検2級等)
 - A2**
(英検準2級等)
 - A1**
(英検3級等)

旧学習指導要領 (H20・21改訂)

- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分

高等学校

英検準2級程度以上の生徒
40.2% (目標50%) *H30

- ・学習意欲、発信力に課題
- ・言語活動が十分でない

中学校

年間140単位時間
(週4コマ程度)

英検3級程度以上の生徒
42.6% (目標50%) *H30

- ・小学校の学習経験が十分に生かされていない
- ・言語活動が十分でない

小学校

年間35単位時間
(週1コマ程度)

活動

- ・音声を中心に英語に慣れ親しんでいる
- ・中学校入学時の学習意欲が向上

高校卒業レベル
旧: 3,000語程度
新: 4,000
~ 5,000語程度

高等学校で
旧: 1,800語程度
新: 1,800
~ 2,500語程度

中学校で
旧: 1,200語程度
新: 1,600
~ 1,800語程度

小学校で
新: 600
~ 700語程度

学習指導要領 (H29・30改訂)

小・中・高等学校を通じた5つの領域別(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」)の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成

高等学校

- ・5領域を総合的に扱う科目群(英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ,Ⅲ)、ディベートやディスカッション等を通して**発信力を高める科目群**(論理・表現Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ)を設定
- ・授業は外国語で行うことを基本(前回改訂より)

年間140単位時間(週4コマ程度)

中学校

- ・外国語で**自分自身の考えや気持ちなどを伝え合う対話的な活動**を重視
- ・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを**実際に活用する言語活動を充実**
- ・授業は**外国語**で行うことを基本

小学校

- 5・6年(教科)** 年間70単位時間(週2コマ程度)
- ・音声に十分慣れ親しんだ上で、段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
 - ・指導の系統性を確保 15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能
- 3・4年(活動)** 年間35単位時間(週1コマ程度)
- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を中心
 - ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める



高校生のための
学習の基礎診断

【2019年度～】



全国学力・
学習状況調査

※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する調査を実施

【2019年度～】

※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

- 令和元年度から、GIGAスクール構想により、全ての小中学校等を対象に1人1台端末を整備。
- 令和6年度から、全ての小中学校等を対象に、小学校5年生から中学校3年生に英語のデジタル教科書を提供。
→ **ネイティブの音声に触れる機会や海外の児童生徒との交流機会が拡充するなど、外国語教育はより一層充実。**

◆授業での「話すこと」「聞くこと」の活動の充実



(京都教育大学附属桃山小学校)

タブレット端末を活用した
絵・文字・音声による単語学習

- ・児童が日本の食べ物の特徴や味に関する表現をタブレット端末を使って数分練習したり、語から連想する食べ物をペアで言い合う。
- ・絵と文字を見て、児童がどんどん単語を言っていく。
わからなければ、音声を聞くことも可能。



タブレット端末を
使用した個別の発音練習

タブレット端末で音声を聞き、
個別学習で発音練習を行っている。

◆ALTの授業への参画形態の多様化

ALTがオンラインで
各校の授業に参加



(青森市教育センター)

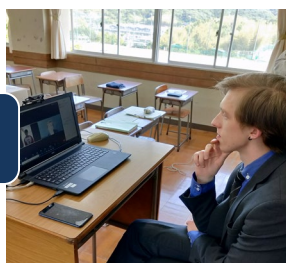
中山間地の生徒が
都市部のALTに
オンラインでスピーチ

(静岡市立大川小中学校)



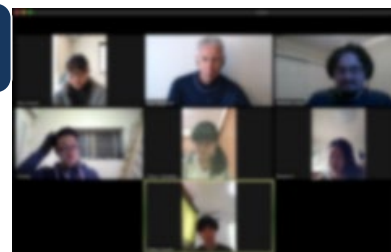
ALTと生徒が
マンツーマンで対話

(山口県立華陵高校)

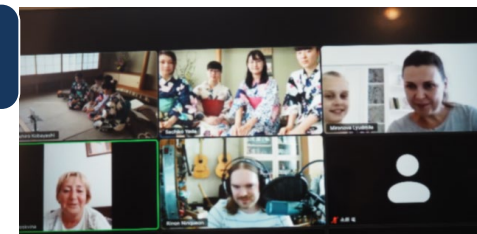


ALTと生徒で
グループワーク

(船橋市立船橋高校)



姉妹校の生徒と
交流



(北海道札幌国際情報高校)

◆海外との交流活動の充実

海外からの留学生に
オンラインで学校案内

(大田区立洗足池小学校)



総務省・NICTにおける多言語翻訳技術の研究開発

- 総務省・NICTでは、長期間にわたり多言語翻訳技術の基礎研究を実施し、技術・ノウハウ等を蓄積。
- 訪日・在留対応を想定した**12言語**について、AI技術活用により**実用レベルの翻訳精度**(TOEIC900点相当)を実現。



対応言語(31言語)

重点対応言語 (実用レベル)
訪日・在留外国人対応を想定した**12言語**

日本語	ベトナム語
英語	ミャンマー語
中国語	フランス語
韓国語	スペイン語
タイ語	ブラジルポルトガル語
インドネシア語	フィリピン語

クメール語 ネパール語 モンゴル語
(研究開発を通じて2024年度末までに重点化予定)

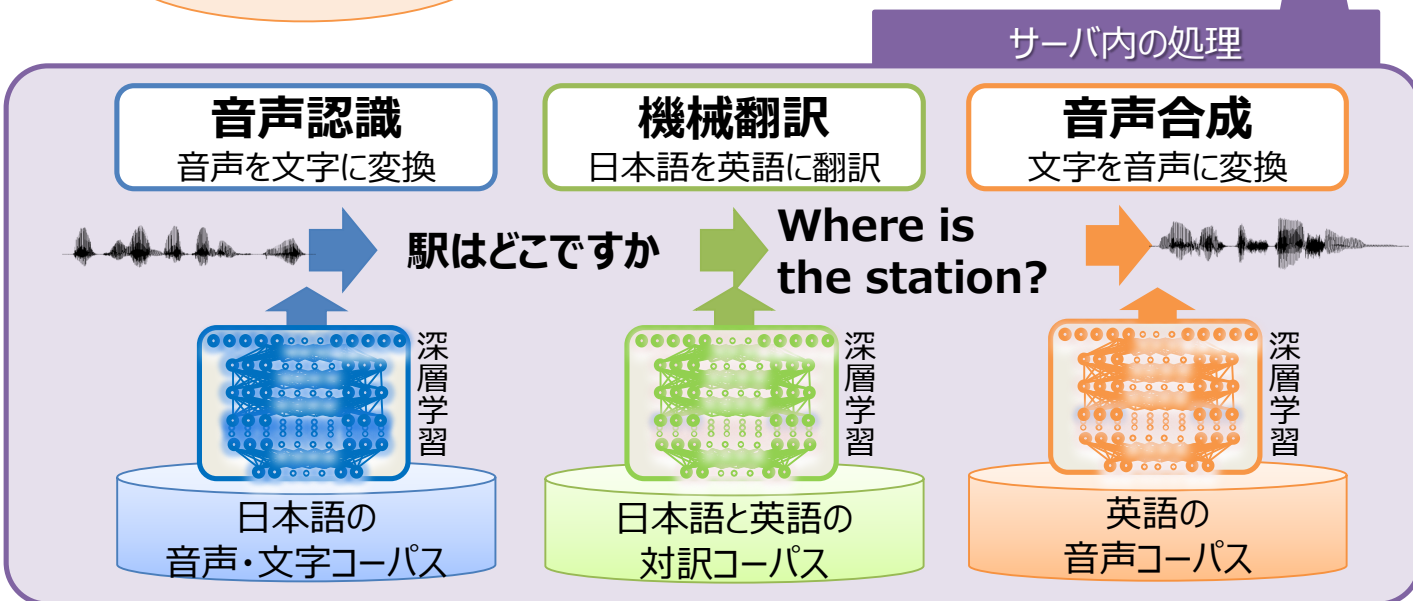
アラビア語 イタリア語 ドイツ語
ヒンディ語 ロシア語
(令和3年度補正予算により2022年度末を目標に重点化)

ウクライナ語
(令和4年度補正予算により2023年度末を目標に重点化)
ウルドゥ語 オランダ語 シンハラ語
デンマーク語 トルコ語 ハンガリー語
ポーランド語 ポルトガル語 マレー語 ラオ語

ボイストラ(VoiceTra)アプリ



(業務利用の場合は民間サービスを検討ください。)



多言語翻訳技術の社会実装

➤ NICTにおいて翻訳エンジンを開発し、ライセンス契約により民間企業に利用を開放する仕組み構築。

➤ 官公庁・自治体※のほか、防災・交通・医療等の幅広い分野において活用。

※多言語翻訳サービスの導入・運用経費を対象とした特別交付税措置等を活用して導入が進展

※地域の多文化共生推進のため、都道府県・政令市等に、翻訳技術の活用推進について通知(2021年4月)



音声翻訳サービスの例

ポケットク(株)
●「POCKETALK」



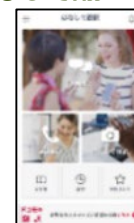
凸版印刷(株)
●「VoiceBiz」



コニカミノルタ(株)
●「医療通訳MELON」



(株)NTTドコモ
●「はなして翻訳」



RemoSpace(株)
●「eTalk5みらいPFモデル」



文書翻訳サービスの例

(株)十印
●「T-tact AN-ZIN」



(株)川村インターナショナル
●「みんなの自動翻訳@KI」



(株)みらい翻訳
●「Mirai Translator」



NTTコミュニケーションズ(株)
●「COTOHA Translator」



東芝デジタルソリューションズ(株)
●「DOCCAI翻訳」



多言語翻訳技術における関係省庁・分野連携の取組

➤ 多言語翻訳技術は官民を問わず様々な分野で利活用が拡大。各分野での翻訳精度を向上させるため、関係省庁・関係企業等との連携協力により、**対訳データ（学習用データ）**を収集する取組も実施。



厚労省が、労働分野の多言語用語集と対訳データを作成し、翻訳技術の精度向上のため総務省・NICTに提供 (2021.3.30報道発表)

金融庁が、国際金融センターの取組の一環で、NICTと連携した金融分野のデータ収集と翻訳エンジンを開発 (2022.3.11報道発表)

公的機関による導入事例

- 警察庁、金融庁、総務省、消防庁、法務省、外務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、特許庁、環境省、防衛省
(各省庁からの聞き取りを元に掲載)
- 自治体においても、多言語翻訳サービスの導入・運用経費を対象とした特別交付税措置等を活用して導入が進展

地域の多文化共生推進のため、総務省から全都道府県・政令市等向けに、NICT翻訳技術の更なる活用の推進について通知発出 (2021.4.23)

(参考) 教育現場への導入事例

- 外国人生徒だけでなく、保護者とのコミュニケーションにおいて、多言語音声翻訳の活用が進展。
- これにより、授業の円滑化だけでなく、現場負担の軽減にも貢献。

ポケットーク(株) 「ポケットーク」



端末型の他、アプリでも提供

凸版印刷(株) 「VoiceBiz」



スマートフォンやタブレットで利用可能なアプリとして提供

導入事例① 滋賀県湖南市

日本語教室で生徒とのコミュニケーションで利用

日枝中学校には全校生徒の約10パーセントの外国籍生徒が在籍。生徒本人の意向に合わせ、一部の授業を日本語教室で受けることができ、先生がポケットークで授業の説明を行なうなど、生徒とのコミュニケーションで利用が進んでいます。

導入事例② 愛知県碧南市

生徒本人や保護者との連絡に市内全小中学校で導入

市内には358人の外国籍生徒が在籍。国籍も、ブラジル、ペルー、アルゼンチンなどさまざま。これまでは通訳アシスタントや日本語教育の指導教室で対応されていましたが、外国籍の子供の転入が相次ぎ、ポケットークを導入されました。「授業や指導は通訳を入れ、丁寧にフォローする必要がある。一方、簡単な連絡事項のやりとりは翻訳機を通して対応して、現場の負担を減らしたい」(市教育委員会)

ソースネクスト社資料より



手のひらサイズの翻訳機として、生徒本人だけでなく、保護者の方々との連絡など幅広く利用可能

翻訳機能に加え、教育機関でよく使う定型文の訳文を予め準備しており、すばやく参照可能

今後の進め方

「JET活用マニュアル」(平成19年2月)の目次

「これぞ定番！」活用法(入門編)

(1) 学校での定番活用法

- 英語指導用ビデオ教材作成(山形県 村山市)
- 中学生の海外派遣研修に係る国内事前研修(大分県 玖珠町)
- 小学校英語指導法研修会(埼玉県 吉見町)
- その他の事例

(2) 定番！語学講座

- 英会話教室(愛媛県 砥部町)
- 親子教室へのALT派遣(鹿児島県 長島町)
- 小学生を対象とした夏休み英語教室(鳥取県 江府町)
- その他の事例

(3) 国際理解・交流イベントでの活用法

- 国際理解出前講座(山形県)
- 異文化交流講座・料理編(福井県 坂井市)
- 国際交流キャンプ(千葉県 館山市)
- その他の事例

(4) これからの定番！「経済」「多文化共生」

- 外国人向け英文情報誌の作成(北海道 旭川市)
- 観光立村事業での活用(富山県 立山町)
- その他の事例

「チャレンジ！」達人の面白活用事例(上級編)

(1) 奈良県JET青年連絡協議会(奈良県)

(2) 英語でハイキング(滋賀県)

(3) 「ブラジル人学校における日本の生活・文化講習会」 －第2回／交通安全教室－(岐阜県)

(4) 消防組合職員対象の英会話教室(青森県 弘前市)

(5) 小・中・高校の連携による英語劇指導(愛知県)

(6) 適応指導教室へのALT派遣(三重県 伊賀市)

(7) 市民への英会話テレホンサービス“ハローフレンズ”(兵庫県 三木市)

(8) 英語ガイドボランティア団体との交流(長野県 上田市)

(9) 学童保育へのJET派遣「めだかの学級」(福岡県 行橋市)

(10) 外国語での対応が可能な医療機関のデータベース化(新潟県)

(1) 外国語教育の充実に資する事例

- 授業内の外国語教育に資する取組（教材作成、指導法、外国語教員への研修等）
- 授業以外の外国語教育に資する取組（スピーチコンテスト指導、外部外国語試験指導等）
- 授業以外の異文化理解・国際交流等の取組（文化祭等のイベント、部活動その他の課外活動等）
- JET-ALTが力を発揮しやすくなる体制づくり等の取組
- 夏季等の長期休業期間中のJET-ALTの活動等の取組 等

(2) 地域の国際化に資する事例

- 地域の異文化理解・国際交流に資する取組（住民等向け語学講座、異文化交流イベント等）
- JET-ALTが参加する地域活性化に資する取組
（地域の魅力発掘・情報発信、インバウンド向け観光振興、地域の課題解決・地域づくり等）
- 多文化共生に資する取組
（地域に居住・滞在する外国人の生活支援、コミュニケーション支援、社会参画支援に資する取組等）
- 教育委員会と国際交流担当部局又は地域国際化協会等が連携している取組 等

事例調査案（外国語教育の充実に資する事例）

外国語教育の充実に資する事例

取組の名称

任用団体の名称（例：A県B市）

取組のポイント

- 取組の概要、特徴、特に知ってほしい点などがわかるように端的に記載して下さい。

団体の基本情報

人口：〇〇人

JET-ALTの任用人数：〇〇人

学校数：小学校〇校、中学校〇校、高等学校〇校、特別支援学校〇校

取組の背景・課題

※取組を実施するに至った背景や課題（外国語教育を進める上で生じていた課題）を記載して下さい。

取組の内容

※実際に行っている取組の内容を、以下の点を参考に記載して下さい。

- ✓ 先進的な取組や他の地域でも抱えている課題に対応した取組など、他の自治体のモデルとして参考になる点
- ✓ 地域の特性を踏まえた独自の発想や地域の実情に合わせて創意工夫した点
- ✓ 取組を進めるに当たって苦労した点や課題への対応
- ✓ 他のJET-ALT、CIR、SEA、JET経験者、地域国際化協会、地域団体、NPO、地域の外国人コミュニティなど多様な主体と連携・協働した点
- ✓ その他、取組の特長・長所

取組の内容（続き）

※実際に行っている取組の内容を、以下の点を参考に記載して下さい。

- ✓ 先進的な取組や他の地域でも抱えている課題に対応した取組など、他の自治体のモデルとして参考になる点
- ✓ 地域の特性を踏まえた独自の発想や地域の実情に合わせて創意工夫した点
- ✓ 取組を進めるに当たって苦労した点や課題への対応
- ✓ 他のJET-ALT、CIR、SEA、JET経験者、地域国際化協会、地域団体、NPO、地域の外国人コミュニティなど多様な主体と連携・協働した点
- ✓ その他、取組の特長・長所

取組の成果・今後の展望

※成果は必ずしも定量的な成果（客観的な指標）である必要はなく、定性的な成果（参加者の評価など）でも、あれば記載して下さい。

※今後どのように取組を発展させていきたいか、目指す方向性があれば記載して下さい。

問合せ先

担当部署名：

TEL：

MAIL：

URL：

QRコード

事例調査案（地域の国際化に資する事例）

地域の国際化に資する事例

取組の名称

任用団体の名称（例：A県B市）

取組のポイント

- 取組の概要、特徴、特に知ってほしい点などがわかるように端的に記載して下さい。

団体の基本情報

団体の人口：〇〇人

JET-ALTの任用人数：〇〇人

学校数：小学校〇校、中学校〇校、高等学校〇校、特別支援学校〇校

取組の背景・課題

※取組を実施するに至った背景や課題（地域で生じていた課題）を記載して下さい。

取組の内容

※実際に行っている取組の内容を、以下の点を参考に記載して下さい。

- ✓ 先進的な取組や他の地域でも抱えている課題に対応した取組など、他の自治体のモデルとして参考になる点
- ✓ 地域の特性を踏まえた独自の発想や地域の実情に合わせて創意工夫した点
- ✓ 取組を進めるに当たって苦労した点や課題への対応
- ✓ 他のJET-ALT、CIR、SEA、JET経験者、地域国際化協会、地域団体、NPO、地域の外国人コミュニティなど多様な主体と連携・協働した点
- ✓ その他、取組の特長・長所

取組の内容（続き）

※実際に行っている取組の内容を、以下の点を参考に記載して下さい。

- ✓ 先進的な取組や他の地域でも抱えている課題に対応した取組など、他の自治体のモデルとして参考になる点
- ✓ 地域の特性を踏まえた独自の発想や地域の実情に合わせて創意工夫した点
- ✓ 取組を進めるに当たって苦労した点や課題への対応
- ✓ 他のJET-ALT、CIR、SEA、JET経験者、地域国際化協会、地域団体、NPO、地域の外国人コミュニティなど多様な主体と連携・協働した点
- ✓ その他、取組の特長・長所

取組の成果・今後の展望

※成果は必ずしも定量的な成果（客観的な指標）である必要はなく、定性的な成果（参加者の評価など）でも、あれば記載して下さい。

※今後どのように取組を発展させていきたいか、目指す方向性があれば記載して下さい。

問合せ先

担当部署名：

TEL：

MAIL：

URL：

QRコード

スケジュール案

	令和5年2月	3月	4月	5月	6月
WG	<p>第1回</p> <p>〔事例調査の内容・事例選定の視点等に関する議論〕</p>		<p>第2回</p> <p>〔掲載候補事例の提示、事例集骨子案に関する議論〕</p>		<p>第3回</p> <p>〔事例集案のとりまとめに関する議論〕</p>
事例調査・作成作業		<p>← 事例調査 →</p>	<p>← 事例集案作成 →</p>		

○事例集の掲載項目・掲載すべき事例

- （１）外国語教育の充実に資する事例
- （２）地域の国際化に資する事例

○調査・事例選定の進め方

○事例選定の視点

- ・（先進的な取組や他の地域でも抱えている課題に対応した取組など）他の自治体のモデルとして参考になる取組
- ・地域の特性を踏まえた独自の発想や地域の実情に合わせて創意工夫した取組
- ・他の多様な主体（JET-ALT、CIR、SEA、JET経験者、地域国際化協会、地域団体、NPO、地域の外国人コミュニティ等）と連携・協働した取組
- ・地域の国際化推進に効果的であり、一定の成果が上がっている取組

○推薦事例 等



なるほど!

JET活用マニュアル

～全国の事例から～



財団法人 自治体国際化協会

この冊子は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。

はじめに

本書は、平成18年度に行われたJETプログラム参加者の活用事例調査に基づいて作成されました。全国の契約団体から活用事例を募集したところ、700を超える事例をご紹介いただきました。ご協力いただきました皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

収集した事例については、その内容を分類・分析し、その中から、多くの契約団体で行われている、いわば「定番」といえる活用法と、他では見られないユニークな活用法との両方を選んで掲載することとしました。定番活用法については、新しくJET担当になられた方がすぐに着手できるマニュアルとして、また、ユニークな活用法については、経験豊富なベテラン担当者が更に活用の幅を広げるヒントとして、それぞれご活用いただけるものにしようという趣旨です。

掲載を決定した事例は、あらためて個別にその詳細について取材を行い、本書にまとめました。快く取材に応じ、また資料を提供していただいたご担当の方々にあらためて御礼申し上げます。

本書の表題は「JET活用マニュアル」となっています。内容から見れば、マニュアルというよりも事例集と呼ぶべきものですが、本書を参考にしながら新しいJETの活用に挑戦したり、あるいは新しく事業をはじめるときに「この部分は、あの事例ではどうなっていたらう」と確認したり、といった使い方をしていただければと、このようなタイトルにしました。

本書によって、JETプログラム参加者が様々な場面で活用され、JETプログラムの可能性が大きく広がることを願っています。

平成19年2月
財団法人自治体国際化協会

目次

「これぞ定番！」活用法 (入門編)

(1) 学校での定番活用法	5
● 英語指導用ビデオ教材作成 (山形県 村山市)	6
● 中学生の海外派遣研修に係る国内事前研修 (大分県 玖珠町)	10
● 小学校英語指導法研修会 (埼玉県 吉見町)	12
その他の事例	18
(2) 定番！語学講座	19
● 英会話教室 (愛媛県 砥部町)	20
● 親子教室への ALT 派遣 (鹿児島県 長島町)	25
● 小学生を対象とした夏休み英語教室 (鳥取県 江府町)	26
その他の事例	30
(3) 国際理解・交流イベントでの活用法	31
● 国際理解出前講座 (山形県)	32
● 異文化交流講座・料理編 (福井県 坂井市)	38
● 国際交流キャンプ (千葉県 館山市)	42
その他の事例	48
(4) これからの定番！「経済」「多文化共生」	49
● 外国人向け英文情報誌の作成 (北海道 旭川市)	50
● 観光立村事業での活用 (富山県 立山町)	55
その他の事例	56

「チャレンジ！」達人の面白活用事例 (上級編)

(1) 奈良県 JET 青年連絡協議会 (奈良県)	58
(2) 英語でハイキング (滋賀県)	64
(3) 「ブラジル人学校における日本の生活・文化講習会」(岐阜県) ー第2回/交通安全教室ー	70
(4) 消防組合職員対象の英会話教室 (青森県 弘前市)	74
(5) 小・中・高校の連携による英語劇指導 (愛知県)	78
(6) 適応指導教室への ALT 派遣 (三重県 伊賀市)	86
(7) 市民への英会話テレホンサービス “ハローフレンズ” (兵庫県 三木市)	88
(8) 英語ガイドボランティア団体との交流 (長野県 上田市)	89
(9) 学童保育への JET 派遣「めだかの学級」(福岡県 行橋市)	90
(10) 外国語での対応が可能な医療機関のデータベース化 (新潟県)	93

「これぞ定番！」

活用法（入門編）

本章では、JETプログラム活用事例調査に寄せられた事例の中から、特に類似の事例が多かったものを取り上げ、「定番」として紹介します。
4分類、11事例をとりあげています。



「これぞ定番！」活用法

(1) 学校での定番活用法



事業概要

(1) 内容

小学生を対象とした英語の教材ビデオを作成する。「ジェニファーとチャールズの楽しい英会話(The Jen and Chaz)」と題し、全6巻を1枚のDVDにまとめた。各巻にあいさつ、色、動物などのテーマを設定し、ストーリー性のあるテレビ番組仕立ての内容となっている。完成品は市内の小学校に配布した。

(2) 目的及び効果

テレビ番組のように見ることができると、授業での活用はもちろん、給食の時間等にも放映することで、小学生が英語に親しむ機会を提供できる。

期間	1年6ヶ月 (作成期間)
場所	市内各所 (ロケーション)
対象	小学校
規模	20枚(作成枚数)
主催	市教育委員会
予算	1～2万円

■ 実施の流れ

もともとALTの発案によるもので、企画から撮影・編集まで全て2名のALTで行った。1巻を作成するのに約1～2ヶ月かかっている。

1. 企画・立案

はじめにテーマを決め、簡単な台本を作成する。テーマは、クリスマスなど季節に沿ったもののほか、普段小学校で教えている経験から、小学生が興味を示しそうな題材を選んだ。

たとえば数字について扱う場合には、子供がよく知っている町のケーキ屋さんが登場してケーキを数えるシーンを用意する。知っている人が登場するだけで子供は非常に興味を示す。

この段階での台本は手書きのメモ程度で、細かい部分は撮影しながら決めていった。

2. 撮影

撮影に使用した機材は、家庭用のminiDV規格のカメラと三脚のみ。照明は使わず、音声もカメラの付属マイクしか使っていない。

市の北村山視聴覚教育センターが市庁舎に隣接して

おり、機材は全てここで借りることができた(市民に無料で貸し出している)。

屋外でのロケも多く行っているが、撮影もALT2名のみで行い、カメラスタッフ等は使っていない。事前にロケハンを行い、スーパーマーケットなど私有地での撮影は事前に許可をとった。特にスーパーでは、商品名など撮影の制約が多く、支配人と1時間にわたり打ち合わせをする必要があった。

毎週月曜日を教育委員会勤務日としているので、ほとんどその日に1日で撮影をしてしまう。

衣装や小道具は100円ショップや中古品店などで調達した。

3. 編集

編集には、パソコンの動画編集ソフトを使用した。これも北村山視聴覚教育センターに備え付けのものを借用した。

編集作業は、学校の授業が終わった後、毎日2時間程度視聴覚教育センターに通い、3週間程度をかけて行われた。編集もALT2名で行うが、編集ソフトの使い方や、必要な効果をどのように実現するかといった技術的な部分は、視聴覚教育センターの技術スタッフの助言指導を受けながら行った。

テロップの作成や、効果音の挿入など、編集作業は全体で一番手間のかかる行程であった。なお、効果音やBGMは全て著作権フリーの素材集を使用している。

4. 配布

出来上がったものは、VHSテープにダビングし、市内の小学校へ配布した。

学校への配布は、教育委員会の連絡ボックス経由で行った(学校ごとにボックスがあり、学校への送付物はそこへ入れておけば定期的に学校の担当者が取りに来る)。



【事例提供】村山市（山形県）教育委員会 学校教育課 0237-55-2111(代)



ALT の一人は日本語が堪能なので、送付書（説明書）も ALT が作成した。

5. DVD 作成

6 巻まで作成した段階で、DVD 1 枚にまとめた。ダビング、ラベル、パッケージも全て ALT による手作り。DVD のオーサリング (DVD で見られるように、データを変換し、章の構成を作ること) 自体は 1 日で完成した。

■ 予算

文部科学省「小学校英語活動地域サポート事業」助成事業の一部として作成した。ただし本ビデオ作成部分にかかった費用は 2 万円弱。

撮影・編集に必要な機材や設備をすべて視聴覚センターから無料で借りられるという好条件があったため。



(担当者からのコメント・アドバイスなど)

構成がとてもよく、子どもはもちろん、大人も楽しめる作品になっています。学校でもいろんな場面で活用しています。この作品からも伝わってきますが、2 名の ALT のアイデアと情熱は素晴らしいものがあり、村山市の英語教育が大きく前進しました。

クレアの独り言

作成に携わった ALT の一人は、来日時には日本語がまったく話せなかったのですが、編集ソフトの日本語メニューなどが読めず苦労したそうです。そのことがきっかけで日本語を勉強し始め、2 年後には全てのメニューやダイアログが読めるようになったとのこと。

クレア = 自治体国際化協会 (CLAIR)



ジェニファーとチャールズの楽しい英会話!

目次

第一巻: 「Greetings」(あいさつ)

「Hello」(こんにちは)、「My name is」(私の名前は～)、「How are you?」(調子どう?)などの簡単な挨拶から、英語の基本を学びましょう! 東沢バラ公園で市民に突然話しかけて会話する場面もおもしろいです。

第二巻: 「Colors」(色)

ゲームや歌を通して、自分の好きな色を言えるようになります!皆さんの好きなバラ公園できれいな花を見ながら色の言い方の練習もできます。今回、「What color do you like?」(好きな色はなんですか?)の言い方を覚えましょう。

第三巻: 「Animals」(動物)

仙台の八木山動物園に行って、今まで覚えた英語を使ってかわいい動物たちと話をしましょう! 「What color?」、「What's your name?」、「How are you?」のほか、「What animal do you like?」(好きな動物はなんですか?)を勉強します。

第四巻: 「Halloween」(ハロウィーン)

回のテーマは数字を数えることです。橋岡に出かけて色々な人と物を数えましょう! 「How many...?」(いくつ～ありますか?)という言い方を練習します。次に「ハロウィーン」というちょっと怖い祭の話をして。最後に、チャールズ君というめんごい小学生の一日から、「What time is it?」(今何時ですか?)のついかたを学びます。

第五巻: 「Christmas」(クリスマス)

クリスマスの季節が来ました! 「I want...」(私は～がほしい)という言い方を使って、自分のほしいプレゼントを言ってみましょう。クリスマスの歌もいっぱい出てくるから、ぜひ歌ってみてください! 最後に、特別なゲストが登場します。

第六巻: 「Goodbye!」(さようなら)

残念ながら、チャールズとジェニファーは村山市を離れることになりました。葉山中学校でできた友だちに「What's your hobby?」(あなたの趣味は何ですか?)と聞いて、楽しい会話をしてから、「The goodbye song」というお別れの歌を二人で歌います。皆さん、本当にありがとうございました! Bye bye!



資料2 第1話のあらすじ



タイトル



Let's begin!



Hello!



Nice to meet you!



えっ、わかんない…



Hello!



Nice to meet you!



練習しましょう!



Nice to meet you.



…



Hello!

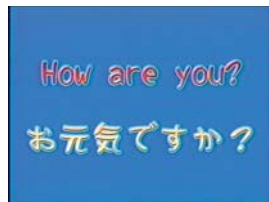
Hello!



How are you?



え？わかんない！



How are you?



I'm fine!



I'm great!



I'm busy.



I'm sleepy.



I'm fine.



Good job!



How are you?



I'm fine!



わかった!



THE END

中学生の海外派遣研修に係る国内事前研修

事業概要

(1) 内容

「青少年国際交流研修」と呼ばれる海外派遣研修事業は、中学生を対象に、1ヶ月間アメリカでのホームステイや交流の機会を提供するものである。ALTは、参加する中学生に対し、事前研修として派遣国の生活・文化・日常会話などを教える。

(2) 目的及び効果

研修生に事前準備・事前学習の機会を与えることで、研修を効果的なものとする。

期 間	全6回 (週2回、3週間、 1回1時間30分)
場 所	役場会議室
対 象	町内中学2、3年生 (研修参加予定者)
規 模	7名
主 催	町教育委員会
予 算	0

■ 実施の流れ

1. 研修カリキュラム

毎週火曜日と金曜日の午後5時から6時30分まで、役場の会議室に対象となる生徒を集め、日本人英語教諭1名とALT1名によって研修を行う。

内容は、アメリカでの生活において経験するであろう様々な場面を想定し、そこで必要となる表現を身に着けることに主眼が置かれている。例えば自己紹介にはじまり、ホストファミリーとの交流、買い物や食事など、それぞれの場面をスキット(寸劇)形式で学ぶという実践的な内容となっている。

また、表現力の向上のため、参加者は研修期間中に英語で日記をつけることが求められ、研修日に添削を行っている。

最終日には、前年度の参加者を招いての質疑応答の時間も用意されている。

2. ALT の役割

ALTは日本人教諭を補助し、スキットのデモンストレーションを行うなど、各アクティビティと一緒に参加する。

また、アメリカ人の立場から、毎回の学習テーマに沿って、アメリカ人の考え方や振る舞いなど、アメリカの現状を紹介する。



事前研修の様子 先輩の体験談を聞く



海外研修の1コマ

基本的に、研修中に中心となって話すのはALTで、日本人教諭は必要な時に通訳を行うという形をとっている。

■ 必要な準備

● 事前研修について

「青少年国際交流研修」は、民間の研修業者が扱う研修プログラムを利用して行われる。そのため業者主催の事前研修も別途行われる。

従って、教育委員会が行う本研修は、英語力の向上だけでなく、参加者間の仲間づくりや、アメリカ人の生の声を聞く機会でもあると位置づけられている。

● 講師の手配

ALTは、町に配置のALTが1名のみなので、そのALTに依頼した。日本人教諭は、町内の中学校に勤務する英語教諭に依頼した。

● カリキュラムの作成・打合せ

カリキュラムは全て日本人教諭が作成した。ALTとの打合せは、ALTが学校で勤務する日を利用して行った。普段からチームティーチングを通してALTとの信頼関係ができていたため、打合せも短時間でスムーズに行われた。

■ 予算

事前研修にかかる費用は、配布するプリントのコピー代程度。

■ 研修のカリキュラム

【1日目】 テーマ：お互いを知る

- ・ ALT、日本人教諭の自己紹介
- ・ 生徒の自己紹介
- ・ あいさつに関する表現

【2日目】 テーマ：自己紹介と町の紹介

- ・ スキット
 - ①空港にて～ホストファミリーとの対面
 - ②朝～ホストの家で
 - ③出かける前に&帰宅
 - ④寝る前に
 - ⑤新しい友達と出会う
- ・ 町の紹介

【3日目】 テーマ：通貨、アメリカの文化

- ・ アメリカのお金 コインとお札、数え方
- ・ 買い物ゲーム 店での会話

【4日目】 テーマ：買い物、アメリカの文化

- ・ 買い物ゲーム ハンバーガーショップでの会話
- ・ アメリカでの生活 家、店、教会などでのマナー

【5日目】 テーマ：家族の紹介

- ・ 写真を使って町を紹介する
- ・ アメリカでの生活 電話のかけ方、手紙の書き方

【最終日】 テーマ：昨年の経験から

- ・ 昨年参加者の経験談
 - ①持って行って役に立ったもの
 - ②よく使った英語表現
 - ③アメリカの学校の様子
 - ④ホストファミリーとの交流
 - ⑤困ったこと
 - ⑥お金・食事・教会・さよならパーティーについて
 - ⑦アドバイス
- ・ 教師からのアドバイス

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

研修生は事前研修で多くのことを学習し、アメリカでのホームステイを経験している。この研修は研修生にとって、大きな力となっていると思う。また、この取り組みに ALT は多く関与し、成果を上げていて、その存在は大きい。

クリアの独り言

同様の事例として、姉妹都市間の交流や姉妹校生徒の相互派遣も多く寄せられました。ALT の活用範囲も様々なものがありましたので、以下に分類して紹介します。

●訪問先の知識を深める講義

訪問先の歴史や文化・生活習慣、学校制度に関する講義を行う。

●会話練習

出入国、飛行機内、食事・買物、ホームステイなど、想定される場面に応じた会話練習を、ロールプレイを交えて行う。また、現地での活動（日本の学生の生活紹介、折り紙など日本文化紹介、スピーチ）の際に必要な表現も紹介する。

●事前交流

訪問前の交流として手紙のやり取りを行う。ALT は、手紙の書き方の指導のほか、外国人の立場から、日本のどんな所を知りたいかなどの助言も行う。

●質疑応答

研修後も生徒が自由に質問できる時間を設け、ALT から注意点やチャレンジすべきことについてアドバイスをもらえる機会を作る。

●生徒の選考

派遣対象生徒の選考にあたり、英語教員とともに英語での面接を受け持つ。

小学校英語指導法研修会

事業概要

(1) 内容

小学校の教員を対象に、英語の指導法、特にALTとのチームティーチング(TT)の進め方に関する研修を行う。講師は中学校英語教諭が務め、ALTは英語教諭とTTのデモンストレーションを行う。

(2) 目的及び効果

ALT との効果的な TT の手法を身につけ、教員の指導力の向上を図ることで、小学校における国際理解教育・英語教育の改善・充実をめざす。

期 間	夏季休業中の3日間 (1回2時間30分)
場 所	町営体育館の会議室
対 象	小学校教員
規 模	19名
主 催	町教育委員会
予 算	0

■ 実施の流れ

1. 構成

時間は午前9時から11時30分の2時間半。

はじめに教育長の開会挨拶があり、続いて小学校英語教育について知識の豊富な他市の指導主事による小学校英語の現状に関する講義を行い、その後演習として中学校英語教諭とALTがTTのデモンストレーションを行いながらゲームや歌など小学校英語で活用できる指導案を紹介。最後に模擬授業として参加者が実際にTTをやってみるといった構成になっている。

2. 講師

毎回異なる英語教諭を講師に迎え、指導内容にバリエーションを持たせた。

ALTは2名配属されているが、そのうち1名が新人だったので、経験のある1名が3日間を通して担当した。なお、司会進行は教育委員会指導主事が担当した。

3. 配布物

「ALTを活用した英語に親しむ指導案」(埼玉県作成)を参加者に配布したほか、参考資料として「小学校英語活動実践の手引き」(文部科学省作成)、を用意した。

■ 準備

● 内容・カリキュラム決定

全体のスケジュールは教育委員会で作成し、個々の講義内容は担当講師(中学校英語教諭)が作成した。

夏季休業中で授業が無いため、ALTとの打ち合わせスケジュール調整も容易である。

● 参加者募集

研修会要項及び参加協力依頼文を作成し、校長会で事業内容を説明した。学校単位で参加者を取りまとめるうえ回答を依頼した。

● 講師派遣依頼

講師は町内の中学校英語教諭から教育委員会が選定し、各校長あて依頼文を送付した。

● 資料準備

各講義の資料は講師が作成。教育委員会は、次第及び配布物を用意した。

■ 予算

なし。会場は教育委員会が入っている建物であるため、使用料は発生していない。

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

今年度初の試みだったが、ALTと中学校英語教諭とが事前に十分準備をしており、充実した内容の研修会となった。参加者も意欲的に研修に臨み、毎回活気のある会となった。研修会後の感想では、楽しく役立ったということと来年度も継続しての開催を望む声が多かった。

ク レ ア の 独 り 言

教員向けの研修へのJETの活用事例では、小学校英語という時代の流れを反映してか、小学校教員に対するものが多く寄せられました。それ以外では、中学・高校の英語教員向け夏休み集中研修や、教員による国際理解教育研究会などの事例がありました。

【事例提供】吉見町（埼玉県）教育委員会 0493-54-1511（代）

資料1 研修会日程

研修会日程

第一日

- | | | |
|---|---------------------|------------|
| 1 | 開講式 | 9:00 |
| 2 | 講義・情報提供「小学校英語教育の実際」 | 9:20～10:20 |
| | 指導者 他市指導主事 | |

休憩

- | | | |
|---|---------------------|-------------|
| 3 | 演習1「授業で使える英会話」 | 10:30～11:30 |
| | 「ALTを活用した英語に親しむ活動1」 | |
| | 指導者 吉見中学校教諭、吉見町ALT | |

第二日

- | | | |
|---|------------------------|------------|
| 1 | 開会 | 9:00 |
| 2 | 演習2「ALTを活用した英語に親しむ活動2」 | 9:10～9:40 |
| | 指導者 吉見中学校教諭、吉見町ALT | |
| 3 | 演習3「ALTを活用した英語に親しむ活動3」 | 9:40～10:20 |

休憩

- | | | |
|---|------------|-------------|
| 4 | 演習4「模擬授業1」 | 10:30～11:30 |
|---|------------|-------------|

第三日

- | | | |
|---|------------------------|------------|
| 1 | 開会 | 9:00 |
| 2 | 新ALT紹介 | 9:10～9:30 |
| 3 | 演習5「ALTを活用した英語に親しむ活動4」 | 9:30～10:20 |
| | 指導者 吉見中学校教諭、吉見町ALT(2名) | |

休憩

- | | | |
|---|------------|-------------|
| 4 | 演習6「模擬授業2」 | 10:30～11:20 |
| 5 | 閉講式 | 11:20～11:30 |

吉見町立小学校英語指導法研修会要項

1 研修会実施の趣旨

現在国では中学校の英語教員を対象に『英語が使える日本人』の育成のための行動計画を作成し、すべての英語教員が、実践的コミュニケーション能力育成のための指導力向上を図る研修を受けるよう提言し、全国的な取組を行っている。

一方、総合的な学習の時間の実施に伴い、国際理解教育の一環として小学校においても英語教育が取り入れられるようになった。本町においても外国語指導助手が定期的に各学校を訪問し、担任とTTを組みながらあいさつなどのコミュニケーションを中心に英語を楽しく学ぶ活動を行っている。

しかしながら、小学校教員を対象にした組織的な研修は現在実施されてなく、小学校においては指導する教員個々が試行をしながら授業を行っている現状である。そこで、外国語指導助手との効果的なTTの手法を身につけ、教員の指導力の向上を図ることは重要なことと考える。

2 目的

児童が主体的に生き生きと取り組める授業の創造を目指し、小学校教員の英語指導技術の向上を図り、もって本町の国際理解教育・英語教育の改善・充実に資する。

3 主催

吉見町教育委員会

4 対象者、人数及び参加者

(1) 対象者及び人数

町内小学校の全教職員を対象とする。

なお、参加人数は20名程度とする。

(2) 参加者

対象者のうち、校長から報告があった教職員

なお、希望人数が多い場合は教育委員会で調整する。

5 研修日数及び研修内容

研修日数	研修内容
第1日	オリエンテーション。講義。 ALTとのチーム・ティーチング進め方 I
第2日	ALTとのチーム・ティーチング進め方 II
第3日	ALTとのチーム・ティーチング進め方 III

資料2 研修要領2

6 講師及び指導者

- (1) 吉見町外国語指導助手 (ALT)
- (2) 吉見中学校英語教諭

7 研修の期日、日程、会場

- (1) 期 日 第1回目 平成18年 7月28日 (金)
第2回目 平成18年 7月31日 (月)
第3回目 平成18年 8月23日 (水)
- (2) 日 程 9:00～11:30
- (3) 会 場 吉見町民体育館 2F 研修室

8 その他

- (1) 各3回の研修はそれぞれ異なる内容を計画します。すべての出席が原則ですが、校務の都合上3回の出席が難しい場合は、出席できる回のみ参加を可とします。
- (2) 第3回目は、本年度8月に来日予定の新規採用のALTも参加する予定です。

各吉見町立小学校長 様

吉見町教育委員会教育長

平成 18 年度吉見町立小学校英語指導法研修会の開催について

標記の件につきまして、別紙実施要項により開催しますので、貴管下関係職員の出席について御配慮くださいますようお願いいたします。

なお、参加者名簿については、下記により報告をお願いします。

記

1 提出期限

別紙様式

平成 18 年 7 月 10 日 (月)

2 提出先

吉見町教育委員会

資料3 研修開催通知2

(別紙様式)

第 号
平成18年 月 日

吉見町教育委員会教育長 様

吉見町立 小学校長

平成18年度吉見町立小学校英語指導法研修会の参加者について（回答）

標記の件につきまして、下記のとおり報告します。

記

1 参加者の職・氏名（参加期日に○をつける）

職 名	氏 名	第 1 回 月 日	第 2 回 月 日	第 3 回 月 日

学校での定番活用法

その他の事例

学校での活用法として、他にも以下のような事例が寄せられました。

■ スピーチコンテスト指導

外国語スピーチコンテストに出場する生徒に対する指導を行う。スピーチ原稿の作成補助から、発音、抑揚、さらにパフォーマンスの仕方や顔の表情といった細かな点まで指導を行う。自宅でも練習できるように、モデルとなる発音でテープを作成する事例もあった。

主に夏休み期間に行うものが多いが、放課後や週末にスケジュールを組む例も見られる。回数は3回から多いもので10回、1回の時間数は2～3時間程度である。

このほか、学校単位で行うスピーチコンテストや、コンテストに出場する生徒の校内オーディションなどにALTを審査員として活用している事例もあった。

■ 英検対策指導

英検の一次試験に合格した生徒を対象に、二次試験対策として、ALTが面接官となって模擬面接を行う。

日本人英語教諭が面接試験の概要とポイントを説明した後、ALTとともに面接官となり、過去の出題例や予想問題を用いて、個別に、あるいはグループで面接を行う。ALTは主に発音のチェックを行うが、文法的な指導をする場合もある。

希望生徒に数回ずつ実施するものから、自信が出るまで何度でも参加できる事例まで見られた。

■ 英語部指導

英語部の指導では、様々な趣向を凝らして英会話の指導にALTを活用している。以下に、寄せられた事例からいくつか紹介する。

- ハロウィン、サンクスギビング等各種国際交流的なパーティーの企画、運営
- 英語版の学校案内ビデオや学校紹介パンフレットの作成
- 日記の添削指導
- ALTの友人との交流（インタビュー、地元文化の紹介、文通）
- ALTの出身国を紹介するビデオ作り
- 映画を通じた英会話指導
- ディベート

■ 文化祭でのブース出展

文化祭にALTがブースを出展し、自国の文化や生活について、絵や写真を掲示し紹介するほか、模擬店を開き、自国のお菓子やケーキを手作り販売する。

「これぞ定番！」活用法

(2) 定番！語学講座



定番！語学講座 英会話教室

事業概要

(1) 内容

ALTが講師を務める一般成人対象の英会話教室を開催する。授業は通常の講義以外に交流会的な側面もあり、生徒が簡単な料理を持ち寄り、映画鑑賞に出かけたりと和気あいあいとした雰囲気に包まれている。

(2) 目的及び効果

町民に英会話学習の機会と交流の場を提供する。

期 間	週1回1時間、6ヶ月を1期として年間5期開催
場 所	公民館会議室
対 象	在住または在勤の一般成人 (参加費1回250円)
規 模	15名×2コース
主 催	町公民館
予 算	1～2万円

■ 実施の流れ

1. 授業内容

教室は毎週水曜日の7時から8時（初級）及び8時30分から9時30分（中級）。発音・イントネーション・動詞の活用などの文法事項から、ディスカッションやディベートまで幅広い内容を扱う。

また、焼き物や三味線など、生徒が自分の趣味について実演を交えながら説明する「Show and Tell」や、生徒が世界の料理を調べて実際に作り、それを持ち寄ってそれぞれの料理について話し合う「International Food Class」などは、交流会的側面を持ったユニークなカリキュラムとなっている。

2. カリキュラム作り

授業内容についてはALTに一任されている。そのため、ALTは生徒の希望を聞き、それに沿ってカリキュラムを決めている。

生徒からは「日本の文化を英語で説明したい」「英語の童謡を覚えたい」「(ALTの母国)カナダの歴史を知りたい」などのリクエストがあった。

カリキュラム作成にかかる時間は毎回2時間程度。学校が終わってから英会話教室が始まるまでの時間をあてている。

また、毎回授業の自己評価を行っており、教材やテー



マへの生徒の反応を見ながら次回の授業プランを作成している。

3. 教材について

教材は、ウェブサイト(Boggle's World、BBC English One Stop、Dave's ESL Café、広報紙 Daily Yomiuri Newspaper's で毎週木曜日に掲載されている Language Connection など)からの引用や、前任から引継いだ文法書を利用して、ALTが自分で作っている。職場の日本人英語教諭からアイデアをもらうこともある。

4. 交流活動

この英会話教室は、地域密着型の公民館活動の一環であるため、地域住民の交流の場としての役割も持っており、教室のメンバーでパーティーを行ったり映画鑑賞に出かけたりという、教室外での活動も活発に行われている。

■ 必要な準備

● 参加者募集・広報

参加募集は町の広報紙とウェブサイトで行う。3月・8月に募集を行い、募集期間は1ヶ月。

応募者多数の場合は新規申込者優先で抽選している。



【事例提供】砥部町（愛媛県）教育委員会 学校教育課 089-962-4820
砥部町中央公民館 089-962-4822



● ALT 派遣

ALT の派遣は勤務時間外となるため、代休を与えている。

毎週金曜日の教育委員会勤務日をあてるほか、ALT の希望により夏季休業中にまとめて与えることもある。

■ 予算

250 円の参加費は会場費にあてている。その他は教材作成にかかるコピー代程度。



（担当者からのコメント・アドバイスなど）

学校の授業に加えて、英会話教室 2 クラス分のカリキュラムと教材を作成するのはとても大変だったと思います。おかげで参加者からは大変好評な事業が実施できました。次年度は 1 クラスにし、クラスの人数を増やして開催する予定です。（公民館担当）

クレアの独り言

英会話教室の事例は、大別して、公民館が主催するものと、国際交流協会が主催するものの 2 種類が多く寄せられました。

Separable Phrasal verbs

Verb+ (in, out, on, off, by, up)

Ex. drop off



- * I will **drop off** my daughter at school today before going to work.
- * I will **drop** my daughter **off** at school today before going to work.

The noun goes either between or after the phrasal verb.

let down– disappoint.

look up– search for something or someone

set up – make arrangements for something.

pick up– lift; take up, get, buy.

–arrange to meet someone and give her/him a ride.

try out –use a machine briefly to determine how well it works.

turn on –start by turning a handle or switch, interest very much; excite (very informal).

put on– begin to wear

–try to make someone believe something that is ridiculous or untrue.

turn up– increase the volume, heat.

check out borrowing something, look or try something

figure out– solve a problem, understand after lots of thinking

fill out – complete a form by adding required information.

drop off – deliver something; deliver someone (by giving him/her a ride).

Separable Phrasal Verbs

let down	figure out
look up	fill out
set up	drop off
pick up	try out
turn on	put on
turn up	check out

資料1 テキスト2

Hotel Reservations



Bring bring, bring bring,



- A.** Good afternoon, Greenwoods Hotel. Mike speaking. How can I help you?
- B.** Good afternoon. I'd like to book a room please.
- A.** Of course, madam. When will you be arriving?
- B.** On the 3rd of January.
- A.** And how many nights will you be staying?
- B.** Just one.
- A.** Thank you, madam. Would you like a single room?
- B.** No, a twin please.
- A.** Would you like an ensuite room?
- B.** Yes, thank you. And, I'd like a room with a balcony please.
- A.** Certainly. The price for that room is \$75, or \$95 including breakfast.
- B.** With breakfast please.
- A.** Okay. Could I ask for your name please?
- B.** Buzzeo.
- A.** Could you spell that for me, please?
- B.** B-u-z-z-e-o.
- A.** Thank-you. And, could I have your phone number please.
- B.** Certainly. 080-1234-5678.
- A.** Thank you. Is there anything else?
- B.** Yes, what time does check in start?
- A.** You can check in from 3 in the afternoon.
- B.** Okay.
- A.** Thank-you. We look forward to seeing you on January the 3rd.
- B.** Thank you for your time. Goodbye.



Key Phrases

- I'd like to book a room, please
I'd like to make a reservation please.
- Would you like....?
I'd like....
-will you be ___ing?
I'll be ___ing...

Room Types

Single room
Double room
Twin room
a window facing the lake.

Requests

- ★ an ensuite room.
- ★ a room with a balcony.
- ★ a room with a view.
- ★ a room with a share bathroom.

Dates

1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th -- -20th---30th, 31st

ensuite room=a room
with a bathroom

Let's make some reservations!

1	2	3
double room with shared bathroom with breakfast tomorrow night.	single room ensuite with balcony with breakfast 3 rd and 4 th May.	2 single rooms ensuite without breakfast Saturday and Saturday night.
4	5	6
twin room ensuite with a view with breakfast a week from the 30 th of December.	2 double room with shared bathroom without breakfast 31 st of April.	twin room ensuite with a balcony and view with breakfast 2 nd -5 th March.

定番！語学講座

幼児及びその保護者対象の 親子教室への ALT 派遣「ラッコ教室」

【事例提供】長島町（鹿児島県）教育委員会 学校教育課・長島町 保健衛生課 0996-88-5511（代）

事業概要

(1) 内容

未就学児とその家族を対象に豊かな遊びの場を提供する目的で開催される親子教室「ラッコ教室」へALTを派遣する。外国の童謡や手遊び歌を親子が一緒になって楽しむほか、保護者には外国の子育て事情を紹介する。

(2) 目的及び効果

幼児期に外国人と触れ合う機会を提供する。保護者には子育てを通して外国の文化に触れる機会を提供する。

期間	1日（2時間）
場所	町保健センター
対象	未就学児及びその家族
規模	30人
主催	町保健衛生課
予算	0

■ 実施の流れ

1. 「ラッコ教室」について

「ラッコ教室」は、年間を通して毎月2回、午前9時30分から11時30分までの2時間で開催されている。

専門の保育士が全体を管理しており、内容の組み立てから教室での指導まで全てを行う。クリスマスや節分、水泳など、季節ごとのアクティビティを取り入れるほか、消防士に依頼して保護者向けに救急対応の講義を行ったこともある。

対象となるのは、0歳から保育園や幼稚園に入園する前までの子供とその親で、毎回15人～30人の親子が参加する。

2. ALTのアクティビティ

体を使って遊ぶ歌を集めたCDを用意し、「Heads, Shoulder, Knees, Toes（歌いながら頭や肩、ひざ、足に手をあてる）」などの手遊び歌を中心に、歌いながら体も動かすようなアクティビティを行った。

また、質疑応答の時間を設け、保護者の質問に答えながら母国での子供の育て方について説明した。

■ 必要な準備

● 派遣依頼

教育委員会では、普段からALTの派遣について関係各課に周知しており、スケジュールが合う限り依頼に応えるような体制作りをしている。親子教室以外にも、障害者施設などに派遣しており、その様子は広報誌で町民に伝えている。

保健衛生課では、4月上旬に親子教室の年間計画を立てた後、教育委員会と日程調整を行い、ALTの派遣日を決定した（ALTが派遣されたのは5月下旬）。

また、教室の性質上、日本語のできるALTを依頼している。

● 参加者募集

「ラッコ教室」参加者の募集は、毎年3～4月に行われる。地区ごとの連絡員を通じて各家庭に配布される案内チラシによって広報するほか、乳児健診の際にも直接説明している。

● 内容の決定・打合せ

ALTには、「子供にわかりやすい」「親子で遊べる」「体を動かす」などの条件を伝え、それを踏まえたうえで具体的なアクティビティを組み立てるよう依頼した。

■ 予算

なし



（担当者からのコメント・アドバイスなど）

ALTに実施していただく「Let's English」は毎年好評のプログラムで、小さい子どもは歌やダンスを見よう見まねで楽しんでます。保護者もALTとの交流をととても喜んでいるようです。毎年様々な外国の手遊び歌や童謡を教えてもらってALTには感謝しています。（保健衛生課担当）

クリアの独り言

幼児向けの教室にJETを活用する事例も多く寄せられました。保育園や幼稚園への訪問は定番のようです。ほかに絵本の読み聞かせ会などの事例がありました。

小学生を対象とした夏休み英語教室 「マーカス先生の夏休み英会話クラブ」

事業概要

(1) 内容

夏休み期間中、毎週水曜日の夜に、小学生を対象にした英語教室を開催する。ALTが講師となり、ゲーム、歌、ダンスなどを通じて英会話を学習する。

(2) 目的及び効果

小学生が、楽しみながら英語に触れることができる機会を提供する。

期 間	夏期休業中に6回 (毎週水曜日、1回1時間)
場 所	防災・情報センター会議室 (教育委員会の入っている建物)
対 象	小学校1年から3年生(参加無料)
規 模	29名
主 催	町教育委員会と国際交流協会との共催
予 算	0～1万円

■ 実施の流れ

1. 構成

時間は午後7時から8時までの1時間。教室では、次のようなプログラムを組み合わせ、毎回異なる内容で実施した。

- 動物のぬり絵を使って、色を塗ったり絵をかいたりしながら、動物の名前や、目・耳などの部位を英語で紹介する。
- 色紙を教室のいろいろな所に貼っておき、講師が色の名前を英語で言うと、その色の所へ生徒が移動する。
- 英語の簡単な歌(あいさつやABC)と一緒に歌う。
- 単語と絵の書かれたカードをばらばらにして、正しく合わせる。

その他、日本でも馴染みのあるゲーム(ハンカチ落としなど)を英語で遊んだりもする。

2. 進行

進行は、講師を務めるALTが全体を主導するが、教育委員会と国際交流協会からも日本人スタッフが1名ずつアシスタントとして加わり、教材を配ったり、子供達をまとめたりと、ALTの目が行き届かない部分をフォローする。

子供の反応を見ながら、退屈そうにしているプログ



Nice to meet you

ラムは早めに切り上げたり、熱中しているプログラムは延長したりという調節が必要。

3. その他

実施時間が夜間のため、保護者の送迎が可能な児童に限り参加を認めた。

■ 準備

● 事業の共催

事業実施の約2ヶ月前に、国際交流協会と教育委員会の担当者レベルで共催の打ち合わせを行った。

両者の役割分担は、ALTとアシスタントの派遣を教育委員会が行い、その他、参加者募集・事業の進行管理(出欠管理や休講時対応など)全般を国際交流協会が行った。

● 参加者募集

対象が小学生と限定されているため、募集に係る広報は学校を通じて行った。チラシを作成し、学校長あてに送付して生徒への配布を依頼した。

参加申込みについては、学校単位での取りまとめは依頼せず、各家庭から直接国際交流協会へ申し込む形をとった。

なお、チラシを生徒に直接配布するのは、生徒自身が自発的に参加することに期待すると同時に、家庭に直接配布した場合にいわゆる「親止まり(親だけが読んで子供に渡らない)」になってしまうことを防ぐねらいもある。そのため、チラシには全てふりがなを付けるなどの配慮をしている。

● ALTとの打合せ

打合せは事前に1回行ったのみ。事業の趣旨を伝え、スケジュールを確認し、内容についてはALTに一任した。ALTの希望もあり、授業の内容を事前に完全にスケジュール立てておくことはせず、毎回の生徒の反応を見ながら次回の内容を決めるという方法をとった。

【事例提供】江府町（鳥取県） 国際交流協会 0859-75-6111
江府町 教育委員会 0859-75-2223



（担当者からのコメント・アドバイスなど）

ALTは、子どもたちを相手に、真剣に、積極的に工夫して取り組んでくださいました。好奇心、興味をひかせることについて、苦勞の連続だったと思います。

ただ、低学年ということで人数的にも、どうしても目の行き届かないところも出てきたりしました。

今後もさまざまな形で、続けていきたいと思っています。

■ 予算

予算は、「国際理解講座」という大枠で組まれている。その中には、本事業以外に外国料理教室、異文化理解文化講座、韓国語教室など様々な事業があり、それらの事業間で柔軟な執行が出来る仕組みになっている。

子供向けの英会話教室で実際に使用したのは、約7000円。

クレアの独り言

夏休みは、担当者にとってALTに何をさせるか頭を悩ます時期ですが、授業以外で本格的にALTを活用できるチャンスでもあります。

本書には夏休みを利用した事例が多く掲載されていますので、是非ヒントにしてください。



これは何色？



ハンカチ落としを英語で遊ぶ

マークス先生の 夏休み英会話クラブ

マークス先生と遊びながら楽しく英語を習おう！

- ★ 期 日 なつやすみちゅう まいしゅうすいようび よる 夏休み中の毎週水曜日 夜7時～8時
・7月—26日 ・8月—2日、9日、16日、23日、30日
- ★ 場 所 こうふちょうぼうさい しょうほう 江府町防災・情報センター
- ★ 対 象 ちやうない しょうがっこう ねん ねん ほごしや そづいかのう せいと 町内の小学校1年～3年（保護者の送迎可能な生徒にかぎります。）
- ★ 内 容 うた えいごの ゲーム、歌、ダンスで英会話
- ★ 受講料 じゆこうりよう むりよう 無料
- ★ その他 つごう にっていなど へんこう ばあい 都合により日程等、変更の場合がありますので、ご承知ください。
- ★ 申し込み期限 7月14日（金）
- ★ 申し込み、問い合わせ先 こうふじむきよく こうふちょう役場 ふくしほけんか I E A江府事務局（江府町役場 福祉保健課）

TEL0859-75-6111 FAX 0859-75-6161

E-mail: i e a@town-kofu.jp



Hello, Everyone!
My name is マークス。
Do you remember?

なつやすみ 夏休みにみんなに会えるのを たのしみ 楽しみに
しています。

たのしくあそびましょう。

【I E A江府（江府町国際交流協会）・江府町教育委員会】

資料2 緊急連絡先の登録依頼文書

「マークス先生の夏休み英語クラブ」受講児童
保護者 さま

IEA江府

緊急連絡先の登録についてのお願い

日ごろ、IEA江府にご協力いただき、ありがとうございます。
児童たちもマークス先生の教室を楽しみにしていること存じます。
さて、夏も本番になり、台風など天候による突然の休講の緊急連絡先の登録を進めており、保護者の皆さまにご理解、ご協力をお願いします。
登録いただいた連絡先は、緊急休講連絡以外の目的に使うことはなく、マークス先生の英語教室の終了と同時に直ちに破棄いたします。

登録いただく連絡先

- **日中連絡可能な**保護者(父母のどちらか)の携帯電話のメールアドレス
(電話連絡の場合、児童の人数も多く、連絡が取れないことが多々あります)
ただし、メールでのやり取りが無理な方は事務局にご相談ください。

休講の知らせの例と手順

- 保護者の登録メールにIEA江府事務局(iea@town-kofu.jp)から一斉送信
例) 題名 IEA江府から休講のお知らせです。
本文 本日大雨警報のため「マークス先生の英語教室」は休講いたします。



着信が認められたら

- 保護者からIEA江府事務局へ返信
例) 江尾小1年江府太郎、了解しました。
などの了解した旨の返信をお願いします。もし返信がなかった場合、再度送信します。

登録期限

- 登録書に必要な事項をご記入のうえ、添付した封筒にて7月24日(月)までに投書ください。期限厳守です。
登録いただいたメールは確認のため、事務局からテストの送信をしますので、ご承知ください。詳しいことは事務局にお問い合わせください。

IEA江府(江府町国際交流協会)事務局
役場 福祉保健課内
電話番号 75-6111
E-mail:iea@town-kofu.jp

その他の事例

語学講座での活用法としては、他にも以下のような事例が寄せられました。

■ 自治体職員向け語学講座

市役所や県庁で、職員を対象とした語学講座に JET を活用する。

参加者は、希望者を対象とする形態が多いが、業務上外国語を使用する機会の見込まれる市民課、税務課、保険年金課、観光交流課など、特定の課を主な対象として実施する事例もあった。

実施スケジュールは、毎週 1 回、終業後に 1 ～ 2 時間という例が最も多く、次いで ALT に余裕のできる夏季休業中に集中して実施するものも多く見られた。

扱う言語は英語がほとんどだが、県庁では CIR を活用して中国語や韓国語の講座を行う事例も見られる。

ユニークな事例として、CIR が録音した英会話を昼休みに庁内放送するものや、ALT が各課を訪問し、業務に支障のない範囲で全職員が英語によるコミュニケーションを図るというものもあった。

■ 教員向け語学講座

教員向けの語学講座としては、①幼稚園・小学校教諭や、中学校の英語科以外の教諭など、普段英語を使用しない教員を対象にしたもの、②職務上英語を使用する中学・高校の英語教諭を対象にしたものの 2 種類に大別できる。

①では、基本的な英会話学習に加え、英語活動の授業において使用される指示英語や、指導時の ALT とのコミュニケーションに必要な表現などの実践的な内容が扱われ、②では、語学力向上のための学習に加え、指導法についての研修も合わせて行われることが多いようである。

夏季休業中に行われる例が多く、期間は半日程度から、3 日間程度が一般的であった。

■ 高齢者向け語学講座

高齢者福祉事業の一環として、英会話を含めた国際交流会を開催する。

■ 学校公開講座

地域住民を対象とした生涯学習事業の一環として行われる学校公開講座のプログラムに英会話教室を設ける。

「これぞ定番！」活用法

(3) 国際理解・交流イベントでの活用法



国際理解・交流イベントでの活用法

国際理解出前講座

事業概要

(1) 内容

CIRが県内の学校(小・中・高)や地域の国際交流団体等を訪問して、出身国の文化や社会問題、学校や子供たちの様子など、対象に合わせてパワーポイントを用いて説明したり各国のゲームや簡単な会話を体験したりする「異文化理解講座」を開催。4名のCIR(韓国・中国・アメリカ・カナダ)が従事している。

(2) 目的及び効果

その国の人から直接話を聞くことで、異文化への理解を促進する。

期間	通年
場所	学校、公民館等
対象	一般県民
規模	10人～100人
主催	県民文化課国際室
予算	0

■ 講座内容 (韓国人 CIR の場合)

1. CIR について

韓国人 CIR の趙さんは、今年で2年目。出前講座の派遣は毎月1～2回、多いときは8回程度あり、今年度はこれまでに20回以上の講座をこなしている。

2. 小学校向け講座

学校訪問では、総合学習など小学校への派遣が一番多い。

低学年の場合、訪問先と同じ学年の韓国の子供の様子を、写真を交えながら紹介したり、韓国の人々が正月によく遊ぶゲームの道具を紹介して実際に遊んでみるなどのアクティビティを行う。

高学年では、例えばソウルの交通事情などの社会状況を、クイズを織り交ぜながら紹介する。また、名前の言い方などの簡単な韓国語も紹介する。

その他、小道具として、韓国より持参したチマチョゴリや箸、お金などを使う。

最後の10分で質疑応答のコーナーを設けている。

3. 社会人講座

社会人向けには、国際交流協会において韓国講座を



正月に遊ぶユンノリというゲーム

定期的を開催しており、そこでの講師を務める。「韓国の国民性」「ソウルを歩く」「韓国の歴史」など、毎回テーマを設定し、講義を行う。

そのほか、福祉施設や大学、市民サークルなどからの依頼で講座を行っている。

4. 打合せ・事前準備

派遣依頼者とは必ず事前に打合せを行い、会えない場合でも電話で話すようにしている。会場の規模や参加人数、韓国についての予備知識の有無などを確認するほか、講座内容について先方からのリクエストも受ける。

県で初めての韓国人 CIR なので、前任者の実績が無く、初めは県庁内での語学講座などをしながら徐々に内容を増やしていった。韓国人 JET の間で、母国紹介用の様々な資料(先輩 JET が作成して評判が良かったもの)を集めた CD が作られており、それが役に立った。

■ 必要な準備

● 要領の作成

派遣要領を作成し、それに基づいて派遣事業を行っている。要領の中には派遣申請書の様式も規定されている。

● 講座内容の作成

CIR が新規に着任した際に、自分ができる講座内容を考え、作成させている。前任者のものや、他県の事例を参考にして作成している。

● 広報・募集

県ウェブサイトにも各 CIR の紹介ページを設けており、その中にそれぞれの CIR が出前講座で行う内容の例を挙げている。これはもともと、出前講座の依頼を増やすために CIR 自身が作成して学校に配布したものだ。

学校に関しては今までの実績から当講座の認知度が

【事例提供】山形県 県民文化課国際室 023-630-2123



体の部位の名前をゲームで覚える

上がっており、先生がウェブサイト調べて直接依頼するような動きがでている。

また、県国際交流協会からの依頼で、協会が行っている同種の事業への派遣も行っている。

● 派遣手続き

派遣希望は、まず電話で受け付け、CIRのスケジュールを確認・調整した後で、正式に要領に規定された申請用紙を提出してもらう。

● 報告

派遣依頼者は、派遣に係る事業終了後に、活動報告書を提出することが義務付けられている。

なお、派遣したCIRに、通常の出張に準じて復命書を提出させている。

■ 予算

なし（派遣に係る旅費は派遣先が負担）



民族衣装の試着

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

本県のCIRによる出前講座は平成15年度から実施していますが、年々、派遣依頼も増えてきており、好評をいただいています。

小学生などから出前講座に対するお礼の手紙をいただくこともあり、その文面から、楽しかった様子や各国のことを知ることができた喜びが伝わってきて、担当としても大変うれしく感じています。

距離や移動手段の関係で、どうしても近隣の市町村への派遣が中心となってしまいますが、県内のいろいろな地域で、多くの県民の方々と交流できればと思っています。

今後は、出前講座の様子をホームページで紹介するなど、CIRの活動の様子を広く県民の皆様にご覧いただきながら、講座の内容、回数とも充実させていきたいと考えています。

クレアの独り言

出前講座は、国際交流協会などでは定番中の定番事業ですね。この種の事業では、講師の国籍などのバリエーションをいかに確保するかが難しいところです。JETプログラムではどうしても英語圏に偏りがちですが、小学校の総合学習ではまだまだ英語圏の人材が人気ですし、JETプログラム招致国も拡大していますので、今後この分野での活用はさらに増えていくのではないのでしょうか。

「韓国」出身国際交流員 — 趙惠元 (チョ・ヘウオン)



アンニョン コリア



..... (アンニョンハセヨ)!

日本に一番近い国「韓国」から来た国際交流員チョヘウオン(趙惠元)です。「ヘウオン」と呼んでください。日本で高校を卒業して以来、約7年ぶりに訪れた日本は韓流ブームの真っ最中にあり、大変驚きました。韓国のドラマや映画に止まらず、韓国人の生活や文化が興味の的になっている事を大変嬉しく思っています。

ところで、皆さんや周囲の方々は「韓国」というと何を思いつき又それらのイメージはどこから来ていますか? 多くのマスコミを通じて報道される「キムチ」、「チマチョゴリ」、「テコンド-」。これらは韓国を代表するシンボルとしてとても有名な物です。でも、これ以外にも韓国には外国に未だ知られていない食べ物、文化、見所等の魅力がいっぱいです。一見、記号だらけで難しそうなハンゲルですが、その優れた科学的機能性を世界でも認められた文字です。又キムチの中には白いキムチもある事、教育制度の違いやお正月の伝統的な過ごし方なども大変興味深いと思います。

身近な国「韓国」の素顔についてお届けしたいと思っております。

☆出前講座の内容☆

1. 韓国の紹介

例) * 学生向け- 「韓国の学校の様子」、「韓国のゲームや遊び」、「韓国 OX ゲーム」等

* 一般人向け- 「韓国の伝統文化」、「韓国の社会」等

2. 各スピーチ

3. ハンゲル講座- 長期、短期、目的性に合ったハンゲル講座

4. 韓国料理教室

資料2 母国紹介で使用するパワーポイント（抜粋）

かんこくの食べ物



名前: キムチ

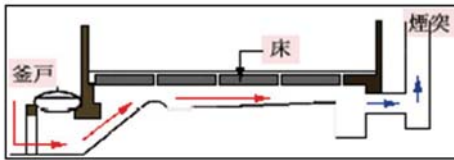
韓国のキムチは何種類あるでしょう?

- 1.) 10個 2.) 250個
- 3.) 800個 4.) 1000個



800個

オンドル



かんこくの小学校

かんこくのしょうがっこうの入学式は何月でしょう?

- 1.) 1月
- 2.) 3月
- 3.) 4月
- 4.) 11月



自分の名前を教えよう。

・ 私は _____ (名前) _____ と申します

→ チョヌン (名前)

ラゴ ハムニダ



アンニョン!
 チョヌン「メリー」ラゴハムニダ

国際交流員派遣要領

(目的)

第1条 この要領は、県内の小中学校、高等学校、各種団体等が実施する国際交流・国際理解促進事業等への国際交流員（山形県文化環境部国際室配置）の派遣協力に係る必要な事項を定め、本県の国際化推進に資することを目的とする。

(派遣対象団体)

第2条 国際交流員の派遣対象団体は、次に掲げるものとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校等学校並びに他の教育機関
- (2) 県内の各種団体のうち山形県文化環境部国際室長（以下「国際室長」という。）が適当と認める団体。

(派遣対象事業)

第3条 国際交流員の派遣対象事業は、前条に定める派遣対象団体が行う次の事業とする。

- (1) 外国の文化及び生活の紹介のための講演等
- (2) 地域住民、生徒、学生の異文化理解のための交流活動への協力
- (3) 民間国際交流団体の事業活動に対する助言
- (4) 簡易な外国語日常会話指導
- (5) その他本県の国際化推進に資する業務

(派遣日時等)

第4条 国際交流員が派遣される日時は、原則として祝祭日を除く月曜日から金曜日の午前9時から午後5時までとする。

(申し込み)

第5条 国際交流員の派遣を受けようとする団体は、原則として派遣日の2週間前までに派遣依頼書（様式第1号）を国際室長に提出しなければならない。

(派遣決定)

第6条 国際室長は、前条の申込みがあったときは、当該派遣依頼内容、国際交流員の業務予定等を勘案の上、その可否を決定する。

(活動報告)

第7条 派遣依頼団体は、当該事業の終了後10日以内に、活動報告書（様式第2号）を国際室長に提出するものとする。

(費用負担)

第8条 派遣依頼団体は、国際交流員に対して謝金等の報償費は支給しないものとする。

2 派遣に伴う旅費については、派遣依頼団体の旅費支給規程等に従い、国際交流員に支給するものとする。ただし、旅費支給規程がない場合は、原則として山形県の基準に従うものとする。

3 その他材料費等の実費については、派遣依頼団体が負担するものとする。

(派遣の制限)

第9条 国際室長は、派遣依頼団体が次の各号のいずれかに該当すると認める時は、国際交流員の派遣を承諾しないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を阻害するおそれのあるとき
- (2) 政治、宗教又は営利を目的とした催しを行うおそれのあるとき
- (3) その他国際室長が適切でないと判断したとき

(その他)

第10条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は国際室長が別に定めるところによる。

附則

この要領は、平成15年12月3日から施行する。

資料4 派遣申請書／活動報告書

様式第1号

国際交流員派遣申請書

平成 年 月 日

山形県文化環境部県民文化課国際室長 殿

団体名：
 代表者名： 印
 住所：
 担当者名：
 TEL：

下記のとおり、国際交流員の派遣を依頼いたします。

記

事業名	
期 日	
事業目的	
場 所 (住 所)	
参集予定者 範囲及び人数	
国際交流員名	
依頼内容	
交通手段	

国際交流員活動報告書

平成 年 月 日

山形県文化環境部文化振興課国際室長 殿

団体名：
 代表者名： 印

派遣していただいた国際交流員の活動について、下記のとおり報告いたします。

記

事業名	
期 日	
参集者 範囲及び人数	
国際交流員名	
実施内容	
事業評価	

※ 活動状況の写真（デジカメ、一般カメラを問わず）を添付のこと

国際理解・交流イベントでの活用法

異文化交流講座・料理編

事業概要

(1) 内容

世界の料理を紹介する全3回の講座を開催する。タイ、イギリス、ブラジルの3カ国の料理を、その国の人が講師となって参加者と一緒に調理し、同時にその国について紹介する。

イギリスの回にALTを講師として活用。スコーンを作り、パワーポイントを使用して英国を紹介した。

(2) 目的及び効果

「食」を通して日本以外の国のことを知るきっかけ作りとする。また、普段見かけることはあっても実際に話したことのない在住外国人と市民が交流する機会も提供する。

期間	全3回 (毎週金曜日、1回2時間)
場所	公民館調理室及び視聴覚室
対象	一般市民(会費として材料代相当300円を徴収)
規模	毎回25名
主催	市教育委員会
予算	0~1万円

■ 実施の流れ

1. スタッフ

実施スタッフは、ALTと教育委員会職員のほか、市民ボランティア5~6名が加わった。また、ALTは日本語が堪能ではなかったため通訳を配置した。

2. 受付~開会

教室は、午後7時から9時までの2時間。受付はボランティアグループメンバーと教育委員会職員が手分けして行い、司会は教育委員会職員が務めた。

参加者には、資料として料理(スコーン)について解説した資料とレシピを配布。会場である調理室にテーブルが6つあるため、参加者を6グループに分けた(1グループ4~5名)。

開会挨拶に続いてALTを紹介。簡単な料理の説明の後、黒板に書いたレシピに従って調理を開始。

3. 調理

ALTの進行により各グループで調理を行う。各工程ごとに全員を一つのテーブルに集め、ALTがデモン

ストレーションを行い、その後各テーブルに戻って作るという作業を繰り返した。

4. 試食

完成した料理とともに視聴覚室へ移動。ALTのパワーポイントによるイギリスの文化紹介を見ながら試食した。

■ 必要な準備

● ALTへの依頼、打合せ

ALTには事業実施2ヶ月前に依頼し、ALTのスケジュールを調整して開催日を決定した。

その後、メニューの決定、材料と調理手順の確認、試作という段階を経て内容を決定。各段階でALTとの綿密な打合せを行った。

打合せは、担当者がALTの勤務校へ出かけていくほか、メールでのやりとりも行われた。

試作では、ALTが自宅で実際に料理を作ってみて、手順や材料などを再確認した。

● 広報・参加者募集

公民館が月1回発行する情報紙に参加募集を掲載した。事業実施の1ヶ月前に掲載し、応募締め切りは1週間前とした。応募方法は電話による。

中学生から60歳代まで幅広い参加があった。参加資格は特に設けていないが、中学生以下の参加者には、保護者の同伴を求めた。

なお、参加者が少ない事業なので、参加決定通知については書面では行わず、各参加者に電話で必要事項を伝えた。



【事例提供】坂井市（福井県）教育委員会 三国教育分室 0776-82-6400（代）



● 会場確保

会場となる公民館へ利用申請を提出。市の事業のため使用料は不要。

● 通訳手配

通訳は、担当者の知り合いである市民ボランティアグループのメンバーに依頼した。

● 資料の作成

料理の解説は、担当者がインターネットで調べて作成。レシピは、ALTが英語で作成したものを、担当者が日本語に直して黒板に書いた。

● 材料買出し

材料は、実施前日に担当者とALTと一緒に買出し、冷蔵庫で保管した。

■ 予算

材料代は参加者負担。通訳はボランティアのため謝礼は支払っていない。

会場となる公民館は、市の事業であるため無料で使用できた。

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

「来てみて」「食べてみて」「しゃべってみて」という気持ちで講座を企画しています。今回の料理編では、普段日本では食べられないような料理（日本では購入できない香辛料を使った料理など）、または簡単に家でも作れる料理、という内容で実施しました。スコーンはとても簡単で短時間で出来、美味しくて好評で、「早速明日、作ってみます」と言われる方が多かったです。

文化紹介プレゼンのパワーポイントはとてもよく出来ていて、どの写真もととても綺麗で、みんな見入っていました。

アドバイスとしては、司会・進行者は司会・進行のみに徹することです。受付、通訳などは他のスタッフ、できればボランティアの人をお願いするとスムーズに進行できます。また、講座で料理をする場合、各グループのテーブルに予め材料を分けて置くと、時間のロスがありません。

クレアの独り言

料理教室のように参加者が実際に何かの作業を行う「体験型」の講座は人気があります。今回紹介した料理教室以外にも、JETの趣味や特技を生かした様々な題材、例えば「ダンス」や「ワイン」、「映画」、「アクセサリ製作」などを用いて文化紹介を行っている事例が多数寄せられました。



How to make scones...

ingredients

- 225g flour
- 4 teaspoons baking powder
- 50g butter
- 25g sugar
- 1 egg
- milk ~ 150ml

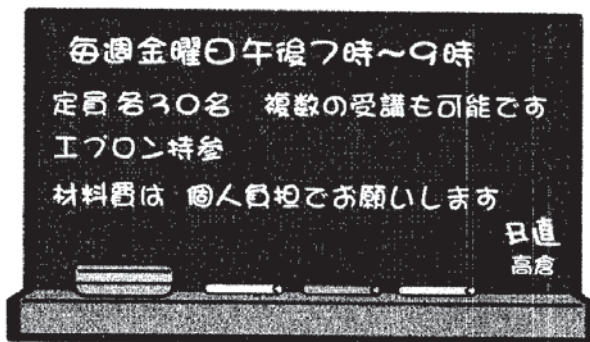
1. Put flour & baking powder into a bowl - add butter, rub in with your finger tips.
2. Break egg into a cup, then make up to 150ml with milk. Stir egg & milk into the flour - you may not need it all - and mix to a soft but not sticky dough. Knead on a board and roll to a thickness of 1cm.
3. Cut into circles ~ 5cm. Brush tops with egg & milk mix. Put on greased tray - in oven - 220°C - 10 minutes.



資料2 講座案内のチラシ

異文化交流講座 (料理編)

聞いてみて 作ってみて 食べてみて



魅力満載



お友達をお誘いのうえ 奮ってご参加ください *新しい出会いを!*
初めての味を!

! 定員にないしだい 締め切らせていただきます。

Let's enjoy cooking & talking together!

7/14 (金)

タイの文化と料理
 トムヤンクン
 ヤンパムック

清水 順子 先生



7/21 (金)

英国
 お茶とクッキー
 三中ALT
 ジョー・ライディング
 先生

7/28 (金)

ブラジル
 ガラナジュース
 ブラジルのおやつ

間宮 由美子 先生



申し込み
 問い合わせ

三国公民館内 三国教育分室
 82-6400

国際交流キャンプ

事業概要

(1) 内容

市内の小学生を対象に、1泊2日でキャンプを実施する。子供たちは、外国人のキャンプリーダーやボランティアと一緒に、ゲーム、レクリエーション、ハイキング、各国の勉強や民芸品の作成などを行う。CIRが企画から実施まで全般に携わる。

期 間	1泊2日
場 所	清和県民の森
対 象	市内の小学校5～6年生 (参加費 1,800 円)
規 模	16人
主 催	市企画課
予 算	5～10万円

(2) 目的及び効果

外国人と交流しながら言葉や文化を体験・学習することにより、異文化理解を図る。

■ 実施の流れ

1. JET の役割

キャンプには、キャンプリーダー及びボランティアとして8人の外国人が参加した。

キャンプリーダーは4人おり、各リーダーに子供たちがついてグループを形成する。リーダーはキャンプ中それぞれのグループを引率する。ボランティアは各グループのサポート役となる。

これらの外国人は、CIRの人脈により集められたが、そのうち7人がJETであった。

2. プログラム構成

①ハイキング

当日は午前中に集合し、バスで1時間ほどかけてキャンプ場まで移動した。

キャンプ場のある県民の森入口からキャンプ場までハイキングを行い、途中で昼食をとった。

②文化紹介

キャンプ場に到着後、グループごとに分かれ、異文化学習の時間として、キャンプリーダーがそれぞれの母国の文化を子供たちに紹介した。

例えば、アメリカ人のリーダーはドリームキャッチャー(ネイティブアメリカンのお守り)作りやヒップ

ホップダンスを指導し、メキシコ人のリーダーはメキシコの国旗について話し、オーストラリア人のリーダーはオーストラリアの小学生の制服や教科書を紹介した。

最後に全グループが集まって、自分たちの学んだことを発表し、共有した。

③夕食

夕食もまたグループに分かれ、それぞれの国の料理を作った。

オーストラリアチームはカンガルー肉のハンバーグ、メキシコチームはタコスを作り、皮から作った。

④キャンプファイヤー

夕食後はキャンプファイヤーを囲んで、マシュマロを火で焼いて食べたり、歌を歌ったり踊ったりした。

⑤宿泊

会場である県民の森にあるロッジ村で、子供たちと外国人が一緒にロッジに泊まった。

⑥翌日

翌日は、朝食を済ませるとすぐに帰途に着き、昼頃に帰着した。

3. 実施言語

キャンプ中は基本的に日本語で進行するが、勉強コーナーは主に英語で指導する。子供たちは全てを理解しなくても、身振り等で意思疎通できるが、どうしても困ったときは、CIRが通訳する。

4. スタッフ

スタッフとして、市の職員が7人同行した。

■ 必要な準備

● 参加募集

事業実施の1ヶ月前に、市の広報紙と地元新聞紙に募集記事を掲載した。同時に各学校へもチラシを配布した。



カンガルー肉のハンバーグ

【事例提供】館山市（千葉県） 企画部企画課 0470-22-3147



グループに分かれて勉強コーナー

定員 20 人で募集したところ、16 人の応募があった。市内には小学校が 10 校あり、各校から 1～2 名が参加している。キャンプは土日で開催したが、最近は学校行事や習い事で忙しい子供が多いという。

● 外国人スタッフ

外国人は、CIR の知り合いなどを通じて参加を呼びかけたほか、近郊の JET へ一斉にメールで呼びかけた。決定した外国人スタッフには、参加者に配布している案内状を英訳して配布し、その後は頻繁にメールをやり取りしながら、質問に答えたり、必要な準備を依頼したりした。

● 父兄への説明会

実施 1 週間前に、参加者の父兄を集めて説明会を行った。

● プログラム企画

企画は事業実施の 3 ヶ月前から始めた。CIR が中心となってアイデアを出し、日本人担当者と話し合いながら決めていった。

グループに分かれる場面では、キャンプリーダーに内容を任せた。必要な資材の調達もリーダーに任せ、後で経費を補填した。

また、当日の天候変化に対応できるよう、雨天時の室内アクティビティも準備しておいた。

● 会場確保

日程調整と会場の確保は最優先事項である。学校行事との兼ね合いや、ALT のスケジュール、気候など様々な要因を考慮しながら日程調整を行い、3 ヶ月前には会場を確保した。

● 使用備品

クーラーボックスなど細かな備品は、スタッフである市職員の私物を持ち寄った。特に大掛かりな備品は



みんなで記念撮影（後ろにはきのこロッジ）

使用していない。

■ 予算

会場費が約 5 万円、リーダーへの謝礼が約 3 万円、その他合わせて全体で 8 万円程度。

参加費を徴収しているが、これは食材費及び保険料（レクリエーション保険）に充てられる。バスは市所有のバスを使用したため無料。

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

参加児童の対象が小学校 5・6 年生になっている理由はそれ以下の学年ですと保護者や教師不在では指導しづらいからです。それから参加児童が男女混合になっているため、女性のニーズに対応できるよう、女性の市職員が同行することを勧めます。

また、このようなキャンプを少し変更すれば中学生や高校生にも相応しいものになるでしょう。例えば、短期間で英語能力を身に付けるよう、また参加者が外国人に実際の英語に挑戦できるよう、キャンプを全体的に英語キャンプに変更することが出来ます。

クレアの独り言

夏休みに学校を離れ、自然の中での体験は子供にとって大変良い思い出になることと思います。

宿泊を伴う実施が難しければ、デイキャンプという方法もあります。そのような事例も多数寄せられました。

国際キャンプ・スケジュール (雨天の場合は若干の変更があります)

7月8日(土曜日)

- 09:00 担当者集合
荷物をオデッセイに積み込み
- 09:30 補助職員集合
- 10:00 参加児童集合(市役所4号館)
- 10:15 清和県民の森へ出発
- 11:15 清和県民の森到着
- 11:30 木のふるさと館で自己紹介、グループ分け、名札配布など
- 11:45 ハイキング(木のふるさと館から展望台まで)
- 12:30 展望台で昼食
- 13:00 ロッジ村までハイキング
- 13:30 チェックイン・寝具配布・部屋割りや準備
- 13:45 グループで各国の勉強
- 15:30 一同で発表会・クイズなど
- 15:45 各グループで夕食準備
- 18:00 夕食・片付け
- 19:30 キャンプファイヤー マシュマロー焼き等
- 20:40 キャンプファイヤー後片付け
- 21:00 就寝

7月9日(日曜日)

- 06:30 起床
- 07:00 朝食準備
- 08:00 朝食
- 09:00 後片付け(台所・きのこロッジ・コテージ)
(10:00頃 チェック・アウト)
- 10:30 館山へ出発
- 11:30 市役所4号館到着・解散

(参加募集記事)

国際キャンプのお知らせ

外国人キャンプリーダーとキャンプに参加しませんか。外国のことを勉強したり、料理に挑戦したりしながら、外国の文化に触れてみましょう。

1. 日程 7月8日(土曜日)～9日(日曜日) 1泊2日
2. 場所 清和県民の森ロッジ村(君津市)
3. 対象者 小学校5・6年生 20名
4. 応募方法 ハガキに、国際キャンプ参加希望の旨と、住所、氏名、性別、生年月日、保護者氏名、電話番号、学校名、学年を記入し郵送してください。応募者多数の場合は抽選により決定します。
5. 応募期限 6月19日(月曜日)必着
6. 参加費用 1,800円程度(傷害保険料含む)

* 6月26日(月)に保護者同伴の説明会を開催いたします
時間:16:00～17:00 場所:館山市役所本館2階会議室

申し込み・問い合わせ 企画課国際交流係
〒294-8601 館山市北条1145-1
TEL 22-3147 FAX 23-3115
E-mail kikakuka@city.tateyama.chiba.jp

資料2 参加者への通知文

平成18年 国際キャンプ案内

目的

外国人キャンプリーダーやボランティアと一緒にキャンプを行い、ゲームやグループ行動などを通じて初歩的な英語を勉強したり、料理に挑戦したりしながら、外国の文化に触れることにより異文化の理解を深めることを目的とする。

持ち物

弁当と飲み物（1日目の昼食はハイキング途中でのお弁当になります。各自ご用意をお願いします。）・保険証のコピー・長袖及び半袖シャツ等の着替え・ジャージ等（寝間着用）・タオル・雨具・懐中電灯（ペンライトは不可）・皿、コップ、フォーク（プラスチックなどの割れにくいもの）・筆記用具

- ※ 参加費【約1,800円】当日市民センター集合時に集金します。
お小遣いは基本的に必要ありませんが、念のために500円持参させてください。
持ち物にはできるだけ、記名をしてください。
1日目のハイキングの際、昼食など必要な物以外の荷物は車でロッジ村に運びます。

緊急連絡先

清和県民の森ロッジ村公衆電話 0439-38-2216
ロッジ村の宿直職員がおりますが、近くにいなかったり、就寝後であったりするとなかなか通じにくいかもしれません。その場合は少し長めに呼び出しを続けるか、しばらく経ってからおかけ直しいただくようお願いします。

スタッフ

館山市国際交流員・キャンプリーダー・館山市職員・ボランティア

外国人キャンプリーダー

4人+ボランティア3人

18年度国際キャンプ役割分担

● 荷物の搬入

担当者と国際交流員は市役所から荷物を公用車に積み込み、09:00には公民館の冷蔵庫から野菜類、肉類、デザート等を車に積込んでから市役所の駐車所に向う。

● 交通案内

当日、国際交流員は駐車所の近くに立ち、外国人キャンプ参加者や児童の保護者を駐車所に案内する。

● ハイキング中の安全管理

ハイキング中は国際交流員が先頭でグループを案内し、担当者は列の最後で落伍者を防ぐ。同時に外国人キャンプ参加者は児童の安全を守る。

● 記録写真

撮った写真は後日にキャンプ参加者に販売する予定。

● 寝具の配付・回収

シーツを参加者全員に配付し、日曜日の朝にまた参加者から回収し、ロッジ村職員に返す。最後に各部屋の忘れ物を確認する。

● 薪割り

キャンプファイヤー所は一箇所のみですので、この係はキャンプファイヤー所を取り、薪の準備をする。すぐにキャンプファイヤーができるよう、薪を重ねる。

● グループ活動の補助

グループは4つあり、指導するのは4人のキャンプリーダー。グループ活動が円滑に行うように補助する。

● キャンプファイヤー

キャンプファイヤー用薪の準備。マシュマローを刺して焼く竹棒の準備。

夕食を済ましてからキャンプファイヤーの準備を始める。薪に火をつけ、注意して安全なキャンプファイヤーを作る。マシュマロー、クラッカー、チョコレート板を準備し、キャンプ参加者に配る。キャンプファイヤーが終了したら、キャンプファイヤー係は皆と一緒に後片付けをし、なるべくキャンプファイヤー場を元通りにする。

資料3 役割分担表2

● 食事の補助

夕食は各グループ（班）に分かれてグループとして料理を作る。出来上がった料理はテーブルに置いて、参加者全員が分け合ってして食べられるようにする。グループによって作る料理の出来時間が違うため、皆が一斉に完成するように注意が必要。

お皿の用意や食材を各グループにわけて、夕食が作られる際に各グループの進行状態を確認しながら、なるべく全グループが同時に出来上がるように指導する。

日曜日の朝に早めに準備を始める。お皿の用意や、料理を作り始める。朝食はグループごとではなくて、ばらばらになって作る。単品の数が限られた場合は注意して、参加者に伝える。きのこロッジやコテージの後片付けがあるため、なるべく早めに朝食を済ませて、お皿や料理道具を参加者に洗ってもらう。

● 夜間緊急対応

キャンプ参加児童が病気になった時や怪我した時に公衆電話で保護者等と連絡をとって(携帯電話には電波が入らない為) 状況に応じて対応する。救急箱は用意する。

● 女子児童のケア

特に今回女子児童が多いため(女子11人、男子5人)女子児童のケアが必要。市職員一人以外にも女性外国人キャンプ参加者は4人いる。

● 後片付け

片付けしなければならないのは；各ロッジ、コテージ、調理場、テーブル、キャンプファイヤー場等。館山市ゴミ袋を持参する。児童参加者にも協力するように注意する。

事務分担表

総括・庶務	○ 担当者
荷物の搬入	○ 担当者 国際交流員
交通案内	○ 国際交流員
ハイキング中の安全管理	○ 担当者 国際交流員 外国人参加者
記録写真	○ 市職員二人
寝具の配付・回収	○ 市職員二人
薪割り	○ 市職員二人
グループ活動の補助	○ 国際交流員 市職員二人
キャンプファイヤー	○ 市職員三人
パエリア	○ 市職員二人
食事の補助	○ 国際交流員 市職員二人 外国人ボランティア
夜間緊急対応	○ 担当者 市職員一人
女子児童のケア	○ 市職員一人 女性ボランティア
後片付け	全員

国際理解・交流イベントでの活用法

その他の事例

国際理解・交流イベントでの活用法としては、他にも以下のような事例が寄せられました。

■ 講座・講演会

公民館講座や国際交流協会主催講座、学校行事などで JET が講師を務める講座や講演会を行う事例は多い。テーマとして「母国紹介」、「外国人から見た日本」などの定番から、「男女共同参画」、「訪日観光の現状分析」といった専門的なものまで見受けられる。

■ フェスティバル参加

地域の国際交流フェスティバルに参加し、ステージアトラクションやブース出展などで外国の文化を紹介する。「集める」手法から「集まる場所へ出向く」手法への転換といえる。

また、地域で古くから行われている祭りに参加し、地域住民とともに太鼓や踊り、みこしなどに加わって交流を深めるという方法もある。

そのほか、地域の祭りに参加する外国人ボランティアを募集し、そのコーディネーターを JET が努めるという事例もあった。

■ 対話サロン

外国人と気軽に話せる場を提供する。情報交換、意見交換による交流に主眼がおかれている点で英会話教室とは異なる。

国際交流協会が主催する場合が多く、協会内のスペースを使い、決まった曜日・時間に参加者が集まり、自由に雑談する。毎回テーマが設定されることもある。

■ 国際交流サークルに所属

JET が地域の国際交流サークルに所属し、定期的に会合に参加して会員とのコミュニケーションを図るとともに、国際交流イベントの企画運営にも携わる。

■ 短期滞在外国人と地域住民との仲介

研修や留学等で短期に日本に滞在する外国人が地域住民と交流する仲立ちを行う。県費留学生や姉妹都市からの研修員などが対象となる。

ホームステイプログラムや交流イベントなどを企画し、コーディネーターとなって彼らと地域住民との接点を作る。JICA(国際協力機構)が招聘する研修員を対象にした事例も見られた。

「これぞ定番！」活用法

(4) これからの定番! 「経済」「多文化共生」



これからの定番！「経済」「多文化共生」 外国人向け英文情報誌の作成

事業概要

(1) 内容

在住及び訪問外国人を対象とした英文情報誌「ASAHIKAWA Info」の作成に CIRを活用する。CIRは主に紙面の編集にあたり、また自ら原稿も一部執筆する。

(2) 目的及び効果

外国人に対し、地域の魅力を伝え、地域で今何が起きているかを伝えることで、地域への参画を促す。

発行	毎月1日
配布先	旭川市内各所及び札幌市内数箇所
対象	在住及び訪問外国人
発行数	300部
発行者	旭川市国際交流委員会
予算	6～7万円

■ 情報誌について

● 刊行

ASAHIKAWA Info は、1992年に旭川市国際交流委員会から情報誌として第1号が発行された。当時は季刊であったが、1998年に CIR が配属されたことで月刊化が可能となった（最初の1年は隔月刊）。

また、2005年からはウェブ版（インターネットで公開）も作成し、発行部数はそれまで500部であったが、ウェブ化により300部とし軽減化を図っている。

● 紙面

全12ページから成る紙面は、各月のイベント情報にはじまり、旭川での生活を紹介するエッセイ、在住外国人へのインタビューなどの読み物が続く。旭山動物園のコーナーでは、毎月異なる動物をとりあげ紹介している。

そのほかにも、近郊の行楽ガイドや地元レストランのレビュー、映画館の公開スケジュールまで掲載されており、市販のタウン情報誌にも引けをとらない充実した内容になっている。

● CIRの役割

CIRは、編集作業を主に担当するほか、イベント情報コーナー及び不定期連載コラム「I Love This About Asahikawa(CIRの視点から市での様々な経験を語る)」の執筆を行っている。

また、インタビューコーナーでインタビューの対象となる外国人の紹介や担当者（日本人ボランティア）の連絡調整等もおこなっている。

■ 作成の流れ

1. スタッフ

原稿作成に携わるのは、市民によるボランティアスタッフ10名（うち外国人3名）。もともと登録ボランティア制度を持っており、その中から翻訳など外国語の技能があると申告しているボランティアに声をかけて集めた。主婦から定年退職した人まで幅広い年齢層が集まっている。

彼らが書いた原稿を CIR がチェックし、編集、製本、印刷する。なお、ウェブ版は日本人担当が編集している。

2. 編集会議

年1回編集会議を行い、その年の紙面構成と、各コーナーを担当するボランティアを決定する。その後、各月のコーナーごとの内容は、担当となったボランティアがその都度決定する。

3. 情報収集

各担当ボランティアが、コーナーの趣旨にあったトピックを選び、取材にあたる。前月の15日までに取材を完了する。

イベント情報担当である CIR は、市民会館や公民館などを取材して情報を集めるほか、毎年定期的に行われるイベントについては、情報を蓄積しておいて、その時期が近づいたら主催者やイベントのウェブサイトから情報を集めるようにしている。



4. 原稿作成

初稿は前月 18 日、最終稿は 20 日までに CIR へ提出する。なお、原稿は全て英語で作成。

5. 編集・校正

提出された原稿の英文チェックを行ったあと、紙面にレイアウトし、デザインを行う。文字のほか、写真や絵も配置し、国際交流委員会の日本人スタッフ 2 名による校正、ボランティアアドバイザーによる最終校正を経て、完全原稿を作成するのに、5 日程度を要する。

6. 印刷

印刷は事務室に備え付けの印刷機で行う。外注はしていない。印刷も CIR の仕事である。

7. 配布

作成した情報誌は、英会話学校、駅構内、観光案内所などで配布するほか、在住外国人の希望者（ほかに手に入れる手段が無い場合）には郵送もしている。また、ウェブ版は市のウェブサイトで公開している。
<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kokusaikouryu/ashkwinfo/front/front_current.htm>

■ 予算

紙代（色紙を使用）、印刷用インク代、編集会議での弁当代

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

日本人ボランティアにとっては、ネイティブの CIR が英文チェックをしてくれることで、英文執筆への抵抗が減り、また訂正箇所から英語表現・言い回しなど学ぶことが出来ます。

在住外国人執筆による英文記事は、ネイティブならではの内容とユーモア、しかも身近な題材で読者も関心を寄せており、市内英会話学校やプライベートレッスンに掲載記事を活用する在住外国人講師も多くいる程です。ある民間英会話講師は、市の ALT に採用されたことをきっかけに、一読者から執筆者になりました。彼によれば、地域の話題が中心なので、読者は街中で行事を見かけると「ああ、これが情報誌に載っていたものだな」と、そこで行われていることを理解することができ、それが地域への帰属感を高めることにつながっているようです。

CIR はコラムを担当することで、自ら出掛け初対面の人からも取材することで、地域住民との接点ができるなど多くのことが学べます。記事の内容選定については、本人が日頃から気になっていること、また日本人スタッフからのアドバイスもあります。取材の成果もあり、日本人読者から「我々旭川住民でもここまでは知らなかった」と言われるほど内容は充実し高い評価を得ています。

日本人スタッフ 2 名の校正に加え、長年様々な刊行・発行物校正に携わっているアドバイザーがボランティアで最終校正に当たり、誤った表現・表記（特に日本文化・歴史等）がないか再度確認し、細心の注意を払うよう心がけています。

クレアの独り言

とにかく内容の充実ぶりに驚かされます。ボランティアによる手作りでこれだけのものが出て来るとは！是非ウェブサイトをご覧になってみてください。

ASAHIKAWA Info

Page 7

I Love This About Asahikawa

The Correct Way to Write Tokiwa Park?

By James MUTTER

Tokiwa Park, which sits directly between the downtown core of Asahikawa and the Ishikari River, offers an oasis for people seeking to escape the hustle-bustle of the occasionally crowded city. The park is not only home to the city's central library, the Hokkaido Asahikawa Museum of Art, a branch of the Kamikawajinja Shrine, and a fabulous lake, but also holds major annual events such as the Winter Festival, the Gokokujinja Shrine Festival, and the summer firework competitions. The park was first opened in 1916, six years after the park land was transferred from the national government to the municipal government, and in 1989, had the honour of being ranked amongst the top 100 municipal parks in Japan. However, there is one thing that visitors may find odd about this park.



Stone sign at entrance to Tokiwa Park

For the kanji masters of Asahikawa, you may be wondering why the Chinese characters for Tokiwa Park (常磐公園), carved into the large stone at the entrance, differ from those used for Tokiwa Dori (常盤通り) and other organizations in close proximity. If you look closely, you will see that the character the park uses for “wa” includes the character “ishi” (石), meaning rock, whereas the character the street and other names in the area use contains the character “sara” (皿), or plate.

The park's name has not always been written this way, and is in fact incorrect. A map of the area printed in 1925 reveals that the characters for the park were once identical to the characters used in the names in the area. The stone with the incorrectly engraved characters at the entrance to the park was donated in 1928 by a wealthy resident of Asahikawa named YAMAZAKI Masagorō; however, it was not him who made the mistake. He merely ordered the stone intending it to be carved incorrectly. We can therefore assume that some significant event must have occurred in the three year period between when the map was printed and when the stone was donated.

It turns out that the kanji culprit, who originally made the mistake that has remained uncorrected for some 80 years, was one WATANABE Jotaro, commander of the 7th Division of the Imperial Japanese Army from 1926 to 1929. WATANABE, originally from Aichi Prefecture, led a

prominent military career and came to command the 7th Division in Asahikawa, where the headquarters was located.

WATANABE was asked to write the park characters during a calligraphy session one day, and instead of using the character for “plate” (*sara*) he used the character for “rock” (*ishi*). It may seem odd that no one attempted to correct the commander's mistake; however, it has to be understood that no one in the city was in the position to do so. As commander of the 7th Division, WATANABE was effectively the most powerful man in the city, and not even the mayor himself could so much as inform WATANABE of his mistake. An imperial rescript of 1882 proclaimed the armed forces' unquestioning loyalty to the Emperor and asserted that commands from superior officers were equivalent to commands from the Emperor himself. Top ranking military leaders were given direct access to the Emperor and authority to transmit his pronouncements to the people. The military was essentially independent of the elected civilian government and the War Minister was accountable only to the emperor. Whatever WATANABE said or wrote, was in essence coming directly from the divine leader, and was thus unquestionable. Therefore, WATANABE's rendition of the park's characters soon became standard.

There is some controversy as to whether or not the commander intentionally wrote the character incorrectly. However, it was most likely a mistake that the people of Asahikawa were willing to overlook. The small town of Asahikawa was heavily dependant on the economic activity that the military brought, and a kanji mistake was not something over which the people would risk offending the commander.

Upon completion of his duties in Asahikawa, WATANABE went on to command the Taiwanese Army (which was under Japanese control at the time) for a year before rising to become General of the Imperial Japanese Army. Although WATANABE's influence over the country came to an abrupt halt when he was murdered in 1936, the mark he left on Asahikawa continues to live on.




Chidori-ga-ike Pond in the heart of Tokiwa Park

資料2 在住外国人へのインタビュー “Hello Asahikawa”

Page 8

ASAHIKAWA Info



Hello Asahikawa!

Name: Aaron Labbe
Hometown: Cadillac, Michigan, U.S.A.
Interviewed: December 5, 2006
By TAKADA Nobuhiro

AIC: *Would you tell me what your hometown is like?*
Aaron: My hometown is a small rural community that is located in a forested area of Michigan. It's a beautiful place and nice to grow up in, but not very active for single people. It's more of a family community.

AIC: *What do the people in your hometown do to make a living?*
Aaron: Most of the people in my hometown have regular jobs. There are a number of factories in the town. The major industry is mostly factories. It's a very small town, so jobs are limited as well. There are only 10,000 people in the whole town. There are factories, schools and hospitals.

AIC: *What kinds of factories are there?*
Aaron: I am not sure if it is still there, but there used to be a large boat factory. There is also one of my friend's companies where they built nuts and bolts. They once built a 60 foot long screw for a huge telescope in Seattle. The screw they built lets the huge telescope rotate.

AIC: *What about the climate there?*
Aaron: It's very much like Asahikawa. It's hot and humid in summer, and very cold with lots of snow in winter.

AIC: *What do you do here?*
Aaron: I work at EC Eikaiwa as an English teacher.

AIC: *How do you help your students learn English?*
Aaron: One of the biggest things I try to do is to use the most natural expressions I can while they are studying and to make sure that the expressions they use and the words they use are natural and correct as well. I do a lot of correction within their sentences, even the little things of articles and prepositions. Mostly I just try to help them say what they want to say in the most natural way possible.

AIC: *What are the goals of your students in learning English?*
Aaron: It differs for each student. Many of them study because they want to improve their English so they can travel or live abroad. There are a number of them who are studying because of professional goals. They work with international companies or they want to get a promotion. Then there are some who just want to talk and enjoy communicating with others and learning another language allows this.

AIC: *Have any of your students gone to the United States to get a job?*
Aaron: Actually we have had a number of students go to the United States and get a job and a number of students who have become students after they came back from the United States, or other countries as well. Everything from waitresses and students who go there and work part-time to doctors and scientists who go for research. There is a little bit of everything.

AIC: *I heard you have been learning Japanese. How do they teach Japanese at the AIC class?*
Aaron: I have a very good instructor. She is very helpful and very good at explaining things. She goes at a very good pace. We have started learning *hiragana* and we are now studying *katakana*. In addition to learning *hiragana* we have been adding vocabulary and basic sentence structure to try and build up. My Japanese is still not very good.

AIC: *It is said that language teachers should always learn new languages. Does learning Japanese help you teach English?*
Aaron: Certainly. The experience of being a student really opens the eyes of the teacher and can give us a first hand experience of how it feels to not understand, or the frustration of not being able to express yourself. It helps us really empathize with the student and help them through that frustration.

AIC: *How long have you lived in Asahikawa?*
Aaron: Most recently I moved here in July of 2006. Previously I had lived here for two years with another year in Sapporo. So I had spent three years in Japan before going back to America for one year. And I have returned for a second chance at Japan.

AIC: *What made you come to Japan this time?*
Aaron: This time I decided to come back because I missed what I was doing here. I had the year experience of teaching at high school in America. I won't say I did not enjoy it, but it was not the best it could be. Comparing the two, I enjoyed my life in Japan better, so I came back.

AIC: *Thank you much.*
Aaron: Thank you.

ASAHIKAWA Info Page 9

LET'S GO OUT


A day trip from Asahikawa <<Ororon Line>> By MATSUDA Atsuko

Asahikawa (09:00) = Rumoi (11:00-12:00) = Mashike (12:20-13:30) = Attama-ru (14:00-15:00) = Asahikawa (17:30)

The snow season is around the corner, making the month of November your last chance to enjoy driving this year. The Ororon Line is one of the most beautiful drives in Hokkaido. Don't drive too fast and enjoy the scenery.

1 Rumoi

Rumoi is famous for its fresh seafood. Take a look around town and find your own favorite sushi restaurant and eat an early lunch. The famous restaurants are Maruki-zushi and Janome-zushi.



©Rumoi Tourist Information


After you have satisfied your appetite, try visiting the *sembodai*. It is a view point from which you can see the town of Rumoi as well as the Sea of Japan. If the skies are clear, you will be able to see Mt. Rishiri Fuji, Mt. Teuri, and Yagishiri Island in the distance from atop the *sembodai*. This place is not exceptionally special, but it is nice to take a break and view the town. There are other view points such as "Ogonmisaki (Golden Cape)," famous for its beautiful sunset.

Tel: 0164-43-6817 (Rumoi Tourist Information Center)
Address: Rumoi-shi Reuke

3 Attama-ru (Hot Spring)

Do you feel cold after walking around town? The best place to warm up is the hot spring named "Attama-ru" (meaning "get yourself warm"). But the best part of this hot spring is the view from the outdoor bath. The blue sea stretches out from a close proximity and the sunset is marvelous if you stay late. The hot spring is located along route 231 and easy to find. There is also a small food court if you get hungry.

Tel: 0164-55-2024
Address: Mashike-cho Iwaoi 109-1
Hours of Operation: 11:00-22:00
Closed: Mondays
Admission: ¥500



©Mashike Town


The Ororon Line encompasses the Sea of Japan coastline road from Wakkanai to Otoro and the sea lines to Rishiri, Rebun, Teuri, and Yagishiri Islands. The area remains covered in undeveloped natural resources and is a great place to just drive and view the simple natural scenery. On the way back to Asahikawa, in order not to follow the same route you came by, drive to Hanamatsu and take route 451 through Sintotsukawa and Takikawa. By the way, the word Ororon comes from Otoro. The birds are only found on Teuri Island and endangered species. Enjoy the drive to remind you, but never drink and

2 Kunimare Shuzo

Kunimare Shuzo is Japan's northernmost sake brewery and has a long history that dates back to 1882. The business began with herring fishing and later expanded to sake brewing. The historic building is worth seeing.

Of course you can buy their products here, and also see the sake making process, not to mention sample pure sake making water. There are a lot of important cultural assets in Mashike, besides Kunimare Shuzo, such as School, and H and take picnic there are designed.

Tel: 0164-53-
Address: Mas
Hours of Op




© Kunimare Shuzo

ASAHIKAWA Info Page 5

This Month's Recipe

Mushroom Fries By Sharon SAMUELS



The variety of mushrooms available at every local supermarket here in Japan astounds me. Go on the days of seeing shiny white mushrooms into every dish I make. Here, not only do mushrooms come in a dizzying selection but they are also affordable and thus a great addition to any meal. One of my favorite new recipes here in Japan is Mushroom Fries. They are quick, cheap, and easy to make, anyone can do it. The hard part is not eating them all before you sit down for dinner. Enjoy.


Bring* mushrooms (one pack, try to select a pack with three evenly sized mushrooms)
1 troy olive oil
1/2 tsp granulated garlic
1/4 tsp paprika
Salt to taste

Prepare mushrooms by removing the lower part of the stem and then cutting lengthwise into quarters or eighths (for the larger mushrooms). Place mushrooms in a bowl with olive oil, granulated garlic and paprika. Toss well until evenly coated. Place on a shallow pan in a single layer. Place the pan into a warm fish grill set to medium. Allow to cook until the tops are sizzling approximately three minutes. Turn the mushrooms over in the pan and cook until they are sizzling once more. Remove from the fish grill and toss with salt to taste. Serve warm.

*Bring mushrooms are sold two or three to a pack. These mushrooms are white in color with an elongated and thick stem. Their cap is scarcely broader than the stem it rests upon. When sliced open they have a faint sour smell which is retained while cooking.

Restaurant Review

By TORII Naoki



chick, the bartender, will serve you many kinds of drinks suited to your taste.

After drinking, I sometimes get hungry. In these cases, I often go to the Chinese restaurant "Karyu-kaku." "Karyu-kaku" offers such Chinese dishes as fried rice, fried noodles, ramen noodles, and gyoza. I particularly like the "shangpen" and "sui gyoza." "Shangpen" is ramen with sautéed vegetables, meat, and sautéed rice top. "Sui gyoza" is a kind of gyoza made by adding sautéed soup stock by gyoza. After eating all this, I am at last ready for the walk home. During my walk, I reflect on how I once again ate and drank too much.

can-do-vie
BF, Kawai bldg, Miji 10, 3-jyo-dori 6-chome, Asahikawa
Tel: 0166-27-0661
Open: Monday to Saturday, 7:00 p.m. to 3:00 a.m.
Table Charge ¥1300, Cocktails ¥800, Food ¥500-

Karyu-kaku
OF, Hideri 1, 1-jyo-dori 7-chome, Asahikawa
Tel: 0166-23-1644
Champion ¥800, Mixed fried rice ¥1,000, Sai-gyoza ¥450
Open: Monday to Saturday 5:00 p.m. to 3:00 a.m.
Sunday and public holidays 5:00 p.m. to 12:00 a.m.

「これを定番!」活用法 入門編 (4) これからの定番! 「経済」 「多文化共生」

54 外国人向け英文化情報誌の作成

Movie schedules often change. Please call the theater for confirmation and details.

これからの定番！「経済」「多文化共生」 観光立村事業での活用

【事例提供】立山町（富山県） 産業観光課 076-463-1121（代）

事業概要

(1) 内容

外国人をターゲットにしたグリーンツーリズム(ヨーロッパで普及している旅の形で、民家に宿泊して自然や文化にふれあう滞在型の余暇活動)による村おこしプロジェクトに、ALTを活用する。ALTはグリーンツーリズム推進協議会のメンバーとなり、PRパンフレットの作成、広報、外国人の視点でのプログラムモニタリングなどを行う。

(2) 目的及び効果

外国人に、日本の原風景の残る田舎で、人と人とのふれあいを通じて、日本文化の本当の魅力を伝える。

期間	3年間 (事業立ち上げ期間)
場所	町内各所
対象	外国人観光客
主催	町産業観光課
予算	0



体験メニュー越中瀬戸焼に挑戦

■ 実施の流れ

ALTは、プロジェクトの様々な場面で活用されている。以下に、ALTが関わったものについて紹介する。なお、ALTは普段は学校で勤務しており、その合間を縫ってプロジェクトに参加した。

1. グリーンツーリズム推進協議会

2003年にプロジェクト推進の中心組織として、グリーンツーリズム推進協議会が設立された。農業、観光、医療、商工業などの関係者や地元代表者ら20人の委員で組織されている。

ALTもメンバーに加わっており、年3～4回開催される会議では、外国人の視点から意見を述べている。

2. モニタリング

プロジェクトの準備段階では、グリーンツーリズムの売りである農家民宿体験や焼き物作りなどのメニューについて、外国人20人によるモニタリングを行っている。

ALTは、モニターとなる外国人を集め、彼らが実際にメニューを体験した感想を聞き取り、資料にまとめた。

また、自ら焼き物作りを体験し、外国人の目から見た、メニューの魅力と課題について意見を述べた。

3. 意見交換会

グリーンツーリズムの課題を探るため、地域住民との意見交換会を開催した。国籍にかかわらず地域住民が一堂に会したこの会では、外国籍住民からも様々な意見が出された。

例えば、欧米では全ての通りに名前が付いているが、日本の町名は区域に対して名前が付いているので欧米人には解りにくいとの指摘があり、案内看板が設置されることとなった。また、農家民宿体験は外国人には非常に魅力的であるとの意見も出た。

ALTもこの会議に参加し、外国籍住民として意見を述べた。

4. 広報

広報媒体として、グリーンツーリズムの活動を紹介するビデオを作成しており、ALTは英語のキャプションを担当した。

■ 予算

ALT活用部分にかかる予算はなし。

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

英文による「グリーン・ツーリズム事業紹介」を作成する際、町ALT、及びALT仲間の外国人とを交え、ワークショップを重ね、的確な英文表記のアドバイスを受けることとなった。

学校での交流に加え、実際に立山町に住み、より多くの町民らと交流しているALTであるからこそ、英文への直訳に終始することなく、立山町の魅力を広く伝えることのできる温かい英語表記による記載に繋がったと思われる。

クレアの独り言

このような事例の場合、CIRを活用するのは多いですが、日本語の得意でないALTでもここまで活用できるというお手本のような事例ですね。

これからの定番！「経済」「多文化共生」 その他の事例

経済・多文化共生分野での活用法としては、他にも以下のような事例が寄せられました。

■ テレビ・ラジオ番組への出演

テレビやラジオの多言語放送番組で、在住外国人への情報提供を行う。

国際交流協会が企画の中心となる場合が多く、日本での生活に関する様々な話題、観光情報、外国人向けのイベント情報、防災情報などを提供している。

ナレーションに、CIRをはじめ各言語を母国語とするボランティアを起用する。

■ 観光業者向け基本会話・異文化理解教材の作成

中国と韓国の CIR が、両国語による基本会話と異文化理解のためのテキスト及び音声 CD を作成し、観光業関係者に配布した事例がある。同国からの旅行者を接遇する際に必要最低限の意思疎通ができるよう、また文化を理解した接遇ができるようにするための取り組みである。

同時に、観光業関係者を対象とする研修会の講師も CIR が務める。

■ 外国人相談窓口

多言語対応の相談専用電話回線を設置し、生活情報や悩み相談、各種行政手続の説明などを提供する。専門知識を必要とする相談については専門機関の紹介も行う。

曜日ごとに対応言語を決め、CIR などが相談員を務める。国際交流教会などでは、電話相談だけでなく、協会内に専用のカウンターを設けている場合もある。

■ 市役所職員への英語窓口対応研修

学校の夏季休業期間を利用して、ALT が市役所職員に対する英語による窓口対応研修を実施。テキストの作成から指導まで ALT が行う。

研修を通じて様々な課の職員と顔なじみになることで、ALT の全庁的な活用促進にもつながる。

■ 外国籍住民懇談会への出席

外国籍の住民から行政への意見を聴取する懇談会を開催する。

CIR はコーディネーターとなり、通訳や進行を行うほか、日頃の業務を通じて把握した住民ニーズや行政サービスのあり方などを提言する。

「チャレンジ！」

達人の面白活用事例（上級編）

本章では、JETプログラム活用事例調査に寄せられた事例の中でも、他に類似の事例が無くユニークな活用をしているものを取り上げ、上級編と位置づけました。10事例を紹介しています。



事業名

奈良県 JET 青年連絡協議会

事業概要

(1) 内容

奈良県JET青年連絡協議会は、県文化国際課の国際交流員が会長となって県内のJETにより構成する団体で、県民等と触れ合う交流イベントをJET自らが定期的に企画・実施している。また、県内各種団体の実施する国際交流活動や、地域へのボランティア活動に参加するなど、多様な草の根国際交流を展開している。

(2) 目的及び効果

JETの自主的な活動を奨励し、職務として地域の国際交流活動を行うことができる機会を提供する。

JETそれぞれの個性、能力を活用した活動は、県内JETの連帯感を高め、孤独に陥るのを防ぐことで、精神的な力バーまた中途退職の防止にも役立つ。さらに、地域の国際化を推し進め、活躍の場を提供することで、日本での生活の充実感、地域への愛着も深まる。

国際交流イベントに参加された県民においては、JETプログラムの存在を知っていただく絶好の機会となっている。

期 間	通年 (交流事業は年4～5回)
場 所	県内
対 象	一般県民他
規 模	66名(会員数:JETが会員、 一般県民はその都度募集)
主 催	奈良県JET青年連絡協議会
予 算	年間10万円程度

■ 設立の経緯

1. 背景

従来、JETプログラム参加者は、それぞれの配置先の市町村という限られた地域で、単独、もしくは少数で国際交流活動に従事していた。しかし、県全体での国際交流を推進するためには、県内のJETが相互に連携し、活動の範囲を広げ、主体的に県民と交流できる仕組みづくりが必要であるとの認識に至り、国際課(当時)主導のもとに設立された。

2. 設立

平成13年8月、国際課(当時)より各契約団体に協議会の設立が通知され、県内全JET72名中、69名の参加を得てスタートした協議会は、その後、活動の活発化に伴い会員数を増やし、現在は県内の全JETが参加している。

3. 活動の拡大

県民を対象とした国際交流イベントが協議会の主要

事業であるが、そのほかにも、県の各種団体と連携した取り組みへと活動の幅を拡げている。

《活動の例》

[県の観光インバウンド促進事業への協力]

- 外国人観光客への聴き取りアンケート調査
- 外国人の立場でモニター調査活動

[県語学堪能職員との交流事業]

- 県文化国際課と協力し「大和語り部養成講座」実施

[地域活動への参加]

- 地域美化運動へごみ拾いボランティアとして参加
- 地域祭への参加

[各種団体と連携した国際交流事業]

- 市町村教育委員会と共催でクリスマスイベントの実施
- 地元の観光協会が主催するイベントへの参加(JETと一緒に交流しながらイベントを楽しむプログラムを盛り込むなど)

[他団体の実施する国際交流イベントへの広報協力]

- JETNET メーリングリストを活用

[各種研修]

- 地域国際化推進セミナー、CIR研修会などで国際交流事業についての講師

■ 運営の詳細

● 規約

「JET青年連絡協議会規約」を作成し、協議会の目的、事業内容、組織を定めるほか、協議会活動への参加は



外国人観光客へのアンケート調査

【事例提供】奈良県 文化国際課 0742-27-8477

JET プログラムの職務として扱われることを明記している。

● 役職の設置

- 役職として、会長、委員、幹事を置いている。
- 委員には CIR が就任することとされており、現在 4 名の委員が置かれている。
- 会長は委員の互選により選出される。
- 幹事には会長が指名する ALT が就任する。
- イベントの企画及び運営は委員が中心となって行い、必要に応じて会議をもつ。
- 幹事は、委員のイベント企画運営の補助を行う。

● 事務局の設置、県文化国際課の関わり

県配置の CIR が会長を務めることから、事務局は県文化国際課内に置かれている。

文化国際課は、会員の加入の際に各契約団体へ規約及び JET のサービスの取扱いについて通知し、また活動参加の際に通知文書を出すほか、イベントの報道発表を行う。また、外部団体との事業共催や協力の際、仲介・調整等を行うなど協議会の活動をサポートしている。

● 加入者の募集・登録

県では毎年、新規 JET が集まる来県直後オリエンテーションにおいて協議会の紹介と趣旨説明を行っている。また、全 JET が集まる奈良県オリエンテーションでは、協議会の会議を開催し、加入・更新の呼びかけを行う他、委員の紹介、年間事業の開催にあたっての意見交換等を行っている。

同時期に、文化国際課長名で各契約団体あてに加入同意書を送付し、同意の有無と協議会への意見を返送してもらう。

各契約団体の回答を受けて、加入者について名簿を作成する。

● メーリングリスト

全会員が加入するメーリングリストを運営し、会員間の相互連絡に使用するほか、地域で開催される国際交流イベント情報の周知を行い、積極的な参加を促している。

■ 予算

協議会活動に関して文化国際課は特別な予算措置をしていない。地域の国際化推進の観点から県予算の枠内での執行及び自治体国際化協会支部からの補助や、他団体との共催などによって活動している。



「大和語り部養成講座」県立民族博物館でのかまど体験

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

奈良県 JET 青年連絡協議会は、平成 13 年度の設立から 5 年を迎え、従来からの県民との国際交流事業に高い評価を得ながら、その活動をベースに発展を続け、多様な地域の国際交流活動を行うようになった。

協議会は平成 18 年度、JET プログラム 20 周年式典において総務大臣表彰を受賞したが、これは協議会の草の根の国際交流活動が評価されたものであり、協議会には、これを原動力にますます積極的な活動を期待している。

JET 同士、地域住民、また県内各種団体との横のつながりにより、地域の国際化を推進できるこのような協議会の存在は大変有意義である。

JET 一人ひとりにとっても、協議会への参加によって職務・生活がマンネリになることを防ぎ、地域を知り、地域への愛着を深め、そうした経験が任期満了し帰国後に奈良の良さを海外へアピールする「奈良まほろば大使」としての活躍へと繋がっていると考えている。

今後もこうした活動によって、協議会が JET プログラム本来の目的である「諸外国との相互理解の増進とわが国の地域の国際化の推進」に貢献することを願っている。

クレアの独り言

連絡協議会という一つの仕組みを作ること、県の国際交流の推進、JET プログラムの一般への浸透、JET 参加者の団結など、一石二鳥にも三鳥にもなる素晴らしいアイデアだと思います。ちなみに奈良県は JET の中途退職率が最も低い契約団体の一つです。

奈良県 JET 青年連絡協議会規約

(名 称)

第1条 この協議会は、「奈良県 JET 青年連絡協議会」(以下「協議会」という。)と称する。

(目 的)

第2条 協議会は、県民との国際交流を推進することを目的とする。

(事 業)

第3条 協議会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1) 国際交流事業の実施に係る実施計画の策定
- 2) 国際交流事業の実施に係る課題の検討・調整
- 3) その他国際交流事業の目的を達成するために必要な事業

(協議会の組織)

第4条 協議会の会員は、奈良県内に配置されている JET 青年をもって組織し、JET 青年の所属する契約団体が本協議会の趣旨に賛同していることを条件とする。

- 2 協議会に委員を置く。委員には国際交流員をもって充てる。
- 3 会長は委員の互選により決定する。
- 4 会長は委員の推薦に基づき、外国語指導助手の中から幹事を数名指名する。

(会 議)

第5条 協議会は第3条に定める事業を実施するため、会長は必要に応じて会議を招集し、会長が議長となる。

- 2 会議の招集に際して、委員及び幹事はできる限り出席するものとする。

(事務局)

第6条 協議会の事務を処理するため、奈良県文化国際課に事務局を置く。

(服 務)

第7条 会員が国際交流事業を企画又は運営し、同事業に参画した場合は、契約により定められた就業規則に基づく職務として扱われる。

- 2 会員が同事業に参画する場合に必要な旅費は、会員が所属する契約団体が負担する。

(その他)

第8条 国際交流事業に要する経費は、予算の範囲内で奈良県文化国際課が負担する。

- 2 協議会事業については、必要に応じて奈良県文化国際課長が助言することができる。

附 則

この規約は、平成13年8月23日から施行する。

この規約は、平成16年4月1日から施行する。

資料2 サービスの取扱いについて（規約への添付資料）

奈良県 JET 青年連絡協議会主催国際交流事業 に係るサービスの取扱いについて

標記協議会は、平成13年8月23日付けで設立されました。

同協議会における JET 青年の活動に関しましては、奈良県JET青年連絡協議会規約に基づき、職務となり、各契約団体と JET 青年の間に取り交わされた就業規則に基づく取り扱いが必要となりますので、下記事項にご留意いただきますようお願いいたします。

なお、同協議会が実施する各交流事業への JET 青年の参画の可否については、他の職務や JET 青年自身の事業適性を勘案のうえ最終的には各所属長に決定していただくこととなります。

記

1 職務としての位置づけ

- ・国際交流員の場合
地域住民の異文化理解のための交流活動への協力
- ・外国語指導助手の場合
地域における国際交流活動への協力

2 勤務時間の振替

所属長は JET 青年に対し、勤務を要しない日や勤務時間外に勤務することを指示することができ、この場合は、その週を含めて4週間以内に代休を与えることとなります。

3 旅費の支払い

JET 青年は職務を行うために旅行するので、所属団体において旅費を支給する必要があります。

※上記就業規則の内容は、自治体国際化協会が示す就業規則に準じております。



協議会自主企画「シルバークリスマス」



協議会自主企画「英語で聞く世界遺産」

関係市町村教育委員会事務局
県立教育研究所
(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団

JETプログラム担当課長 殿

奈良県企画部観光交流局文化国際課長

奈良県 JET 青年連絡協議会への加入について

平素から JET プログラムの運営に御協力賜りまして深く感謝申し上げます。

さて、標記協議会は平成 13 年度に発足し、JET 青年が相互に意見交換を行い、自ら問題解決へと導く場として、JET 青年の精神的な支えとなるなど、中途退職者等の未然防止等に大きく寄与しております。また、これまで国際交流事業を 16 回実施し、参加県民からも高い評価を得ているところです。

この協議会は、JET 青年が職務として県民対象の国際交流事業を企画、運営し、年間 4 回程度の事業を実施します(別添協議会規約及びサービスの取扱い参照)。

つきましては、貴所属 JET 青年の協議会への参加につきご配慮いただき、別紙様式に記載のうえ、9 月 15 日(金)までに所属長名による文書で回答していただきますようお願いいたします。

なお、JET 青年に対しては、本協議会の趣旨や事業実施状況を 8 月 29 日の奈良県オリエンテーションの際、説明しております。協議会への加入は、新規来日 JET 青年だけではなく、再契約 JET 青年につきましても、対象としていますので、別添英文案内文を貴所属 JET 青年にお渡しいただきますようお願いいたします。

担当: 奈良県企画部観光交流局文化国際課
国際グループ
住所: 〒630-8501 奈良市登大路町 30
TEL 0742-27-8477
FAX 0742-23-0620

資料3 契約団体への加入照会文2

別紙様式

契約団体名: _____

所属長の氏名: _____ ㊦

奈良県JET青年連絡協議会へ下記JET青年が加入することに

同意します

同意しません

※ いずれかに○印を付けてください。

※ 今回の加入期間は、平成18年度のJET青年契約終了時までとなります。

記

JET 青年の職種・氏名: _____

本協議会について、ご意見があれば記載願います。

事業名

英語でハイキング

事業概要

(1) 内容

県内の観光名所をJETと県民と一緒に巡るハイキングイベント。5～6名のグループに分かれ、各グループにJETが1～2名付く。散策中は原則として英語でコミュニケーションする。散策ルートは各グループが自主的に決定できるが、必ず行かなければならない場所も数か所指定されている。また、出発前に英語で書かれたクイズが配布され、散策を通じて答えを探すというアトラクションも含まれている。

(2) 目的及び効果

観光名所を巡ることで、地域の歴史を学び、自然に触れる機会を提供する。また、JETとともに英語でコミュニケーションしながら散策することで、国際交流の機会を提供する。

同時にJETプログラムへの一般の認知度を高め、プログラムの地域への浸透をはかる。

期間	1日
場所	県内観光名所
対象	一般県民
規模	80人
主催	県国際課
予算	0～1万円

■ 実施の流れ

1. 天候判断

中止の場合、電話またはメールで一斉連絡できるようなスタッフ体制を組んでおく。

2. 必要機材運搬

受付用グッズ、看板（受付及び駅からの案内表示）、メガホン、デジカメ、救急箱、長机を会場へ運搬する。

3. 会場設営

駅の近くの公園内に受付を設営する。受付用の長机1本と、名札用（その場で参加者に書いてもらう）長机2本、受付名簿、参加者配布資料（諸注意・地図・アンケート用紙・報告書・クイズの問題）を設置。

駅から公園までの案内板を設置する。駅には案内板を持ったスタッフを配置（事前許可が必要）。

4. JETに実施要領説明

準備段階ではメールによる連絡のみだったので、全員集まったところで内容を再確認した。

5. 受付

氏名をチェックしてグループを伝え、資料を配布。

6. 開会挨拶（課長）全体説明（担当）

一般対象のため、JETプログラムの概要から始まり、イベントの意義、その他注意事項を説明した。

7. グループ対面

話し合っ、散策コースと班長を決定する（班長はJET1名、日本人1名を選出。運営サイドとの連絡窓口となるほか、クイズの解答と報告書をまとめて提出する。）

各グループは、出発前に緊急連絡先（班長の携帯電話）を受付へ報告する。

8. 出発

スタッフ巡回開始。自動車巡回し、参加者が必ず行かなければならないと決めた場所などで参加者の状況確認を行う。また、通行の危険な場所には定点スタッフを配置し、交通整理に当たる。

9. 受付撤収、本部待機

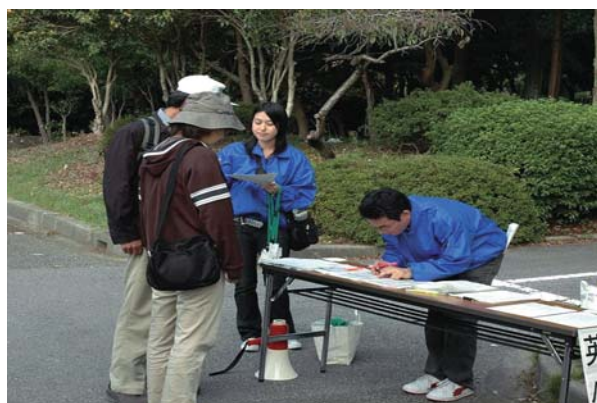
市民会館の一室を借り、本部を設置。巡回スタッフからの連絡や、参加者に義務付けた定時連絡を受ける。課長以下常時3名ほどが待機。

10. 受付再設営

ゴール受付（報告書・クイズ解答・アンケートの受理）

11. 閉会式

当初閉会式を行う予定だったが、参加者がゴール後もお互いに電話番号やメールアドレスを交換するなど交流が続いていたため、雰囲気壊さないよう配慮し、記念写真の撮影のみ行ってあとは流れ解散とした。



受付

【事例提供】滋賀県 商工観光労働部国際課 077-528-3062



JET と対面



訪問先で

12. 撤収

■ 必要な準備

● 開催日時の決定

各種広報に間に合わせるため、5ヶ月前には決定。JET ができるべく多く参加できるように、学校行事などに配慮した。

● 広報・募集

広報媒体は、県広報紙・県ホームページ・FM ラジオ、テレビの県提供番組のほか、チラシも 300 枚作成したが、最も効果的だったのは広報紙。

参加申し込み期間は開催前月の 1 ヶ月間。往復はがき、メール、電話、FAX で受け付けたが、ほとんどの応募者がメールか電話だった。

JET 参加者は、県 JET ホームページで参加募集し、同時に県内の各契約団体に協力依頼文を送付した（JET も参加者として自主的に応募・参加するという位置づけなので、業務としての派遣依頼ではない）。

記者発表資料を作成し開催週に記者クラブへ投げ込み。

● 参加者決定・グループ分け

当初 30 人で募集したところ、応募が殺到したため、検討の結果定員を取り払った。よって抽選等はしていない。

● 各種資料作成

事前案内、当日案内、クイズ・班長用注意書き・報告書様式・地図・アンケート様式、スタッフ役割分担及び動静表、受付名簿の作成

● クイズ作成

問題は、担当者が作成した。予想されるコース付近の建物などにまつわる問題を取り入れ、解答するには

参加者がそこへ見に行かなければならないような仕組みを作った。

● 役割分担

必要な役割は、受付、改札誘導、巡回、本部待機

● 各関係先へのあいさつ

主な訪問先、駅、警察（事例では病院にはしなかった）

■ 予算

本部用に市民会館の借上げ代として 2,000 円程度。あとはコピー代などの雑費のみ。JET も参加者という扱いなので、旅費等は支給していない。

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

JET 青年たちが、様々な活動を求めていることがわかりました。担当者 と JET 青年が協力しあって、JET プログラムの社会への認知度を高め、地域への浸透をはかることだと思います。もちろん、当日の運営にあたっては、所属部署全体の協力が必要です。日頃から理解を深めていただけるよう、何事も報告が大切です。

クレアの独り言

これだけのイベントをほとんど予算なしで実現してしまうとは驚きです。担当者の方の、JET 以外の ALT ではこういう活用はできないというアピールもしたかった、との言葉が心強かったです。

英語でハイキング ご参加の皆さまへ

滋賀県商工観光労働部国際課

秋涼の候 皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度は、英語でハイキング～「功名が辻」ゆかりの地を訪ねて～にご参加申込みいただき、ありがとうございます。

さて、英語でハイキングの詳細についてお知らせいたします。参考資料等も同封しておりますので、ご一読ください。

- 1) 開催日 : 平成18年10月14日(土)
- 2) 受付開始 : 8:30～9:10 JR長浜駅西口
9:10までに各自で受付をお済ませください。
受付ではグループ分けを発表しますので、ご確認ください。
- 3) 天候等について : 荒天の場合は中止とします。(雨天決行)
実施について、判断に困られる場合は下記までお問い合わせください。

【天候についての問い合わせ時間】 6:30～8:30
000-0000-0000 国際課携帯
000-0000-0000 担当

- 4) 欠席等について : 欠席される場合は、下記の要領で必ず連絡をお願いします。
 - 前日までに国際課まで連絡をお願いします。
 - やむを得ず、当日連絡いただく場合は、上記の携帯電話までお願いします。
- 5) 服装等 : 歩きやすい服装・靴でご参加ください。
- 6) 携行品等 : 昼食、お茶、雨具、必要なお金等。
- 7) 実施形態 : グループ別に行動していただきます。
3～5名の参加者に対して、1～2名の外国青年が加わり1つのグループになります。
各グループで訪れたい場所を相談してコースを決め、英語でコミュニケーションしながら、ハイキングしていただきます。あらかじめ、各自で訪問したい場所を考えておいてください。

資料 1 参加者への事前通知 2

ハイキング実施の時間内であれば、何カ所でも訪問できます。

J R長浜駅西口出発 9:30 → J R長浜駅西口集合 15:00

【訪問先例：長浜御坊大通寺・長浜城歴史博物館・黒壁ガラス館・曳山博物館
石田三成公出生地・北国街道安藤家・総持寺など】

ハイキングを楽しんでいただいている間、各グループに英語で書かれたクイズを出題します。メンバーで話し合っ解決してください。

- 8) 拝観料等 : 拝観料が必要な場合は各自で負担してください。
なお、曳山博物館・長浜御坊大通寺・長浜歴史博物館の3会場セット券は一人1,000円で販売されています。当日券は曳山博物館・長浜歴史博物館で購入できます。(別紙パンフレット参照)
- 9) 昼食 : 昼食は屋外で弁当を食べたり、レストラン等で食事をしてもらうなど、グループ毎で対応してください。(時間、場所等は自由です。)
- 10) 解散 : J R長浜駅西出口(公園側出口) 15:30の予定

●健康にはご留意いただき、また、交通ルールの遵守を心がけ、安全に十分ご注意ください。

【J R長浜駅までのアクセス】

草津駅	7:57	7:36
	↓	↓
野洲駅	8:06	7:45
	↓	↓
米原駅	8:48	8:21
(乗換)		(乗換)
米原駅	8:51	8:22
	↓	↓
長浜駅	9:06	8:31



J R長浜駅は、当日、新駅舎がオープンします。

改札口を出ていただいたところで、係員が案内板を持って受付場所のご案内します。

【担当】 滋賀県商工観光労働部国際課

TEL 077-528-3062 FAX 077-521-5030

Quiz of Komyoga-tsuji

① Answer the name of Korean restaurant along the street on the right side after crossing Rout 8, Nagahama Shinkawa River.

Answer: Kantei

② Answer the name of Nagahama Citizens' Baseball Stadium near Hokuriku Expressway.

Answer: Nagahama Sun Dome

③ Is the statue of Mitsunari Ishida standing or sitting ?

Answer: sitting

④ Where is the statue of Mitsunari Ishida ?
Is it in the museum or school or.....?

Answer: Ishida Kaikan

⑤ Answer the grade of river Nagahama Shinkawa River.

Answer: First grade river

⑥ Who is the first resident priest of Daitsuji Temple ?

Answer: Reizuin Sento

⑦ When could we use the new Nagahama Station ?

Answer: Today

⑧ Who was the third castellan of Nagahama castle ?

Answer: Kazutoyo

⑨ Who was Kazutoyo's wife ?

Answer: Chiyo

⑩ Who was Nene's husband ?

Answer: Hideyoshi

⑪ What is the fantastic shop or museum where you can see beautiful glass ?

Answer Kurokabe Garasukan

⑫ Who built Nagahama Castle ?

Answer Hideyoshi Toyotomi

* 配布時には答は記載されていない。

資料3 作業分担表

平成18年度 英語でハイキング 受け入れ作業分担表							
時間	項目	場所	参加者	本部	担当者	巡回車	外国青年
5:30	荷物搭載	県庁		課長・参事・副参事	廣田・ジョン・望月・奥	高木・仲井	
					廣田(大津10)荷物搭載 出発	大津10と共に長浜1の鍵	
					受付用グッズ、看板、メガフォン、デジカメ等	を借用していく	
					天候判断(廣田)		
					天候があやしい場合、事業実施の可否について		
					職員に連絡 公用車は時間駐車場へ		
6:00	県庁集合	県庁			高木・ジョン	高木(大津11)	
					直接長浜駅へ	国際課携帯電話対応(ジョン)	
					(課長・参事・副参事)	県民からの問い合わせ(6:30-8:30)	
					(望月・奥)	出発	
					大津6:48		
					草津7:03	公用車は時間駐車場へ	
					守山7:08		仲井(長浜1)
					野洲7:12		
					河瀬7:34	会場設営(廣田・ジョン)長机・受付名簿	
					彦根7:40		
	長浜7:58						
8:10	全体打ち合わせ	JR長浜駅 城側		打ち合わせ	打ち合わせ	打ち合わせ	
	受付設営						
	駅改札誘導	JR長浜駅 改札			標示板(望月)改札口へ(8:05-9:10)		
8:20	外国青年集合						集合
8:30	受付開始	JR長浜駅 城側	受付		外国青年に実施要領説明(ジョン)		打ち合わせ
					受付(仲井・奥・廣田)		
					●グループを伝える		
					●諸注意・地図・アンケート用紙の配布		
8:45							
9:00	開会式	JR長浜駅 城側		●開会挨拶会(課長)	全体説明(廣田)		
				●諸注意			
				グループ対面	●その他	●グループ内での緊急連絡先(携帯)を本部に	グループ対面
			コースを決める		報告→用紙回収		コースを決める
9:20				平和堂側交通整理			
				(副参事)9:15-9:45			
				大津11にて本部へ		巡回前に課長・参事を本部へ	
						長浜1	
9:30	出発	コース	ハイキング	本部へ移動 長浜1	自治会館施設解除(望月・奥)大津11	巡回開始・本部より適宜	ハイキング
				(課長・参事)	今川町自治会館	交通整理	班員掌握
					長浜市民会館	(10:30-13:00)	
					国際課携帯	自治会館施設	(高木・仲井)長浜1
					平和堂側交通整理		
				(副参事)			
					廣田・ジョン本部その他を巡回(写真撮影)		
13:30	定時連絡		本部へ連絡	連絡受付 国際課携帯			
14:10	帰着受付開始	JR長浜駅 城側	帰着受付		受付机等設営		
					受付(望月・奥)		
14:30				本部撤収	●アンケート用紙の回収	長浜1にて本部人員を長浜	
				長浜1にて長浜駅へ	●クイズ解答用紙の回収	駅へ(仲井)	
15:00	集合	JR長浜駅 城側	JR長浜駅へ				JR長浜駅へ
	閉会式			●閉会挨拶(参事)	大津11(望月→高木)		
				●諸連絡	帰路 長浜駅 15:37 15:59		
			解散				
					外国青年にお礼の挨拶(ジョン・廣田)		挨拶
							解散
15:30	後始末	JR長浜駅 城側			荷物全てを大津10へ	大津11(高木)	
					長浜1の鍵を預かる		
				長浜16:29			
				彦根16:56			
				守山17:19			
				草津17:23	荷物後始末	荷物後始末	
18:00	県庁着	県庁		大津17:33			

事業名

「ブラジル人学校における日本の生活・文化講習会」 — 第2回／交通安全教室 —

※当該講習会は以下の3つのプログラム（ごみ処理施設見学、交通安全教室、日本文化の紹介）を内容としており、各プログラムを各学校を対象に、年間を通じて開催した。

事業概要

(1) 内容

ブラジル人学校の児童生徒を対象に、学校の授業の一環として交通安全教室を開催する。

(2) 目的及び効果

多文化共生推進の一環として、県内在住外国人のうち最多のブラジル人に日本での基本的な生活習慣を理解してもらい、地域社会への参画を促すことを目的とする。そのため、日本の公立学校の子どもと同じように、ブラジル人学校の児童生徒に交通安全教育を行い、理解を深めさせるとともに、彼らが家に帰って家族に自分の体験を話すことで、直接講習の機会を設けることの困難な大人に対しても、家庭を通じた啓発を行うことを狙いとする。

対象	県内ブラジル人学校4校の児童生徒
回数	各学校につき1回（半日）×4校＝計4回
会場	各地域の自動車学校（3回）、県営公園内の交通広場（1回）
参加人数	各学校により約30～90人（1グループ約15～30人で2～3グループ）
主催	県国際課
予算	約40万円（実績額） ※講習会全体のうち、交通安全教室に係るもの

■ 実施の流れ

会場

3回は、各地域の自動車学校の協力を得て、自動車学校の施設を使用し、1回は県営公園内の交通広場（無料）を利用した。

講師

自動車学校職員のほか、各地域の警察署員と各市の交通指導員、JAF職員及び県交通安全担当部局職員に協力を依頼した。講師の通訳は、ブラジル人CIRのほか、県ブラジル人相談員、県ブラジル人留学生、市ブラジル人スタッフが担当した。

授業内容

- ＜屋内＞警察官による交通講話
交通安全ビデオ（アニメーション）の視聴
日本の交通標識の説明
- ＜屋外＞スクールバス乗降時の注意（車の死角体験、飛び出し事故の危険性）
自転車の正しい乗り方
横断歩道の正しい渡り方
シートベルト体験車（JAF又は県所有）の乗車体験
大型車による左折巻き込みの危険性

1. 会場準備／学校への出迎え、会場へ移動

スタッフは2班に分かれ、1班は会場準備、もう1班は学校への出迎え。会場への移動は県で借上げバスを用意。学校によっては自校のスクールバスを使用。

2. 講習会実施

県による挨拶で講習会開始。講習会の内容は屋内と屋外に分けられる（上記「授業内容」参照）。屋外ではプログラム内容ごとに数ヶ所に分かれて実施するため、



横断歩道の正しい渡り方の説明

各場所に講師を配置。児童生徒は15～30人のグループに分かれ、グループごとのスケジュールに従い各プログラム実施場所へと移動。

CIR等の県ブラジル人スタッフがそれぞれ1グループを担当し、通訳と引率を行う。

日本人担当者は、全体の進行管理、記録（写真撮影）、マスコミ取材対応、緊急対応などを受け持つ。

3. 会場撤収／学校への送り返し

スタッフは2班に分かれ、1班は会場の撤収、もう1班は学校への送り返し。

4. 参加児童へのアンケート実施

講習会当日、アンケート用紙を返信用封筒とともにブラジル人学校の引率教員に渡し、後日、参加児童に記入させたうえで郵送を依頼。

5. アンケートの集計・翻訳

■ 必要な準備

● 会場及び講師の手配

県警に事業の実施方法を相談する中で地域の既存施設の利用を提案され、対象ブラジル人学校4校の所在市（県内で特に在住ブラジル人の多い4市に一致）の交通安全担当課に各地域の自動車学校を紹介していただいた。

多くの市町村では、公立学校向けに交通指導員による交通安全教室を開催しており、また自動車学校によ

【事例提供】岐阜県 総合企画部国際課 058-272-1111(代)

ては地域の幼稚園や小学校、高齢者向けに同様の教室を開催している。各地域の警察は、そうした交通教室への協力を業務として行っている。このことから通常の児童生徒向けの交通安全教室の開催自体については、市町村、警察、自動車学校それぞれではある程度の実施体制が整っているといえる。よってそのうえで、県がイニシアチブを取って各関係先間の調整を行い、“自動車学校等を会場とした、ブラジル人学校対象の交通安全教室の開催”をモデル的に実施することとした。その際、一番の課題である言葉については、県がブラジル人 CIR を活用して全面的にサポートを行うことで了解を得た。

● 対象となるブラジル人学校の決定

ブラジル政府公認の学校（認可校）に対象を限定した。同国大使館のホームページから認可校の一覧を入手し、予算を策定する前年度中に個別に各学校を訪問し、事業趣旨を説明、参加希望の有無を確認した（当該交通安全教室は、県内の認可校 4 校全てで実施）。

日程調整は自動車学校の（休講日や空き時間等の）都合とブラジル人学校の希望日時をすり合わせるため、またバスや保険の手続き上からも、早めに取り掛かる必要がある。通常、ブラジル人学校は学年により午前・午後の交代制で授業を行っているため、対象学年の登下校時間の確認も必要である。4～6ヶ月前には日程を決定した。

● 講習会内容の検討・決定

講習会内容は、ブラジル人学校側の希望や県の提案も踏まえた原案の作成を自動車学校に依頼した。スクールバス乗降時の注意等は、学校からの希望を反映したものである。

講師は日本語で説明するためポルトガル語の通訳が必要であり、ブラジル人 CIR を含めた通訳の人数に応じて、対応可能な内容・時間配分・グループ分けを考える必要がある。

● 資料の作成

県警や（財）全日本交通安全協会、JAF 発行の各種資料を集め、その中から必要な情報を抜き出して日本人担当者が日本語版を作成し、県警・県交通安全担当部局による内容確認と使用許可を経て、ブラジル人 CIR による翻訳作業に入った。

ポルトガル語への翻訳は 2 人の CIR が 1 ヶ月ほどかけて行った。大人向けの記述を子どもに分かりやすい表現に置き換えたり、絵を挿入したり、また法律に関する事項は間違いが許されないの、CIR 自身も勉強が必要で、難しい作業であった。

資料は参加児童生徒用と保護者用の 2 種類を作成した。子どもには講習会で実際に体験して学んでもらうため、配布資料の枚数・中身とも簡素化を心がけたが、家庭を通じた保護者への啓発という観点から、保護者向けには、日本で自動車を運転する際の注意事項をまとめた冊子を作成した。

● その他

- ・バスの借上げ・保険加入手続き
- ・講師（警察署員、市交通指導員）に対する派遣協力依頼
- ・JAF に対する「シートベルト体験車」及び職員の派遣協力依頼
- ・参加者名簿の学校からの入手

● 広報

県政記者クラブへの資料提供のほか、各市の多文化共生担当課に県作成の当該資料を送付し、各市政記者クラブへの情報提供協力を依頼した。

■ 予算

バス借上げ料、保険料（普通傷害保険〔参加者中の参加中における障害事故の補償。いわゆる「レクリエーション保険」〕と賠償責任保険〔行事主催者が損害賠償責任を負う場合の補償〕にセットで加入）、職員旅費、資料コピー代など。合計約 40 万円。

*警察署員・市交通指導員には通常業務として、また自動車学校には職員・設備とも無償でご協力・ご提供いただいた。

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

ブラジル人学校との良好な関係づくりは事業を成功させるうえで非常に大切な要素です。ブラジル人 CIR だから仲間意識で迎えられるだろうという過信は捨て、普段から顔の見える関係を築いておく必要があります。（国際交流員）

ブラジル人 CIR は（財）岐阜県国際交流センターに配置されているため、事業の実施にあたっては、同センターに足を運んで CIR と随時打ち合わせを行い、同センターの事業スケジュールや CIR の仕事量を確認しながら、当該事業の準備作業が他の業務と重なり CIR の負担とならないよう配慮しました。

また、各地域の自動車学校や警察署、JAF、各市（交通安全担当課、多文化共生担当課）、県警及び県交通安全担当部局など関係機関が多いため、役割分担やスケジュール説明等を含めた連絡・調整に漏れがないよう、気を配りました。（国際課担当者）

資料 1 スタッフスケジュール

平成18年度在住外国人地域社会参画支援事業「ブラジル人学校における日本の生活・文化講習会」
 -第2回/交通安全教室-【大垣・△△ブラジル人学校 9/20(水) OO自動車学校】

スタッフ別タイムスケジュール

時間	氏名・携帯・交通手段	<視察・挨拶> <総括> <記録> <総括補助> <講師(通訳)> (4年生) (5年生) (6年生) (補助)							
		課長	チーフ	職員1	職員2(担当)	県ブラジル人CIR1	県ブラジル人CIR2	県ブラジル人相談員	県ブラジル人留学生
		090-							
		自車	自車	自車	自車	自車⇒職員2車	CIR1車⇒職員2車	チーフ車	CIR1車⇒職員2車
8:00	スタッフ(一部)/県庁集合・出発		相談員迎え(協会)	自宅出発	県庁集合・出発	県庁集合・出発	県庁集合・出発	市協会出発	県庁集合・出発
8:15	↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
8:30	スタッフ/自動車学校集合・準備		自動車学校到着	自動車学校到着	自動車学校到着	自動車学校到着	自動車学校到着	自動車学校到着	自動車学校到着
8:45	↓		自校出発(B)	会場準備(A)	会場準備(A)	自校出発(B)	会場準備(A)	会場準備(A)	会場準備(A)
9:00	スタッフB/ブラジル人学校到着		プ人学校到着			プ人学校到着			
9:20	生徒/ブラジル人学校バス出発、スタッフB/バス同行		↓ ※自車で戻り			↓ ※学校バスに同乗			
9:30	生徒/自動車学校到着		自校到着			自校到着			
9:40	講習会開始 集合・課長挨拶(10分) 第1ターム(30分)	課長挨拶 講習会視察	会場総括 マスコミ対応	記録(デジカメ)	会場総括補助 マスコミ対応	講師(通訳) バスの乗降	講師(通訳) 自転車	講師(通訳) シートベルト	講師(通訳)
10:10	↓ 第2ターム(30分)					↓ 自転車	↓ シートベルト	↓ バスの乗降	
10:40	↓ 第3ターム(30分)					↓ シートベルト	↓ バスの乗降	↓ 自転車	
11:10	↓ 交通安全講話(20分)								
11:30	↓ 終了					[4年生担当]	[5年生担当]	[6年生担当]	[講師補助]
11:45	生徒/自動車学校出発、スタッフB/バス同行 スタッフA/撤収作業ほか 生徒/ブラジル人学校バス到着		自校出発(B) ↓ ※自車で同行	会場撤収作業(A)	会場撤収作業(A) 自校へお礼	会場撤収作業(A)	自校出発(B) ↓ ※学校バスに同乗	会場撤収作業(A)	自校出発(B) ↓ ※学校バスに同乗
12:00	スタッフ/解散		解散 (昼食)	解散 (昼食)	解散 (昼食)	解散 (昼食)	解散 (昼食)	解散 (昼食)	解散 (昼食)
12:15									
12:30									
12:45									
13:00	県広報関係取材立会		相談員送り(協会)		県広報関係取材立会				
13:15									
13:30									
13:45									

氏名	課長	チーフ	職員1	職員2(担当)	県ブラジル人CIR1	県ブラジル人CIR2	県ブラジル人相談員	県ブラジル人留学生
担当業務	課長挨拶 講習会視察	ブラジル人学校出発・帰校確認 会場総括・マスコミ対応 相談員送り	会場準備 記録(デジカメ) 会場撤収	会場準備・撤収 会場総括補助・マスコミ対応 県広報関係取材立会	ブラジル人学校出発確認 4年生講師 会場撤収	会場準備 5年生講師 ブラジル人学校帰校確認	会場準備 6年生講師 会場撤収	会場準備 講師補助 ブラジル人学校帰校確認

資料 2 配布資料 保護者向け冊子（表紙）

[平成18年度岐阜県国際課事業 配布資料]

[Projeto do Depto. de Assuntos Internacionais da Província de Gifu Apostila Aula 2 - Segurança no Trânsito]

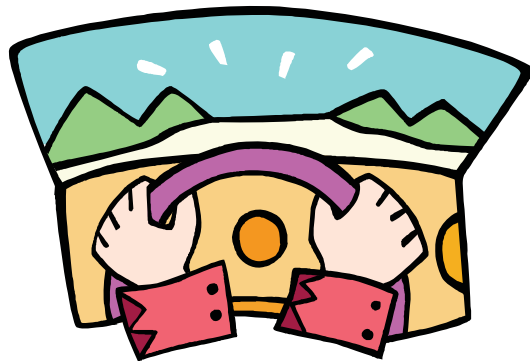
Projeto do Departamento de Assuntos Internacionais da Província de Gifu / 2006

"Projeto de Apoio às Escolas Brasileiras - Conhecendo o Japão"

◆Apostila Aula 2 - Segurança no Trânsito

Regras de Trânsito do Japão

- Para dirigir com segurança no Japão -



Ogaki, 20 de Setembro de 2006 (qua)
Local: ○○ Driving School

Departamento de Assuntos Internacionais da Província de Gifu

4

事業名

消防組合職員対象の英会話教室

事業概要

(1) 内容

消防組合職員（消防隊員、救急隊員）を対象に、緊急時の外国人の救出、応急措置等に必要な表現を学ぶ英会話教室を開催する。

(2) 目的及び効果

増加する外国籍住民の緊急時に対応できる職員を育成する。

期間	1日（2時間）
場所	消防本部会議室
対象	消防隊員、救急隊員
規模	20人
主催	消防組合
予算	0

■ 実施の流れ

1. 英会話教室について

平成18年度より消防組合では、毎月1回、職員のための英会話教室を開催しており、教育委員会の嘱託員が講師をしている。ALTを交えた緊急対応訓練はその一環として開催された。

この地域では外国人の救助事例はまだ多くはないが、少しずつ増えてきているため、英会話教室でもこのような実践的な学習の機会を持つことが有効と考えた。

2. 緊急対応訓練について

全体の進行は、通常の英会話教室と同様に日本人講師が行い、ALT3名が補助として参加した。

はじめに、講師が国名・職業や自覚症状、体の各部位の名称などに関する単語を紹介し、それを使った表現を教える。その際ALTは発音を補助する。

次に、消防職員とALTで実際の救助場面を想定したロールプレイを行う。ALTは、国籍・名前・職業などの個人データと、目まいがする、吐き気がするなどの自覚症状を記載したカードを持ち、救助される外国人の役を行う。

消防職員は、ALTから名前や国籍、症状を聞き出し、ワークシートに記入していく。

最後に、出来上がったワークシートの答え合わせをしながら学習した内容を復習する。

■ 必要な準備

● 日程調整

消防組合では、英会話教室の企画時点から、外国人を交えた教室を開催したいと考えていたため、教育委員会に相談したところ、ALTを紹介され、学校の授業がない夏休みにALTを迎えた授業を行うことになった。

今後も、ALTに余裕のできる冬休み等にも同様の教室を開催したいと考えている。

● 内容検討及び資料作成

消防組合の具体的な希望を聴取し、それを内容に反映させた授業計画を講師が作成した。

教材として、国籍・職業などの単語や表現をまとめたワークシート、緊急事態を絵で表現したパネル（ロールプレイで使用）を作成した。

● ALTとの打合せ

授業計画に基づいて、全体進行とALTの役割を伝える。講師が教育委員会の嘱託員なので、打合せはALTが教育委員会にいる時に行った。

● 広報

地元FMラジオ局と地方新聞へ事前広報し、取材を受けた。ラジオでは、講師とALTの他、受講者もインタビューを受けた。

■ 予算

講師を教育委員会の嘱託員が務めるため、謝金等の支払は発生していない。

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

一般的な日常英会話とは全く異なり、人命に関わる専門的な用語を使用した英会話教室を行っていますので、毎回教材作りには多少時間がかかります。しかし、自分の資質向上のために休日返上で参加される隊員の皆様のためにも、今後も応援したいと思います。（教育委員会嘱託員）

クリアの独り言

非常に興味深い事例です。外国籍住民の増加に伴って、今後このような事業に対する需要は増えていくのではないのでしょうか。

【事例提供】弘前市（青森県）教育委員会 指導課 0172-82-1644、弘前地区消防事務組合

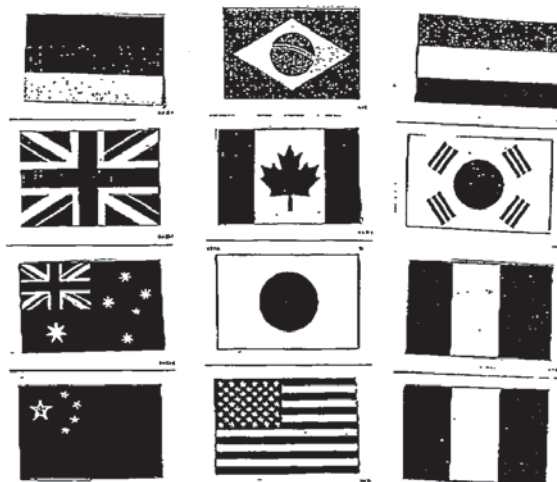
資料1 テキスト（出身国・職業）

What do you do? I 'm a/an`.



construction worker lawyer mechanic delivery person painter
 farmer carpenter plumber bus driver police officer
 hairdresser veterinarian welder cashier sanitation worker
 repairperson barber butcher taxi driver accountant
 electrician security guard chef/cook pharmacist

Where are you from? I 'm from



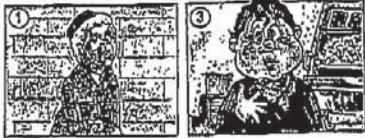
Germany Brazil Egypt
 England Canada South Korea
 Australia Japan France
 China the U.S. Italy

What 's the matter with you?

1. I feel faint. (気が遠くなる)
2. I feel dizzy. (めまいがする)
3. I feel nauseous. (吐き気がする)
4. I feel bloated. (むくみがある)
5. I'm congested. (うっ血した・充血した)
6. I'm exhausted. (疲労した)
7. I coughing. (せきをする)
8. I sneezing. (くしゃみをする)
9. I wheezing. (ぜいぜい息をする)
10. I'm burping. (げっぷをする)
11. I'm vomiting/throwing up. (嘔吐する)
12. I'm bleeding. (出血する)
13. I twisted(my ankle). (ひねる)
14. I sprained (my wrist). (捻挫する)
15. I dislocated (my shoulder). (脱臼する)
16. I scratched (my eye). (かき傷をつける)
17. I scraped (my knees). (すりむく)

資料3 ワークシート

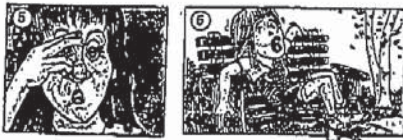
What's the matter?(with you)



① I feel faint. ③ I feel nauseous.



② I feel dizzy. ④ I feel bloated.



⑤ I'm congested. ⑥ I'm exhausted.



⑦ I'm coughing. ⑧ I'm sneezing.



⑨ I'm wheezing. ⑩ I'm burping.



⑪ I'm vomiting.(I'm throwing up.)

⑫ I'm bleeding.

	Name How do you spell your name?	Nationality Where are you from?	Occupation What do you do?	What's the matter?
1				
2				
3				
4				
5				
6				

事業名

小・中・高校の連携による英語劇指導

事業概要

(1) 内容

小・中・高の児童生徒が連携して、オリジナルの英語劇を作成し、地域の祭りの一企画として上演する。

SELHi事業の一環として、指定校が企画・運営。ALTは脚本作成、発音指導、歌唱指導を行った。

(2) 目的及び効果

SELHi事業の一環としての、小学校・中学校の英語教育への支援。地域と連携した英語活動の促進を目的として実施し、特に小学校との連携を発展させることができた。

期間	6ヶ月
場所	学校、公民館等
対象	小・中・高校生、社会人(生徒の保護者)
規模	小・中学生10名、高校生30名、社会人10名
主催	県立高校
予算	約10万円

■ 実施の流れ

1. 脚本の作成

毎年6月に英語科の生徒に対する集中学習のための合宿を行い、そのカリキュラムの中で英語によるシナリオ作りを行う。生徒は4つのグループに分かれ、それぞれが1作品を作る。

完成した4作品の中から優秀なものを選び、英語劇の脚本として採用する。ただ、この段階では10分程度の作品なので、夏季休業期間を利用して英語科教諭とALTとで内容を発展させ、40分の作品に仕上げる。

基本的にALTが書いたものを日本人教諭がチェックし、難しすぎる表現を直すという手順を踏んで完成する。

2. 練習

夏休み明けの9月から2ヶ月間、毎週金曜日の午後5時から7時まで、公民館を会場に練習を行う。英語科教諭10名とALT1名が指導にあたる。

小学生にはなるべく簡単なセリフの役柄を与え、また練習の前に大まかなストーリーを説明するなどの配慮をする。



練習風景 小・中学生も参加

3. 大道具・小道具の作成

舞台上で使用する道具類は、外国語部の生徒が部活動の時間に作成する。舞台衣装は、既成の服に少し手を加えて作成する。

4. 発表

地域の祭りの一企画として参加し、ステージプログラムの1つとして上演する。

会場は250人収容のホールで、前日に舞台リハーサルを行うことができる。

照明は町の依頼で専門業者が担当し、音響効果は生徒と教諭が担当する。

生徒にはこのほか、司会、パンフレット配布、会場案内、道具の搬入・搬出などの担当を割り当てる。

5. 感想文

後日、参加した生徒には感想文を提出させ、SELHiの事業報告書に掲載する。

■ 必要な準備

● 参加者募集 (小・中学生)

SELHi委員会(SELHi研究開発推進のために学校が独自に設置する委員会。連携する学校間の情報交換のほか、教授法や個々のプログラムについて外部の有識者の意見を聴取する場でもある。)で町内の小・中学校に呼びかけると同時に、1学期中に校長名で依頼文書を送付する。

● 広報

基本的には、祭りの企画全体の広報を通じて行うが、独自にチラシを500枚作成し配布する。上演当日の観客の出入りは自由としている。

● 上演当日の配布資料

観客は英語がわかる人ばかりではないので、台本を

【事例提供】愛知県立御津高校 0533-75-4155
愛知県教育委員会 052-954-6787



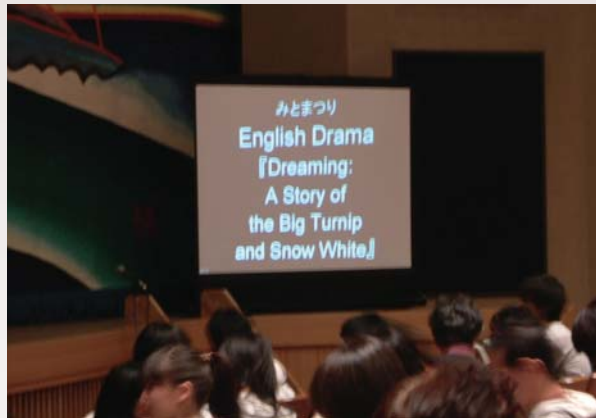
練習風景 読み合わせ

日本語と英語で併記したものを作成し、観客に配布する。また、舞台横にスクリーンを設置し、プロジェクターによってセリフを投影する。

なお、観客へのアンケートも作成し、当日配布・回収する。

■ 予算

主な支出は、大道具・小道具・衣装の作成費、チラシの作成費（紙代、コピー代）で、約10万円。本番の会場及び練習に使用する公民館は町の事業のため無料。



舞台袖にセリフを表示

（担当者からのコメント・アドバイスなど）

英語劇の上演を通じて、参加者の英語力が向上するだけでなく、小中高の連携、さらには地域との連携が深まることが期待できる。

（教育委員会担当者）

英語を学校という場だけでなく、英語劇という場で身振りを使ったり、表情豊かに話したり、言葉としての機能を最大限に生かして使うことができた意義は大きい。また、英語劇を「みとまつり」という地元の行事の中で小学生、中学生、高校生、及び地域の社会の方々の参加を得て上演できたことにより、高校生が小学生に英語を教えるなど年齢を超えた心の交流、地域に密着した交流ができ大変意義深かった。さらに、教員も共に学ぶという体験をとおして、地域社会への理解が深まり有意義な活動であった。劇上演はもちろん、事前の活動が本校の生徒や教職員のみならず、小・中学校の児童生徒や地域の方々にも新たな夢をはぐくむエネルギーを生み出した。

（県立高校教諭）

クレアの独り言

学校の文化祭で英語劇を行うという事例は多数ありましたが、学校の枠を超えて地域とも連携している点がユニークだったため、この事例を取り上げました。合宿で台本を作成するなど、一連の流れが無駄なく効果的に組み立てられているのも素晴らしいと思います。

“Dreaming”: A Story of the Big Turnip and Snow White

Scene 1:

Narrator: In every country, in every city, in every house, every night, you can hear the same thing:

Child 2: I don't wanna go to sleep!

Child 1: Me either!

Mother: But it's bedtime. You must sleep.

Child 2: I'm not sleepy. Tell me a story.

Child 1: Yeah! A story!

Mother: What's the magic word?

Children: Please!

Mother: Okay. You said please very nicely.

Narrators: Parents tell stories. They tell the same stories again and again. What is your favorite story? Did your parents tell it to you?

Mother: What kind of story do you want to hear?

Child 1: I want a funny story.

Child 2: I want to hear a story with a princess.

Mother: Hmmm. We can do both. Which one first?

Child 2: Tell the princess story!

Child 1: Funny story please.

Mother: He said, "Please," so a funny story is first.

Mother: Once upon a time...

Scene 2:

Narrator and Mother: There was an old man and woman.

(lights off mother)

Narrator: They had no children. They were very kind, but they were lonely.

Grandfather: This turnip is so cute. It looks like a child. I want it to be our child. I like this turnip very much. So I want to pull it out.

Narrator: Grandfather pulled and pulled and pulled.

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Grandfather: I can't pull it out by myself. I'll call grandmother. Grandmother! Help me pull out this turnip, please.

Grandmother: What turnip?

Grandfather: There is a big turnip in our garden. Let's have it as our child.

Grandmother: OK. Good idea. I want a child!

GM&GF: One, two, three!

GM&GF: It's too big. We can't pull it out.

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Grandmother: Who can help us? Let's call our neighbor. Help us pull out the turnip, please!

Younger brother: Of course, I'll help you. Just a minute. Okay, let's do it!

All: One, two, three!

All: It's too big. We can't pull it out.

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Younger brother: Who can help us? Let's call my brother. Help us pull out the turnip, please!

Older brother: Of course, I'll help you. Just a minute. Okay, let's do it!

All: One, two, three!

All: It's too big. We can't pull it out.

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Older Brother: Who can help us? Let's call the farmer.

Help us pull out the turnip please.

Everyone sing a song "Help"

Help! I need somebody.

Help! Not just anybody.

Help! You know I need someone.

Help!

When I was younger so much younger than today,

I never needed anybody's help in any way.

But now these days are gone.

I'm not so self-assured.

Now I find I've changed my mind.

I've opened up the doors.

Help me if you can I'm feeling down.

And I do appreciate you being round.

Help me get my feet back on the ground.

Won't you please, please help me.

And now my life has changed in oh so many ways.

My independence seems to vanish in the haze.

But every now and then I feel so insecure.

I know that I just need you like.

I've never done before.

Help me if you can I'm feeling down. And I do appreciate

you being round. Help me get my feet back on the

ground. Won't you please, please help me.

Farmer: Of course, I'll help you. Just a minute. Okay, let's do it.

All: One, two, three!

All: It's too big. We can't pull it out!

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Farmer: Who can help us? Let's call the doctor. Help us pull out the turnip, please.

Doctor: Of course, I'll help you. Just a minute. Okay, let's do it.

All: One, two, three!

All: It's too big, we can't pull it out.

Doctor: Who can help us? Let's call the samurai. Help us pull out the turnip, please.

Samurai: Of course, I'll help you. Just a minute. Okay, let's do it!

All: One, two, three!

All: It's too big. We can't pull it out.

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!

Samurai: Who can help us? Let's call the cheerleaders. Help us pull out the turnip, please, ladies.

Cheerleaders: (giggle). Of course, we'll help you. Just a minute. (Ready, Ok!) Okay, let's do it!

All: One, two, three!

All: It's too big. We can't pull it out.

資料 台本 2

Turnip: You can't pull me out! (giggle)!
 Cheerleaders: Who can help us? Let's call the lion. Help us pull out the turnip, please.
 Lion: Of course, I'll help you. Just a minute. OK, let's do it!
 All: One, two, three!
 All: It's too big! We can't pull it out!
 Turnip: You can't pull me out! (giggle)
 Narrators: At that time a magic man passed by.
 Lion: We want to pull out this turnip, please. But we can't pull it out.
 Magician: It looks like hard work. Of course, I'll help you. I am a great magician. One, two, **THREE!** Okay, let's do it!
 All: One, two, three.
 Grandfather: It didn't work.
 Grandmother: We'll never have a child. It's so sad.
 Magician: What? What a strange turnip! Maybe the scientist can explain it. I'll call the scientist. Help us pull out the turnip, please.
 Scientist: Of course I'll help you. Just a minute. OK, pull now!
 All: One, two, three!
 All: It's too big, we can't pull it out.
 Grandfather: Mouse, mouse, will you help us?
 Grandmother: Please, we need more help!
 Mouse: Of course, I'll help you.
 Video Game boy: She's too small to help.
 Grandmother: That's not true! Anyone can help.
 Mouse: I am small, but I am strong. Let's do it!
 All: One, two, three.
 Turnip: Hello, I was born from the turnip. I am the turnip girl. I will be your daughter from today. Nice to meet you!
 Everyone: Nice to meet you too!
 Grandmother: We're so happy! Thank you everyone. Thank you mouse.
 Narrator: And they lived happily ever after.

Scene 3:

Child 1: That was a funny story!
 Mother: I'm glad you liked it. Please remember to work together and you will solve any problem.
 Child 2: Now may I hear a princess story, please?
 Mother: Of course. You said please very nicely. Do you like Kaguya Hime?
 Child 2: No! It's too sad.
 Mother: Sleeping Beauty?
 Child 1: No! It's too scary.
 Mother: Oh, I know!

Scene 4:

Mother: Once upon a time there was a princess named, "Snow White."
 Child 2: Oh, I like this story!

Mother: She had skin as white as snow...

Mother + Narrator: ...lips as red as a rose, and hair as black as midnight.
 (Snow white enters, singing)
 Narrator: Her mother disappeared when she was a baby. (King George and Victoria enter)
 King George: Snow White, this is Victoria. She will be your new mother next week. We're getting married. Isn't she beautiful?
 Snow White: How do you do? (Reaches out to shake hands)
 Victoria: How do you do? (Shake hands)
 Snow White: (cry)
 King George: Well, I'm very busy. I have a meeting with King Henry and Prince John, so, please excuse me. (Both Victoria and S.W. curtsy)
 (Victoria squeezes Snow White's face.)
 Victoria: You're a very pretty child, aren't you?
 Victoria: Well?
 Snow White: Well...what, your majesty?
 Evil Victoria: Aren't I beautiful?
 Snow White: Yes, your majesty.
 Victoria: Good girl. Now go outside. I don't like children. (Snow White exits)

Scene 5:

Victoria: Gorgonzola! Mozzarella!
 G & M: Yes, my beautiful queen!
 Victoria: Bring me my mirror!
 (Mozzarella gets the mirror frame).
 Narrator: Victoria had a magic mirror. The mirror could talk. It could answer any question. It could only tell the truth. But it was a sad mirror. Victoria wouldn't let her go home. So she didn't like Victoria.
 Gorgonzola: Here is the mirror!
 (Victoria gives a mean look)
 Gorgonzola: Here is the mirror, my beautiful queen!
 Victoria: That's better. Mirror, Mirror, on the wall, who is the most beautiful woman of all?
 Mirror: You are the most beautiful, my queen. (aside) It's too bad you're so mean! (to Victoria) Now let me go free!
 Victoria: No! You must tell me fifty-seven more times today how beautiful I am!
 (Look at the mirror)
 The mirror is not clean enough for me to see how beautiful I am! Go clean it!
 (They exit)

Scene 6:

Narrator: Snow White went outside to play. Some animals saw her. They wanted to play with her. Even the animals loved Snow White.
 Dog: She looks nice! Let's play with her! I wanna play! I wanna play!

Rabbit: No. Humans are scary.
 Monkey: Some humans are scary. But this human is nice.
 All animals: Let's play with her!
 Dog: Come on! Come on! It's fun! It's fun!
 Rabbit: Okay.
 (The animals go to Snow White and bark and squeak.)
 Snow White: (sings) Oh, you're so cute! Let's sing a song.
 (A prince walks by)

Everyone sing a song "When You Wish Upon a Star"

When you wish upon a star, makes no difference who you are.
 Anything your heart desires will come to you.
 If your heart is in your dream, no request is too extreme.
 When you wish upon a star as dreamers do.

Fate is kind. She brings to those who love.
 The sweet fulfillment of their secret longing.
 Like a bolt out of the blue, fate steps in and sees you through.
 When you wish upon a star, your dreams come true.

Prince John: I'm a prince so I have heard many beautiful singers, but she is the best. The animals love her too! She must be kind. I must talk to her!
 Snow White: I wish I had friends. You animals are very nice. Let's play a game.
 Prince John: Excuse me, Can I play too?
 Snow White: Oh! It's a person! No one ever comes here. Why are you here?
 Prince John: Our fathers are having a meeting. What is your name?
 Snow White: I'm Snow White.
 Prince John: Can I play too?
 Snow White: Sure.
 (They play.)

Scene 7:

Gorgonzola: We have to clean this mirror. Where can we do it? Come on Mozzarella, go faster!
 Mozzarella: I'm trying! It's heavy!
 Mirror: Stop! Who is that girl?
 Mozzarella: She is Snow White. Isn't she pretty? She's nice to me.
 Gorgonzola: Be quiet! Don't let Victoria hear you.
 Mirror: Snow White? Really? She's grown up. She is so kind! She is beautiful inside and out!
 Gorgonzola: Shhh! Be quiet.
 (They exit)

Scene 8:

Narrator: The animals, Snow White, and Prince John had a fun time playing.

Monkey: Snow White and the Prince like each other! I have a plan.
 (animals whisper to each other)
 Rabbit: Oh, cute!
 (The animals make Snow White and the prince bump into each other)
 Prince: (embarrassed) ...I have to go.
 Snow White: Wait, what is your name?
 Prince: Just call me Johnny.
 Snow White: Goodbye Johnny!
 (Prince leaves)
 Snow White: Johnny. (sigh) He was very nice.
 Monkey (to Rabbit): Of course he's nice. He's a prince!
 (Snow White, and animals exit)

Scene 9:

(Victoria enters)
 Victoria: Bring me my mirror!
 Gorgonzola: We're coming, my beautiful queen!
 Mozzarella, faster!
 Mozzarella: It's heavy!
 Victoria: Mirror, Mirror, on the wall, who is the most beautiful woman of all?
 Mirror: You, my queen, have beauty, it's true, but Snow White is much prettier than you!
 Victoria: What? What? WHAT?
 Gorgonzola: Don't worry, your majesty. Just try again!
 Victoria: Mirror, mirror on the wall, who is the prettiest woman of all?
 Mirror: You, my Victoria, are beautiful it's true, but Snow White is beautiful and also kind too!
 Victoria: AAAAAAAAAA!!!! I have to be the most beautiful! Snow White is a bad girl. I hate children! You! (points to Gorgonzola) Take Snow White out to the woods and kill her!
 (Victoria exits)
 Gorgonzola: You! Take Snow White out into the woods and kill her!
 Mozzarella: I can't!
 Gorgonzola: Do it! Or Victoria will kill you! (He exits)
 Mozzarella: What should I do?

Scene 10:

(Mozzarella walks left)
 (Snow White enters left, with animals following her.)
 Narrator: Mozzarella was scared of Victoria, but she didn't want to kill
 Snow White. Snow white was always nice to her.
 Snow White: Good morning!
 Mozzarella: Snow White, let's go for a walk.
 Snow White: Okay.
 (They walk around)
 Mozzarella: Please stop. (crying) Victoria told me to kill you! I don't want
 to. Please run away. I'm sorry! (He runs away).
 Snow White: Where will I go? (crying)

資料 台本 4

Rabbit: How terrible! Victoria is so mean. Where will she go?

Monkey: I know a house! It's the fairies' house. It's close to here!

Dog: They have food! Let's go! Let's go!
(They bark and squeak and get her to follow).

Snow White: You want me to come?
(They nod)

Scene 11:

(Snow White knocks on the door)

Snow White: Hello?

(The door opens. She goes inside)

Snow White: Oh! There's no one home. What will I do? I'm so tired. I must stay awake...until...(she falls asleep)
(The animals fall asleep too, except the monkey, who watches).

All fairies: Hi ho!
(sing hi ho)

Everyone sing a song "Heigh-Ho"

Heigh-ho, heigh-ho, heigh-ho, heigh-ho, heigh-ho
Heigh-ho, heigh-ho.

It's home from work we go.

Heigh-ho, heigh-ho, heigh-ho.

Monkey: Wake up! Wake up! (The animals wake up and hide.)

(The fairies come in and stop and stare at Snow White)

Scene 12:

Happy: What is that sleeping thing?

Sneezy: It's a big spider! It's scary! (ah-choo!)

Sleepy: Can you move it? I'm tired.

Hungry: It's a turnip! I love turnips! I want to eat it.

Unhappy: I don't like turnips. Make it go away.

Smarty: No, it's not a turnip! It's a human girl!

Everyone: Oooooooh.

Snow White: (Wakes up). Oh, I'm so sorry I fell asleep.

Smarty: It's okay. But you should go home. Your mother will be worried.

Snow White: I don't have a mother. She disappeared ten years ago. And the new queen, Victoria, wants to kill me! Can I stay here?

Happy: That sounds great!

Snow White: I'll help you with housework!

Sneezy: Really?! We are not good at cleaning. (sneeze).

Everyone: That would make us very happy. Please stay with us, Snow White!

Narrators: The next day the fairies went to work. Snow White stayed at home to clean.

Smarty: Don't let anyone inside. It's dangerous.

Unhappy: Please be careful!

Happy: Have fun!

Snow White: Thank you! Work hard! I'll do my best too! Goodbye!

(Snow White sings)

Dog: I want to play! I want to play!

Monkey: Let's help her clean. It looks fun!

Rabbit: She sings so pretty...

Scene13:

Narrator: Meanwhile, back at the castle...

Victoria: Haha! Snow White should be dead now. And I'll be the prettiest woman in the world. Bring me the mirror!

Gorgonzola: Yes, my beautiful queen. Mozzarella, faster!

Mozzarella: It's heavy.

Victoria: Mirror, mirror, on the wall, who is the most beautiful woman of all?

Mirror: Snow White, Snow White, Snow White. Now let me go free!

Victoria: WHAT????? Where is Gorgonzola?

Gorgonzola: I'm here.

Victoria: Where is Snow White? Did you kill her?

Gorgonzola: I told Mozzarella to do it.

Mozzarella: I couldn't kill her. Please don't kill me! She's in the forest!

Victoria: You are all idiots! I will do it myself! But first, I must find her.

Victoria: Mirror, mirror, on the wall, where is Snow White?

Mirror: I won't tell you!

Victoria: Hahaha! You must! I put you in that mirror by magic! I am your master!

(Victoria waves her wand)

Mirror: She's at the fairies' house in the forest. Now let me go!

Victoria: Hahahaha!

Scene 14:

Narrators: Victoria was a witch. She made a magic drink. The magic made her look like an old lady.

Victoria: If you want something done right, you have to do it yourself.

(She mixes a drink and drinks it) (Change to old Victoria)

Victoria: (giggle). Now I can kill Snow White.

Mozzarella: Who are you?

Victoria: It's me, Victoria, you stupid idiots! It's magic!

G & M: Ooooh.

Victoria: I will make a poisoned apple. Bring me my magic bag!

(Mozzarella gets the bag)

Victoria: It must be made from rats, spiders, and of course, turnips! There! Now it's a poisoned apple! Ahahahahaha!

(G & M are not laughing)

Victoria: Laugh!
All three: Ahahaha!

Scene 15:

Narrator: Victoria made herself look old by magic and went to see Snow White.

(Snow White and the animals are cleaning)

(Knocking at the door)

Snow White: Who is it?

Victoria: I'm just an old woman. I'm your neighbor.

Dog: Who is it? Who is it? Is it someone fun? Will they play with me?

Rabbit: People are scary.

Monkey: The fairies said not to let anyone in!

Victoria: May I get a drink of water? It's very hot.

Snow White: Of course you may.

(They squeak and try to stop her. Snow White opens the door)

Snow White: Please come in. It's too hot. Please sit here until you feel better.

Victoria: Thank you, Snow White.

Snow White: How did you know my name?

Victoria: Uh...I guessed. May I have that water? (S.W. gets the water)

Victoria: Thank you for being so nice. Please have this apple as a gift.

Snow White: Oh, thank you! I love apples.

(She take a bite)

Snow White: Oh, I feel so sick! (She falls down)

Victoria: Ahahaha!

Scene 16:

Dog: Oh no! Oh no! Help, help, help!

Monkey: We must find the fairies. We need help!

(The animals run to the fairies and bark and squeak)

Unhappy: Oh no! They are mean animals!

Sleepy: Shhh! I'm trying to sleep.

Hungry: Are they hungry? I have a turnip. Here puppy...

Happy: (pet dog) Aw, it's a happy dog!

Sneezy: (Ah-choo!)

(Monkey pulls on Smarty's arm)

Smarty: Something is wrong at home!

Unhappy: Oh no! Snow White!

(They run home)

Unhappy: Oh no!

Sneezy: It's terrible!

Sleepy: She's dead!

Smarty: She's dead!

All fairies: She's dead!

(They cry)

Scene 17:

Narrator: Meanwhile, back at the castle.

Victoria: Now I must become beautiful again.

(Victoria begins making a potion).

Mozzarella: Victoria is so mean. I wish we could stop her!

Gorgonzola: Ah-ha! I have an idea!

(They huddle and whisper, and talk to the mirror.)

Victoria: I just need to add cream, flowers, and of course, a rose!

(M. steals the witch's wand. G signals to the mirror.)

Mirror: Hey, ugly Victoria! This is your last chance to let me go free!

Victoria: I'm not ugly! When I drink this I will be beautiful!

(G. pours many things into the pot)

Narrators: Gorgonzola put many things into the pot. When the witch drank the magic drink, nothing happened!

Victoria: I'm not changing! I'm still ugly!

Gorgonzola: We have your magic wand! You will stay ugly forever!

Victoria: Give it to me!

Gorgonzola: No!

(He throws it to Mozzarella, who breaks it)

Victoria: No! Now I'll be ugly forever!

Mirror: Oh! I'm free! Thank you so much!

Narrators: The mirror turned into a beautiful lady.

Mozzarella: Who are you?

Mirror (Queen): I am Snow White's mother. (The king enters)

King George: Darling! We thought you were dead!

Mirror (Queen): I am not dead! Victoria put me in the mirror with magic!

King George: I'm so happy!

(They hug)

King George: Take Victoria to jail!

G & M: Yes, sir!

Mirror (Queen): But where is Snow White?

Scene 18

Narrators: Snow White was still in the fairies' house, poisoned by Victoria's magic.

(The prince walks by)

Prince John: Something is wrong!

(He goes inside)

Prince John: What's happened?

Sneezy: She's dead!

Sleepy: She's dead!

Smarty: She's dead!

(The prince goes to her, and picks up the apple)

Prince John: She ate this poisoned apple. But only a little bit. She's still warm. Maybe it is magic sleep.

(They move her)

Prince John: Wake up! Wake up Snow White!

Happy: If it's magic, you must kiss her!

(kiss)

Snow White: What a nice nap!

資料 台本 6

Happy: She's alive!
 Sleepy: She's alive!
 Hungry: She's alive! Let's have a party!
 Snow White: Of course, I am.
 Smarty: That old woman was Victoria! The apple you ate was poison!
 Snow White: Oh no! I'm so sorry to have troubled you!
 Oh, it's Johnny!
 Smarty: He's not "Johnny." He's Prince John.
 Prince: It's true. I'm sorry I didn't tell you.
 Unhappy: He woke you up with a kiss.
 Snow White: My first kiss? Waaa!!! I don't remember it!
 Prince: Will you marry me Snow White? There will be lots of time for kissing.
 Snow White: Yes, of course.
 (Everyone cheers, hugs, and S.W. and the animals go away)
 Snow White & Prince: Thank you for everything, Goodbye!
 Fairies: Goodbye!
 (There is silence)
 Unhappy: Now I'm lonely. I wish we had a child.
 Hungry: I have a cute turnip. Oh, I can't pull it up. Will you help me?
 (Everyone comes on stage and helps pull)
 All: Of course we will help you.
 Hungry: one, two, three
 Everyone: And they all lived happily every after!
 Scene 19:

Mother: Oh! The children are asleep. Shhh! Let them dream while they are still young.
 (She walks away quietly)

Scene 20:

Narrators: Tonight the children will dream about princes and turnips, cats and kings, mice and grandmothers. Will someone tell you a story tonight? What will your dream be? Keep telling stories. Help us fill the world with dreams!

Everyone sing "When you wish upon a star" and "Help" again.

When you wish upon a star, makes no difference who you are.
 Anything your heart desires will come to you.
 If your heart is in your dream, no request is too extreme.
 When you wish upon a star as dreamers do.
 Fate is kind. She brings to those who love.
 The sweet fulfillment of their secret longing.
 Like a bolt out of the blue, fate steps in and sees you through.
 When you wish upon a star, your dreams come true.

Help! I need somebody.
 Help! Not just anybody.
 Help! You know I need someone.
 Help!
 When I was younger so much younger than today,
 I never needed anybody's help in any way.
 But now these days are gone.
 I'm not so self-assured.
 Now I find I've changed my mind.
 I've opened up the doors.
 Help me if you can I'm feeling down.
 And I do appreciate you being round.
 Help me get my feet back on the ground.
 Won't you please, please help me.

The End

6

事業名

適応指導教室への ALT 派遣

事業概要

(1) 内容

不登校の児童生徒に対し復学のための指導を行う適応指導教室へALTを派遣する。ALTは担当職員とともに教室に入り、英語を用いて子供と一緒に活動する。

(2) 目的及び効果

学校に行けない子供たちに英語に触れる機会を提供する。異なる言語・文化背景を持つ者とふれあうことを通じて、子供たちが対人関係や社会性・協調性を培う助けとする。

期 間	学期ごとに3日 (年間9日)
場 所	市内適応指導教室
対 象	教室に通う児童生徒
規 模	約10人
主 催	市教育委員会
予 算	0

■ 実施の流れ

1. カリキュラム

教室のカリキュラムは大別して3つの要素から成る。

- 学習補助－学校で教える教科を学習する。
- 体験学習－創作活動、調理実習、音楽、スポーツなど、体験的な学習を行う。
- 自由時間－ボードゲームやスポーツ、会話などを通じ、人間関係構築力を育成する。社会見学やハイキングなどの行事もこの時間に含まれる。

2. ALT の派遣

適応指導教室は教育委員会の管轄なので、学校派遣と同様に派遣計画の中に組み込み、学校の合間を縫ってスケジュールを調整し、派遣日を決定する。

学期ごとに連続した3日間派遣する。

3. ALT の役割

ALTは、午前9時から午後3時30分まで生徒と一緒に過ごす。各カリキュラムにおけるALTの役割は以下のとおり。

- 学習補助－ALTが用意した教材を使って英語を教える。
- 体験学習－ゲームや音楽を通じた英会話を行う。小学校訪問に近いイメージ。
- 自由時間－山登りなど行事があるときは一緒に参加。その他の日はボードゲームやスポーツなどを子供と一緒にやる。

4. 打合せ・準備

使用する教材や授業内容は基本的にALTに一任され、担当職員との打合せは当日の朝に行う程度。

ただし、初めて派遣されるALTには、事前に教育委員会担当者から適応指導教室の概要を説明しておく。

また前任のALTとも引継を行うことで一層理解が深まる。初めてのALTにアイデアが無い場合には、スライドを使った母国紹介などを提案する。

■ 予算

なし（通常の学校派遣の一部）

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

- ふれあい教室としては、ALTの活用を、英会話教室だけではなく、自由時間に生徒とALTがいっしょに接することも大事にしている。また、当教室に通級している児童生徒は、人とかかわりを苦手に行っているため、英語を教えてくれるALTとの出会いというより、来てくれた「人」との出会いを大切にしている。
- 普段接することの少ない外国人とふれあうことができるので、子どもたちの生き生きした姿が見られる。
- ほとんどの生徒が英語をかなり苦手に行っているが、ALTと話す時は、少しでも英語でしゃべって伝えようと、生徒は努力していた。
- ALTにプレゼンテーションをしてもらったり、ALTと雑談をしたりする中で、違う国の生活や文化を知ることができた。
- ALTにマンツーマンで学習を見てもらうことができたのが良かった。
- ALTと接する時の生徒の緊張は強いが、スタッフが入ったり、ALTが連続して来てくれたりすることで、緊張が徐々に和らいでいった。
- 英語のレクリエーションは、参加に消極的な生徒が数名いた。
- 児童生徒の学年の幅が広いので、小学生向けの内容をしてもらうことが多かった。
- 普段、能動的に動かない子どもが優しいALTとの

【事例提供】伊賀市（三重県）教育委員会 学校教育課 0595-22-9677
伊賀市教育研究センターふれあい教室 0595-24-0783

出会いから、人と接すること、特に外国の人とコミュニケーションを取ることに自信をもった。

当教室に通級している子どもたちは、相手にたたみかけるようにしゃべられるのが大変苦手である。ALTとは元々言葉の壁があるために、コミュニケーションはいっしょに活動することが中心となる。また、当教室は自由時間が多くあり、行事活動も多い。いっしょにスポーツをしたり、山登りや合奏をしたり、ボードゲームをしたりと、活動中心のコミュニケーションを図る時間がたっぷりある。これが、引っ込み思案の子どもにとって、良かったのではないかと思われる。

当教室のスタッフに英語が話せる者がいないので、スタッフの側に不安もあるのだが、上手くコミュニケーションが図れないことも楽しめた。

クリアの独り言

実際に教室で指導をしている職員の方が「ALTは日本語を話さないで、言葉でない部分でのコミュニケーションが重要となり、それが伝えることとは何かを感じるきっかけとなる」とおっしゃっていたのがとても印象に残りました。

市民への英会話テレホンサービス “ハローフレンズ”

【事例提供】三木市（兵庫県）教育委員会 学校教育課 0794-82-2000（代）

事業概要

(1) 内容

ALTが録音した会話を流すテレホンサービス。専用の電話番号にかけると、3分程度の英会話を聞く事ができる（通話料のみ）。話題はALTの体験談や随想など。5人のALTが1週間ごとに交代で登場する。

(2) 目的及び効果

市民の英語ヒアリング力を高め、同時に異文化への理解を深める。

期 間	通年 (毎週内容が変わる)
電 話 番 号	0794-89-2410
対 象	一般市民
主 催	市教育委員会
予 算	0(初年度5～6万円)

■ 実施の流れ

1. 自動音声応答装置について

本事例のテレホンサービスは、自動音声応答装置と呼ばれる機器を使用している。

自動音声応答装置は、電話線に接続することで、その電話番号にかかってきた電話に対して、あらかじめ録音しておいたメッセージを自動的に再生するものである。

5万円程度で市販されており、設置も電話線に接続するだけと、非常に簡単に本事例のようなテレホンサービスを提供する環境を整えることが出来る。

2. 番組例

日本の学校、夏休みやクリスマスなど、ALTの目から見た日本の印象、あるいは旅行の思い出など、主にALT自身の生の体験に基づく感想を語る。

中には、JETプログラム主催の日本語研修に参加した時の様子を話すALTもある。他のALTの日本語がとても上手で気後れしたなど、微笑ましい内容になっている。

非常にゆっくりと話しており、中学生程度のレベルで理解できるよう配慮がなされている。

3. ALTのローテーション

教育委員会所属のALT 5人が週代わりで登場する。ALTのローテーションは年度当初に作成し、各ALTに伝えておく。

4. 進行管理・録音

毎週水曜日の午後を教育委員会での打ち合わせ日としているため、その際に録音する。

自動音声応答装置に付属のマイクを使って直接録音できるようになっているため、会議室など静かな場所に装置を持ち込んで、その場で録音する。

5. 広報

毎月発行される市の広報紙に、その月のALTローテーションを掲載している。

また、市が提供しているFMラジオの番組内で、そ

英会話 テレホンサービス ☎89・2410		教室・講座
7月6日(木)	マンニング・ガレス(カナダ出身)	
7月13日(木)	スターンズ・ローラ(イギリス出身)	
7月20日(木)	グロジキ・ニコラス(オーストラリア出身)	
7月27日(木)	ジョーンズ・アリソン(アメリカ出身)	
三木市の中学校に派遣されているALT 5人がさまざまな話題をお話しています。最近体験したことや感動したこと、日本と母国の違いなどを、簡単な英語でお話しますので、どうぞご利用ください。		

の週のALTを紹介している。

1998年に5年分の番組内容を1冊の本にまとめ、市内の中学校に配布した。

■ 予算

なし（初期設備投資のみ）

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

“ハローフレンズ”は、タイムリーな話題を英語で聞く面白さがあります。

ALTは多くの市民の皆さんに理解していただけるよう、わかりやすく厳選された英語を使っています。

学校での英語指導や子どもたちとのコミュニケーションの中で磨かれる国際感覚が随所にみられて、日本人とのふれあい経験の濃淡に比例するかのよう内容に面白さが出てきます。来日直後は、自己紹介から始まります。次に日本に来て驚いた事象になります。行事や生活習慣の違いから日本を捉えていきます。

担当者にとってもALTを理解する良い機会になります。

皆さんにもっと利用して欲しいと希望するとともに、ALTと接する機会があれば、“ハローフレンズ”を聞いた感想などをALTに話しかけていただけることを期待しています。

クレアの独り言

これはとても面白いアイデアですね！簡単な設備投資で出来てしまうというのも驚きでした。是非実際に電話で聴いてみて下さい。

事業名

英語ガイドボランティア団体との交流

【事例提供】上田市（長野県）教育委員会 子ども教育課 0268-22-4100（代）／ボランティア英語観光ガイド上田 EGG

事業概要

(1) 内容

英語による地元の観光ガイドを行うボランティア団体にALTを派遣し、交流の機会を設ける。ボランティア団体がALTに観光ガイドを行い、内容や表現が適切かチェックする。また、日本の料理を一緒に作ってALTに紹介する交流も行う。

(2) 目的及び効果

JET 参加者と地域住民との交流を深めると同時に、ボランティア活動の促進に寄与する。

期 間	半日
場 所	市内観光名所（観光ガイド）及び公民館（料理・交流）
対 象	ボランティア団体会員
規 模	10人弱
主 催	市教育委員会
予 算	0

■ 実施の流れ

ボランティア団体からの派遣依頼に基づき ALT を派遣。ボランティア団体では、毎年新規に配属となった ALT を対象に交流会を開催している。これは、観光ガイドボランティアという性質上、地域にまだ馴染みの無い新規来日者が格好の対象となることに加え、ALT との関係作りをしておくことで、その後の活動につながる人脈を築くというねらいがある。

交流会には毎年 2～3 人の ALT を招待している。そこで知り合った ALT とはその後もメールのやり取りなどを続け、団体の月例会（勉強会）にゲストで参加するなど、交流の広がりをみせている。

1. 料理教室

寿司やおやきなど、日本料理、郷土料理を紹介。一緒に調理し、試食することを通して交流を行う。

2. 観光ガイド

地域の観光名所へ ALT を案内し、歴史や文化を解説。新規 ALT に地域を紹介すると同時に、ガイドとしての英語表現のチェックを行う。

交流会は、学校のテスト期間など ALT に余裕のある時期に、平日に行っている。週末に派遣する場合は代休措置が必要となり、また夏休みには旅行に出かける ALT が多いため。

■ 予算

なし（派遣依頼に基づく派遣）



(担当者からのコメント・アドバイスなど)

来日直後で日本に馴染めない ALT もいる中で、英語を使ったコミュニケーションをとってもらえるので、非常に助かっている。交流会に参加した ALT もたいへん満足している。

学校での授業や、長期休暇中の帰国などもあり、月例会などへの参加は難しいが、都合がつく時は、ボランティア団体のお力を借りて、地域の国際交流に貢献できればと考えている。（教育委員会担当者）

ボランティア団体が行う国際交流イベントは土曜・日曜に行われることが多いため、ALT の力を借りたいのは土曜・日曜・夜なのだが、ALT の勤務形態上、なかなか難しい。翌週代休を取れば、中学校の授業に迷惑がかかってしまう。

また、学校の長期休暇中など、もっと交流イベントを企画したいと思うが、休暇（年休）をとって旅行中、或いは帰国中の ALT がほとんどで、実現していない。

学校での活用とうまくバランスをとって、JET プログラムの目的のひとつである国際交流の分野で ALT の活動範囲が広がれば素晴らしいと思う。

（英語ガイドボランティア代表）

クレアの独り言

近年、「NPO との協働」や「NPO の活動促進」ということが行政の課題として注目されていますが、この分野に JET を活用した良い例ではないでしょうか。市民活動の担当課と連携することで、JET 活用の幅が広がると感じました。

事業名

学童保育への JET 派遣「めだかの学級」

事業概要

(1) 内容

夏休み期間を利用して、学童保育へALT及びCIRを派遣する。ゲームや歌を通じて英語に親しむ活動を行う。

(2) 目的及び効果

保護者が労働等により昼間家庭にいない子供に、JET とのふれあいを通じて適切な遊びと生活の場を提供し、その健全な育成を図る。

期間	夏季休業中に毎週1回3時間、合計4回
場所	社会福祉協議会会議室及びホール
対象	学童保育に通う小学校1年から3年の児童
規模	50人
主催	社会福祉協議会
予算	0～1万円

■ 実施の流れ

1. 「めだかの学級」について

「めだかの学級」は、社会福祉協議会が主催する夏休み期間限定の学童保育である。

毎週1回、午後1時から4時までの3時間で行われる。通常の学童保育と同様に専門の指導員がおり、そこへALT1名、CIR1名が加わった。

2. ALT 派遣の背景

通常この時期は学校の授業が無いためALTには教材作成などを行わせているが、さらに活用の幅を広げるために、教育委員会担当者が社会福祉協議会に打診し、派遣を実現した。

3. プログラムの内容

プログラムは、はじめにウォームアップとして英語を使わなくても出来るゲームを行い、慣れてきたところで、あいさつや色、動物の名前などの簡単な英語を紹介し、それらの表現を使ってゲームや歌などのアクティビティを行うという構成になっている。

例えば、「色」と「数字」の言い方を教えた後で、カラーバスケット(フルーツバスケットのルールで、フルーツの代わりに色の名前を言う)を行うなど。

4. 教材作り

レッスンプランは、2～3週間前に作成にとりかかった。JETと日本人英語教師(市雇用の日本人英語指導員)がゲームのアイデアを持ち寄って、全体の流れを組み立てた。

教材づくりは、ALTとCIRのほか、日本人英語教師(市雇用の日本人英語指導員)、教育委員会担当者が協力して行った。

5. 指導員との打合せ

学童保育の指導員とは当日打合せし、事前に決めた



進行を説明するとともに、協力が必要な場面を伝えておく。

指導員は全体を見ながら子供の様子に気を配り、言うことを聞かない子供の面倒を見たり、一緒にゲームに加わったりする。

■ 予算

教材作成費用のみ。ボールなど、普段から使用している資材を活用したので出費はほとんど無かった。

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

行橋市では、この他にALTが中心となり、小学生を対象としたイースターパーティーやハロウィンパーティーを開催しています。ALTに企画してもらうことにより、英語指導意欲の向上や積極性が養われてきているように思われます。

また、活動に参加した児童がALTを街で見かけると、英語で挨拶してくれたりして国際交流の場も広がってきています。

今後も、さまざまな活動を通じて日本の素晴らしさをALTに学んでもらい、日本の子ども達に、異文化の素晴らしさを教えてもらいたいと思っています。

クレアの独り言

ALT=学校という発想になりがちですが、その延長線上にもこのような活用の場が見えました。JETの活躍の場所は探せばまだまだありそうです。

めだかの学級の英語のクラス After School Care Classes

Lesson 1

ACTIVITIES

“Rock, Scissor, Paper Train Game” – Students walk around the room and when the music stops, play janken. The winner forms the start of the train and the losing student hold onto the person’s waist/shoulders. Repeat until there are only two long lines.

Tunnel Ball – line up in teams. The first person rolls the ball under their legs and the other people help the ball roll along if it is needed. The last person picks up the ball and runs it to the front. Everybody takes a step backwards. This is repeated until the whole team has been through.

“Hi and Bye?” Game – Students form groups. One person starts “Hi” the next student replies “Bye”. The first group to complete the circle is the winner.

“What’s your name?” Game – Students form groups. One person starts “What’s your name?” the next student replies “My name is _____. What’s your name?” The first student replies “My name is _____. Both student say “Nice to meet you”. The first group to complete the circle is the winner.

Rainbow Colour-in Activity – a black and white handout of the rainbow song will be given out.

Rainbow Song – After learning colours once, the students are given colours of the rainbow. The students are to hold up their colour in the air in time with the song.

Colour Basket – Each student has a coloured card. One person is standing in the middle. They call out one colour name and everyone with that colour has to change seats. The seat next to them is not allowed. If “Rainbow” is called then all colours move.

Step Game – After learning numbers and colours. Students will be given colours, and line up and one end of the room. A colour and a number get picked out a hat. The students with that colour can take the number of steps picked. The first students to make it the other side are the winners.

めだかの学級の英語のクラス
After School Care Classes

LESSON PLAN

- | | |
|--|---------|
| ① Self Introduction | 10 mins |
| (ア) Chris' Introduction | 4 mins |
| (イ) Margie's Introduction | 4 mins |
| (ウ) Yuki's & Ikegami's Introduction | 2 mins |
| ② Play warm up game "Train Rock Scissor Paper" | 15 mins |
| 1 group | |
| ③ Tunnel Ball x 2 - make groups of 10 | 10 mins |
| 6 groups | |
| ④ Hi and Bye Game (with Gestures) | 5 mins |
| 6 groups | |
| ⑤ "What's your name" and "My name is ____." | 15 mins |
| (ア) Teach phrases (with "Nice to meet you") | 5 mins |
| (イ) Play "What's your name?" Game x 2 | 10 mins |
| 6 groups | |

BREAK

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ⑥ Colours | 30 mins |
| (ア) Teach colours | 5 mins |
| (イ) Colour in Rainbow - 6 groups | 10 mins |
| (ウ) Hand out coloured cards | 2 mins |
| (エ) Play Rainbow song - 1 group | 8 mins |
| (オ) Play Colour Basket Game | 10 mins |
| 2 groups - 4 colours each group. | |
| ⑦ Number | 15 mins |
| (ア) Teach numbers 1-10 | 5 mins |
| (イ) Play Step Game - 2 groups | 10 mins |
| ⑧ Goodbye | |

事業名

外国語での対応が可能な医療機関のデータベース化

【事例提供】新潟県 知事政策局国際交流課 025-285-5511 (代)

事業概要

(1) 内容

県内のJETを通じて、外国語での対応が可能な医療機関の情報を収集し、所在地、診療時間等の基本情報をまとめたデータベースを作成する。作成したデータはホームページで公開。

(2) 目的及び効果

JET への適切な情報提供による生活支援。それまでは、へき地に配置された JET に対しても都市部の医療機関しか紹介できなかったが、各地の情報を一元管理することで情報提供の幅が広がった。

期間	3ヶ月(調査期間)
場所	県内
対象	JET 及び一般県民
規模	30件(データ数)
主催	県国際交流課
予算	0

■ 実施の流れ

1. 情報収集

PA を通じて、県内の JET にメールで情報提供を依頼。

特に様式は用意しなかったが、JET からは医療機関の名称・住所・電話番号に加え、英語がどのくらい通じるかなど、実際に利用した経験に基づいた情報が寄せられた。

また、平行して県内市町村の国際交流協会からも情報収集した。

情報収集にかけた期間は 1～2ヶ月。

2. 医療機関の承認

情報が集まった段階で、収集したデータの公開について承認を得るとともに、JET からの情報だけでは足りない部分を補足するため、各医療機関に対してアンケート調査を行った。

調査にあたっては、事前に県の医師会に調査方法について相談し、県から直接各病院に照会してよいとの了解を得た。これは、今後、県下の全医療機関に同様のアンケートを実施することも視野に入れ、医師会との関係を築いておく意図もある。

アンケートの回答期限は1ヶ月とした。回答が無かったもの、公開を許可しない旨の回答があったものは公開していない。

3. データベース作成

医療機関からの回答を受け、収集した情報をワープロで電子データにまとめた。

2名のPAと県の英語コーディネーター、日本人担当により1ヶ月かけて作成。日本語、英語の2言語で作成した。

4. 公開

県のJETホームページで公開。

もともとJET自身にとって必要な情報を収集するために始めたものだが、収集した情報は在住外国人支援にも利用できるものとなったため、今後は情報量をさらに増やし、県や国際交流協会のホームページで公開するなど活用したいと考えている。

■ 予算

なし

(担当者からのコメント・アドバイスなど)

JET参加者など在住外国人にとって、英語が通じる医療機関についての情報は貴重である。この事業によって、各JETから寄せられた口コミ情報を、県のJETコミュニティ全体に発信することができた。今後は、英語以外の言語で対応可能な医療機関についても情報を収集し、このデータベースを拡充させていきたい。

クレアの独り言

在住外国人支援として医療情報を提供するというのはこれまでも例がありますが、情報収集にJETを活用したというのには目から鱗が落ちました。JET自身の実体験に基づく情報なので、きっと「生きた情報」として貴重なものになるでしょう。

県内の医療機関における外国語対応の調査について（依頼）

県内の外国人住民の数は平成16年末現在で約14,000人と、この10年間で約2倍となり、今後のグローバル化の進展に伴い、外国人住民の数は更なる増加が予想されます。県では、外国人住民の方々が県内で安心して生活を送ることができるよう、言語や習慣等の違いに配慮した生活環境の整備を推進しており、このたび、外国語対応が可能である医療機関のリストを作成するため、標記調査を下記のとおり行うこととなりました。

つきましては、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

記

1 回答方法

別紙の調査票にご記入いただき、当課担当までファックスまたは郵送にて返信してください。

2 回答期限

平成 年 月 日（ ）

3 その他

- (1) 今回の調査は、県内在住の JET プログラム*参加者から「外国語対応が可能である」との情報が寄せられた県内32カ所の医療機関にお願いしています。

※ JETプログラムとは、Japan Exchange and Teaching Programme の略で、「語学指導等を行う外国青年招致事業」と呼ばれています。この事業は、総務省、文部科学省、外務省の協力のもとに、県や市町村などの地方公共団体が外国青年を招致し、語学指導や国際交流事業等へ従事させることにより、地域の国際化を推進することを目的として実施されています。

昭和62年度の開始以来、20年目を迎えた平成18年度には、全国で世界中から約6000名の参加者が招致されており、新潟県内には約150名のJETプログラム参加者が県内の公立学校や教育委員会に配置され、新潟県の国際化に携わっています。

- (2) この調査結果を基に作成した医療機関リストは、県内各地の外国人住民向け広報誌やホームページ（県ホームページ、県JETホームページ等）に掲載する予定です。

資料 医療機関へのアンケート2

医療機関の外国語対応に関する調査票

お忙しいところお手数ですが、以下について教えてください。

1) 基本情報

医療機関名	(ふりがな)
診療科目	
診療時間	
休診日	
所在地	〒
対応可能言語	
医師の性別	男性： 人 女性： 人
電話番号	
ファックス番号	
メールアドレス	
ホームページアドレス	

2) 対応可能言語と各言語の語学レベルを教えてください。

対応可能言語	語	語	語	語
語学レベル (以下の 1～3 で 回答してください。)				

【語学レベル】

- 1 簡単な会話程度はできる。
- 2 通常の診察は可能。(診断や薬の説明など、ほぼ対応できる。)
- 3 複雑な内容でも対応可能。

3) 診察には予約が必要ですか。

はい いろいろ

「はい」と答えた医療機関へ(予約が必要である場合)

外国語で可能な予約方法を教えてください。(該当するものすべてに○)

電話 ファックス 電子メール

4) 県内各地の外国人住民向け広報誌やホームページ(県ホームページ、県 JET ホームページ等)に、上記情報を掲載してもよろしいですか。

はい いろいろ

5) その他の情報やご意見などありましたらお書きください。

掲載事例一覧

事例名称	提供者	連絡先
英語指導用ビデオ教材作成	村山市（山形県）教育委員会 学校教育課	0237-55-2111(代)
中学生の海外派遣研修に係る国内事前研修	玖珠町（大分県）教育委員会 学校教育課	0973-72-7150
小学校英語指導法研修会	吉見町（埼玉県）教育委員会	0493-54-1511(代)
英会話教室	砥部町（愛媛県）教育委員会 学校教育課 砥部町中央公民館	089-962-4820 089-962-4822
親子教室への ALT 派遣	長島町（鹿児島県）教育委員会 学校教育課 長島町 保健衛生課	0996-88-5511(代)
小学生を対象とした夏休み英語教室	江府町（鳥取県）国際交流協会 江府町 教育委員会	0859-75-6111 0859-75-2223
国際理解出前講座	山形県 文化環境部県民文化課国際室	023-630-2123
異文化交流講座・料理編	坂井市（福井県）教育委員会 三国教育分室	0776-82-6400(代)
国際交流キャンプ	館山市（千葉県）企画部企画課	0470-22-3147
外国人向け英文情報誌の作成	旭川市（北海道）国際交流委員会	0166-25-7491
観光立村事業での活用	立山町（富山県）産業観光課	076-463-1121(代)
奈良県 JET 青年連絡協議会	奈良県 企画部観光交流局文化国際課	0742-27-8477
英語でハイキング	滋賀県 商工観光労働部国際課	077-528-3062
「ブラジル人学校における日本の生活・文化講習会」－第2回／交通安全教室－	岐阜県 総合企画部国際課	058-272-1111(代)
消防組合職員対象の英会話教室	弘前市（青森県）教育委員会 指導課 弘前地区消防事務組合	0172-82-1644
小・中・高校の連携による英語劇指導	愛知県立御津高校 愛知県教育委員会	0533-75-4155 052-954-6787
適応指導教室への ALT 派遣	伊賀市（三重県）教育委員会 学校教育課 伊賀市教育研究センターふれあい教室	0595-22-9677 0595-24-0783
市民への英会話テレホンサービス “ハローフランス”	三木市（兵庫県）教育委員会 学校教育課	0794-82-2000(代)
学童保育への JET 派遣「めだかの学級」	行橋市（福岡県）教育委員会 学務課指導室	0930-25-1111(代)
英語ガイドボランティア団体との交流	上田市（長野県）教育委員会 子ども教育課 ボランティア英語観光ガイド上田 EGG	0268-22-4100(代)
外国語での対応が可能な医療機関のデータベース化	新潟県 知事政策局国際交流課	025-285-5511(代)

なるほど！ JET 活用マニュアル ～全国の事例から～

平成 19 年 2 月 28 日発行

発行 財団法人自治体国際化協会
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3 丁目 3 番 2 号
新霞が関ビル 19 階
電話 03-3591-5487
F A X 03-3591-5350
ホームページ <http://www.clair.or.jp>
印刷 プリンテックス株式会社

時は流れています。

宝くじの当せん金の支払いには、
支払い開始日より1年間という期限があります。
期限切れになる前にしっかり調べて、換金を。

宝くじの収益金は、
身近な街づくりに役立っています。

宝くじ



財団法人 日本宝くじ協会

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。

<http://www.takarakuji.nippon-net.ne.jp>

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。